勝智院。境内千五十三坪、内三百四十四坪、除地七百六坪、年貢地。靈巖寺屋敷の東の方にあり。新義眞言宗。龜戸村普門院の末なり。愛宕山大島寺と號す。慶長元年〇紀元二五六年。の起立なるよしは、ものに見えたれど、寺傳に開山起立とも詳ならぬといへり。中興の開山を榮鑁と云。延寶五年〇紀元二三三七年。十二月八日示寂せり。本尊大日如來を安す。

愛宕社。門を入て左の方にあり。寺僧の話に、當社は昔此村の鎭守に勸請せしなれは、寺の山號ともなしたるを、後いつの頃よりか、誤りて稲荷を村の鎭守となし、當社をは祀らざる事となれりと。今はわづかの祠なり。

女木塚。愛宕社の側にあり。俳人芭蕉詠をる處の句を刻し、その上に女木塚と題せし石標を立。その來由を詳にせず。

稲荷社。客殿の東にあり。宮造にて、七尺四方の社なり。前に石の鳥居一基を立つ。——葛西志

勝智院。愛宕山ト號ス。新義眞言宗。龜戸村普門院末。開山ヲ榮鑁ト云。延寶五年死ス。寺地三百五坪七合五勺。

稲荷神社。村〇大島村。ノ鎭守ナリ。境内二百十坪、租稅地。

愛宕神社。社地百二十坪。是亦村〇大島村。ノ鎭守ナリ。——東京府志料

稲荷社。本村〇大島村。東部小名木川ノ北岸ニ在リ。社地東西九間、南北十九間一尺八寸、面積百七十二坪二合。倉稲魂命ヲ祀ル。祭日九月十九日。

愛宕神社。稲荷社ノ少シ西方ニ在リ。社地東西八間三尺、南北三間三尺、面積四十六坪七合。迦具突命ヲ祀ル。祭日九月十九日。葛西志云、此社昔ハ村ノ鎭守ニシテ、勝智院ノ山號ニモ加ヘシカ、後誤テ稲荷社ヲ鎭守トセショリ此社ヲ祀ラサリシト。維新以後ハ兩社共ニ鎭守トナセリ。社側一小塚アリ。塚上碑ヲ建テ、俳人芭蕉詠スル所ノ句ヲ刻シテ、上ニ女木塚ト題セリ。然トモ今其來由ヲ詳ニセス。

勝智院。愛宕神社ノ稍北ニ在リ。社地東西十一間三尺、南北二十三間、面積二百六十六坪八合。新義眞言宗。龜戸村普門院ノ末派ナリ。慶長元年丙辰創建。僧榮鑁ヲ以テ中興開山トス。——東京府志料

太郎稲荷神社は、小名木川丸八橋の北畔に在り。一に勝智稲荷と稱す。上下大島の鎭守なり。入口に石の鳥居あり。明治二十五年九月十五日建る所。社殿は南面し、銅葺にて千木を揭げたり。

勝智院は、太郎稲荷神社の西隣に在り。愛宕山と號す。眞言宗新義派にして、龜戸町普門院の末なり。開山は榮瓊。延寶五年十二月十八日寂す。もと太郎稲荷神社の別當たり。

當寺に安置せる弘法大師は荒川邊八十八ケ所第七十六番の札所なり。

愛宕神社は、太郎稲荷の西隣に在り。瓦葺の小社なり。稲荷神社と同じく大島の鎭守神なりといふ。——東京近郊名所圖會

龜有光明寺（眞言）草創

龜有〇葛飾區龜有町四丁目。ノ眞言宗光明寺ハ慶長元年丙申〇紀元二五六年。ノ起立ニシテ、僧榮保ヲ開山トナセリ。

光明寺。同宗。〇新義眞言宗。同末。〇青戸村寶持院末。紫雲山瑞泉院ト號ス。慶長元年ノ起立ニシテ、開山ヲ榮保ト云。本尊彌陀。——新編武藏風土記稿

光明寺。境内除地三反三畝十八歩。惠明寺の東に有。當寺も新義眞言宗にて、青戸村寶持院の末なり。紫雲山瑞泉院と號

す。慶長元年法印榮保の起立する處と云。本尊阿彌陀如來を安置す。

光明寺。紫雲山ト號ス。本山前寺ニ同シ。（○寺島蓮花寺。）慶長元年ノ起立。開山ヲ榮保ト云。寺地三百七十八坪。

——葛西志

光明寺。村（○龜有村。）ノ□□字□□ニ在リ。寺地東西二十六間二尺四寸、南北十八間九寸。面積四百七十九坪。

——東京府志料

同上宗（○新義眞言宗。）同寺（○寶持院。）ノ末派ナリ。慶長元年丙申創建。僧榮保開山。

——東京府村誌

小谷野（○葛飾區小谷野町。）ノ眞言宗寶性院モ亦同年（○慶長元年丙申、紀元二二五六年。）僧元鐘ノ開基ナリ。或ハイフ、元龜元年庚午（○紀元二二三〇年。）僧亮歡ノ草創ナリト。孰カ是ナルヲ知ラス。（○新編武藏風土記稿。葛西志。東京府志料。）

東京府村誌。

寶性院。同宗。（○新義眞言宗。）同末。（○普門院末。）熊野山ト號ス。本尊大日ヲ安ス。慶長元年元鐘ト云僧開基セリ。

——新編武藏風土記稿

寶性院。（境內除地二百五十九坪。）金藏院の東に隣れり。新義眞言宗。村內普門院末。熊野山と號せり。開山及び起立の年歷を傳へず。本尊大日如來を安置す。

——葛西志

寶性寺。明王山ト號ス。新義眞言宗。寺島村蓮花寺末。元龜元年僧亮歡ノ草創ナリ。寺地五百三十坪。

——東京府志料

寶性寺。村（○小谷野村。）ノ西方新綾瀨川ヲ隔テ、字南川耕地ニ在リ。寺地東西十八間、南北十八間、面積三百十六坪。新義眞言宗。寺島村蓮華寺ノ末派ナリ。元龜元年庚午僧亮歡草創シ、歡空之ヲ中興ス。

小谷野寶性院（眞言）

稻荷社。村ノ西北方字臺耕地ニ在リ。社地東西三十六間南北六間四尺八寸、面積四十六坪。倉稻魂命ヲ祀ル。村ノ鎭守ナリ。祭日二月初午日。

——東京府村誌

高畑（○蒲田區高畑町。）ノ眞言宗泉藏院ハ開山開基ヲ詳ニセズ、從テ草創ノ時代亦不明ナリ。但中興開山惠俊ガ慶長二年丁酉（○紀元二二五七年。）七月ニ示寂セルニヨリテ、其以前ノ起立タルヲ知ルノミ。（○新編武藏風土記稿。東京府志料。東京府村誌。）

泉藏院。境內除地二段九畝。寶幢院ヨリ少シ西ヘ寄テアリ。新義眞言宗。寶幢院ノ末寺ナリ。西光山福泉寺ト號ス。開山開基詳ナラス。中興開山ハ法印惠俊。慶長二年七月十三日寂セリ。客殿六間ニ四間半。本尊大日如來ヲ安ス。作知レス。座像ニシテ、長一尺二寸許。境內ノ北ニ往來アリテ、其北ニ墓地アリ。見捨地五畝十八歩アリ。

神明社。見捨地三畝二十二歩。村ノ西ノ方ニアリ。ワツカナル祠ナリ。祭禮年々九月十六日。神樣ヲ奏ス。村內泉藏院ノモチナリ。

稻荷社。見捨地二十四歩。同所ニアリ。此モ小祠。泉藏院ノ持。

天王社。見捨地一畝十八歩。村ノ西北ノ境ニアリ。小祠ナリ。祭禮年々六月七日。是モ泉藏院ノ持ナリ。

辨天社。見捨地一畝十九歩。西ノ方ヘ寄タル小祠ナリ。泉藏院ノモノナリ。

水神社。見捨地三畝二十九歩。村ノ南多磨川ノ岸ニアリ。小祠ナリ。是モ泉藏院持。

天滿宮。見捨地一畝十七歩。村ノ西方ニアリ。小祠。泉藏院ノ持ナリ。

——新編武藏風土記稿

泉藏院。寶幢院ノ北ニ在リ。寺地東西十二間、南北四十一間、面積四百九十五坪。寶幢院末派。創建年月詳ナラス。中興ノ僧惠俊慶長二年丁酉寂ス。　——東京府村誌

三田ノ禪刹慈眼寺ノ草創ハ詳ナラザルモ、慶長二年丁酉（○紀元二五七年。）示寂ノ僧玉翁ヲ開山トシテ、八町堀ニアリシトイヘバ、略ソノ時代ヲ推知ス可シ。（○江戸志。三田寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。）

三田慈眼寺（禪）

慈眼寺事蹟

慈眼寺

普門山慈眼寺。　、禪宗。　八マン山　天龍寺末。　同所。（○中寺町。）　——江戸志

開山玉翁轉大和尚。　武州兒玉郡金屋村天龍寺末、高輪泉岳寺配下、芝中寺町

一、境内御拜領地四百五十坪。

間口三十貳間三尺、奥行十七間四尺五寸。

一、開闢起立之譯。　禪、曹洞宗　普門山慈眼寺

往古者於二八町堀境内拜領仕罷在ゆ由之所、當所ゆ所替被仰付ゆ砌より、數度之類燒こゑる右記錄等不殘燒失仕、悉く相分り不申ゆ。其後文政六癸未正月十二日八ツ半時麻布古川出火こゑる、尚又諸堂燒失仕。尤位牌堂表門計相殘申ゆ。

一、開山玉翁轉和尚。慶長二丁酉四月十三日遷化仕ゆ。當文政十一子年迄貳百四十八年。　——三田寺社書上

本堂。（梁間三間、桁行六間半。）

本尊、十一面觀世音。（坐像、丈二寸四分。惠心僧都作。）

達磨大師。（木像、丈一尺七寸五分。）

七郎大權。（同。）

辨財天。（木像、丈臺共一尺五寸。）

誕生佛。（金像、丈八寸。）

地藏尊。（石立像、丈二尺八寸。）

今上皇帝御尊牌。

御代々樣御尊牌。

永平開山道元禪師。（木像、丈二尺二寸。）

當寺開山之像。（同。）

韋駄天。（木像、丈臺共一尺四寸。）

鎭守稻荷社。（五尺四方。）

翁稲荷大明神。木像、丈六寸五分。

日本大小神祇。

慈眼寺。普門山ト號ス。曹洞宗。本國兒玉郡天龍寺末。モト八町堀ニ草創シ、後此地○三田豐岡町。ニ移レリ。

開山玉翁。寺地四百五十坪。

——續府内備考

慈眼寺。町○豐岡町。東ニ在リ。寺地東西五十九間五尺、南北三十五間三尺。面積五百零八坪八合七夕。禪宗。

——東京府志料

曹洞派。兒玉郡金谷村天龍寺末派。初八町堀ニ創建、後此地ニ移ル。僧玉翁開山。——東京府誌

慈眼寺。　同。○禪宗。　三田豐岡町一八

普門山。

——新撰東京名所圖會

心法寺（淨土）創建

慶長二年丁酉○紀元二二五七年。淨土宗ノ僧然翁、心法寺ヲ麹町○十丁目。ニ創建ス。○江戸雀。再校江戸砂子。江戸志。

江戸名所圖會。麹街略志。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

心法寺事蹟

心法寺

糀町○中略。九町目左横町尾張中納言樣御裏門ヘ出る。右横町五番町ヘ出る。右に眞法寺有。

——江戸雀

常榮山天性院心法寺。　淨土。　赤坂淨土寺末。　糀町十丁メ。

當寺往古境内至て廣く、今の市谷ま及ひしとゝ。鐘の銘に市谷庄常榮山とあり。

聖德太子、閻魔ともに地内にあり。正七月十六日參詣多し。

寺中、　貞松院。　寂勝院。

常榮山天性院心法寺。　淨土宗、　智恩末。

開山、然翁照山上人崇公大和尚。　糀町十丁目

寺中、　貞松院。　寂勝院。

千手觀音。閻浮檀金立像、一寸八分。秦川勝守本尊。　——再校江戸砂子

地藏尊。

往古ハ當寺の境内甚廣しとゝ。源牛若丸奥州下向の時當寺ヘ參詣ありしよし、里談まあり。

貞雄云、當寺ハ市谷の莊の内ゝ。當寺の鐘の銘ホ

延寶四龍集丙辰天夷則三日

武州豐島郡江戸市谷莊山野手常榮山天性院心法寺住世廣蓮社寂譽上人心了路哲大和尚代○下略。とあり。

——江戸志

千手觀世音。同○麹町。九丁目の右側常榮山心法寺といへる淨刹ま安置ま。此靈像ハ秦川勝の念持佛なりと

いへり。閻浮檀金の立像、一寸八分ありといふ。當寺ハ京都智恩院に屬して、本尊ハ阿彌陀如來、惠心僧都の作。開山ハ然翁上人

と號ま。當寺洪鐘の銘ホ市谷庄とあり。觀音堂に閻王十王の像ある故に、正月と七月の十六日參詣多し。

——江戸名所圖會

按まるに江戸名所圖會に堂前に御手植松と云あり。○名所圖會ノ畫面ナリ。今ハなし。天保九年の自火ミ節燒失せし歟。

又弘法大師護魔の灰をもて作りしと云靈驗ある辨天の像も安置あると聞けり。また聖德太子の像もある

と云。

山の手卅三所觀音卅二番。江戸南方四十八ヶ所地藏。

頭註。厩戸皇子守屋ヲ敗リテ後、四天王ヲ尊崇シテ、日本ニ四個ノ四天王寺ヲ建立ス。今攝州ト勢州ニ四天王寺アリ。他ノ二ヶ寺ハ所在ヲ知ラス。心法寺ハ恐ラクハ其一ナラン歟。——麴街略志

心法寺。常榮山ト號ス。淨土宗。京都知恩院末。慶長二年起立。開山然翁。寺地二千百三十五坪。——東京府志料

心法寺。町（麴町十丁目。）ノ東北角ニ在リ。寺地東西十九間、南北十六間、面積四百六十三坪五合八夕。淨土宗。京都知恩院末派。慶長二年丁酉創建。僧然翁開山。——東京府誌

常榮山天性院心法寺は麴町十丁目十八番地に在り。寺域四百六十三坪六八。本尊は阿彌陀如來にして、惠心僧都の作なり。開山を然翁上人といふ。當寺に安置せる千手觀音の靈像は秦川勝の念持佛なりといへり。

本堂は瓦葺にして、屹然として聳ゆ。もと尾張家の殿宇なりしを、こゝに移て改造せしものといふ。實に同町中の巨刹たり。往古ハ境内甚廣く、今の市谷に及びしが、其後あまり廣きに過くるを以て、その幾分を上地せしよし。寺中に貞松院、最勝院ありしが、今はなし。

觀音堂は門内左の方にあり。前に石標を建て、

幾度かまゐる心は法の寺
花のうてなに音樂の夢

といふ歌を彫刻せり。

同寺に就てその沿革調査等の書類を請求せしに、嘗て火災に罹り、古文書は悉く烏有ゑ歸せしを以て其詳細を報道をるに由なしとて、その錄上書等を寄送せられたれば、左に之を掲ぐ。

東京市麴町區麴町十丁目十八番地
京都智恩院末
淨土宗　心法寺

一、本尊阿彌陀佛。

一、由緒、推古天皇御宇秦河勝祈願する所ありて、三河國宮崎邑に一宇を造り、三論宗秦寶寺と云ふ。文明三年淨土宗ゑ改宗す。天正年間住持然翁上人德川家康公の特命を以て黑本尊（今增上寺護國殿に奉安せり。）を陣中に供養せ。慶長二年今の地を賜はり、一宇を建立し、本國宮崎の佛寺を移し、更に淨土宗心法寺と云ふ。故に開山を然翁上人とし、開基を德川家康公となを。經年二百八十九年也。寬政天保等の回祿の災に罹り舊記等無く、故に古老の口碑と一二の筆記に依り略記す。（明治十八年五月三十一日の現況を以て、同年六月十二日東京府へ書上たるもの。）

（二）開山然翁上人聖山宗貞大和尙（慶長十巳年七月廿八日寂。）の黑本尊供奉の事蹟は三緣山藏黑本尊の緣起の中に見へたり。

（二）緣山志の著者覺齋竹尾善筑翁は、天保九年七月中、心法寺歷代の位牌を心法寺に納めらる。其位牌の裏面に左の一文を漆記しあり。

推古天王御宇。秦川勝爲ニ本願主一。於ニ領地三河國宮崎鄕一。起ニ創秦寶寺矣。文明三年有ニ故止舊學一。爲ニ淨土宗深草派一也。天正年中住持然翁剃ニ染山中法藏寺一而住職之。改ニ心法寺一。嘗奉ニ東照宮命一。供ニ奉濱松

駿府。常爲黑本尊且御先祖方御供養勤也。關東御入國之後。從在御城中。（今之西丸）八年。慶長二年賜今地創建當寺。及然翁遷化依御諚增上寺觀智國師選擢祖吟。數白旗流。仍稱二世中興焉。寛政中依麻布笄橋失火類燒。漸再修輪奐。天保九年戊戌閏四月四日夜。自湯浣場起火。延及類街。此時但出本尊一體。餘多少靈牌舊記書帳資什器類法俗服具無遺也。予嘗瞻認當山歷世師名等。以故納牌而充朝晩供養之次序而已。

天保九年七月吉辰

檀主　覺齋竹尾善筑源次春謹識

(三)、安政年中政府より本山に命して、其末寺院の梵鐘の有無及其鑄造沿革等を取調たることあり。其當寺より差出たる調書は左の如し。

一、拙寺梵鐘の儀は、慶長二酉年申起立の節、開山然翁蒙仰三州幡豆郡宮崎鄕に及大破候奉寶寺本尊並堂宇梵鐘とも當地へ引移し、再建仕候。其往古の梵鐘は經年曆及破損候故、延寶四丙辰年中、五代目寂譽路哲於自坊庭上鑄直し候事、鑄銘にも且又書留にも記し有之。當卯年まで百八十年餘に相成申候。此段御屆奉申上置候。以上。

安政二卯年十二月十六日

麹町心法寺印

增上寺御役者中

銘曰

洪鐘震響覺群生。　聲徧十方無量土。　含識群生普聞知。　拔除衆生長夜苦。

六識常昏終夜苦。　無明破覆久迷情。　晝夜聞鐘開覺悟。　怡神淨刹得神通

爰今有來之梵鐘及破損。是以某寂譽可令再建願望切。而延寶四丙辰天從仲頃諸萬人之企勸進奉加依令成就。同歲七月初三日當山於于庭上鑄之立畢。

右者

朝々暮々　天長地久

今上皇帝

東君萬々歲

請檀那爲現當二世無比安樂也。

治工　江戸神田鍋町御鑄師　椎名伊豫藤原朝臣吉寛作

武州豐島郡江戸市ヶ谷庄山野手

常榮山天性院心法寺住世

廣蓮社寂譽上人心了路哲大和尙代

此鐘樓は今猶ほ現存し、本堂の南東に在り。江戸名所圖會の挿圖に據は、本堂より西の方裏門に出る途中左側にありしなり。

——新撰東京名所圖會

大圓寺（禪）草創

同年（慶長二年丁酉紀元二二五七年。）禪僧正雄（久山。）大圓寺ヲ柳原ニ草創ス。慶安二年己丑（紀元二三〇九年。）駒込（東片町。）ニ移ル。（駒込寺院書上。東京通志。新撰東京名所圖會。）

大圓寺事蹟

大圓寺

拜領地。四千三拾貳坪餘。

慶長二丁酉年、柳原ニゐ拜領仕ハ。其時ミ御奉行御役人中ゑ相知不」申ハ。○中略。

一、曹洞宗。上州館林茂林寺末。

一、金龍山大圓寺。開闢起立、慶長二丁酉年也。

一、本尊、木佛、釋迦如來。座像、身丈、壹尺七寸。

一、茂林寺十二世當寺開山久山正雄和尚。事蹟相知不」申ハ。寛永七庚午年四月廿二日遷化。

一、當寺開基、一閑宗喝居士。俗名相知不」申ハ。萬治二己亥年九月二日卒去。石河數馬殿先祖也。

一、鐘。

鐘銘　並引。

大凡禪林禮樂係二于法器一。法器之中鐘爲二之最一焉。武陽江左金龍山大圓禪寺者久山雄和尚手闢之道場也。曾有二成學久圓居士者一、篤信二佛乘一所以範圍喜捨堂前以薦二其配任譽妙運大姉追福一也。自時厥後炎涼代謝、一時罹二祝融災一。○下略。

一、當寺塔司。大龍庵。

往古ゑ御座ハ由聞傳へ申ハ得共、何頃ゑ廢寺ニ相成ハ哉、相知不」申ハ。

一、當寺塔司。月琴庵。起立、寛永四丁卯年也。

大圓寺二代當庵開山太巖正麗和尚。寛永六己巳年五月廿五日遷化。

——駒込寺院書上

金龍山大圓寺。

本郷區駒込東片町ニアリ。域内千五百貳拾八坪。曹洞宗。慶長二年丁酉石川某數馬。神田柳原ニ創建シ、上野館林茂林寺十二世僧正雄久山。ヲ以テ開山トナス。正雄寛永七年四月廿二日寂ス。慶安二年己丑今ノ地ニ移ス。

——東京通志

大圓寺。金龍山ト號ス。曹洞宗。上州館林茂林寺末。慶長二年柳原ニ創立ス。慶安二年今ノ地ニ移ル。

——東京府志料

開山正雄。開基一閑。寺地四千三十二坪。

大圓寺。駒込東片町六十六番地にあり。金龍山と號す。曹洞宗通幻派の小本寺にして、上州邑樂郡館林茂林寺の末派なり。久山正雄大和尚寛永七年遷化。を開山とし、慶長二年神田柳原に創建し、慶安二年此地ゑ移る。堂後に仁德天皇御陵と言傳へたる古塔あり。門前ゑ炮烙地藏あり。

——新撰東京名所圖會

西蓮寺（淨眞）草創

同年○慶長二年丁酉、紀元二二五七年。浄土眞宗ノ僧宗誓○一ニ修誓ニ作ル。櫻田附近ニ西蓮寺ヲ創ム。後轉々シテ三田ニ移ル。○江戸砂子。江戸志。社書上。續府内備考。御府内寺社帳。三田寺東京府志料。東京府誌。

西蓮寺事蹟

西蓮寺

西蓮寺。

東。　三田寺町。

西蓮寺。　東本願寺末。　——江戸砂子

關東首都時代

一向宗。　同所。○横三田。

開基。

拜領寺社帳、境内七百貳坪、内三百五拾坪年貢地。借添。三田寺町西蓮寺。　——御府内寺社帳

京東本願寺末、三田寺町

浄土眞宗　白鳥山西蓮寺

境内三百五拾二坪拜領地

地續町並抱地　二ヶ所

但九十坪餘。四十六坪餘。

一、當寺開山宗誓。西蓮寺起立之儀ハ慶長二丁酉年武州豐島郡江戸櫻田邊於地所拜領仕候。尤書記殘失仕、坪數年號住居仕ら場所相分り不申ハ。其後御用地之相成、西之久保天德寺表門前邊ハ轉地被仰付、猶又御用地ニ相成ハニ付、同所城山下ハ引地被仰付ハ。右之場所新道切り開ニ付、當時住居之地麻布領於三田村三百五十二坪拜領仕、明暦元未十二月引移り住居仕罷在ハ。猶又地所手狹ニ付、於地續町並買添地東方間口五間、裏幅同斷、奥行十九間二尺餘、北之方間口七間、裏幅同斷、奥行六間四尺。右二ヶ所爲火除抱地圍込ニ仕度段、寺社御奉行太田攝津守樣ハ奉願ハ處、御調之上新地御改建部荒治郎殿ハ御達有之、右御同人御見分之上、文政九戌年七月中願之通被仰付ハ。

一、當寺開山宗哲生國俗姓相知不申ハ。入寂承應元壬辰年十月十三日。年齡相知不申ハ。

——三田寺社書上

本堂。間口七間、奥間六間半。

本尊、阿彌陀如來。木像、長一尺七寸。

右本尊並寺號免許裏書、元和元庚申四月十三日本願寺宣如上御筆。

親鸞聖人畫像。

裏書、元和元庚申五月二日本願寺宣如上人眞筆。

上宮太子畫像。

裏書、寛永七庚午三月廿一日本願寺眞如上人眞筆。

三朝七高僧畫像。

裏書、同前。

本願寺一如上人畫像。

裏書、本願寺眞如上人眞筆。

宗祖聖人繪傳。

裏書、同前。　四幅。

東照宮樣尊牌。

俊明院樣尊牌。

右之外御代々之尊牌手狹ニ付合牌ニ仕安置致ハ。

大鐘。高三尺五寸五分。口幅二尺五寸。

寶永四丁亥年三月廿八日臨階代造之太鼓。口幅一尺八寸八分。

——續府内備考

西蓮寺。白鳥山ト號ス。眞宗。京都本願寺末。慶長二年櫻田邊ニ草創シ、後所々ニ轉シ、明暦元年此地○三田北町。ニ移レリ。開山宗哲。寺地三百五十二坪。

——東京府志料

西蓮寺。町○三田北寺町。北ニ在リ。寺地東西二十三間、南北十六間、面積三百四十坪六合六夕。眞宗。京都東本願寺末派。慶長二年丁酉櫻田邊ニ創建。後西久保ニ移リ、明暦元年乙未此地ニ移ル。僧修誓開山。

——東京府誌

盛德寺（禪）草創

麻布○今赤坂。ノ本氷川社ノ創建ハ明ナラズ、ソノ別當タル禪刹盛德寺ハ慶長二年丁酉○紀元二二五七年。ノ草創トイフ。後承應三年甲午○紀元二三一四年。社寺トモニ轉地セリ。○江戸砂子。麻布寺社書上。東京府誌。承應三年ノ條參照。

迦葉山盛德寺。

氷川別當、

本村。

——江戸砂子

麻布今井村

本氷川明神。

一、社地拜領地。舊地ニ儀ハ溜池松下備前守樣屋敷内ト申傳ハ得共、信否相知不申ハ。

舊地拜領年月不知、替地拜領承應三甲午年御座ハ。○中略。

一、鎭座勸請ニ儀ハ深遠ニ付相知不申ハ。

禪、曹洞宗　迦葉山盛德寺

一、境内拜領地坪數氷川社地共都合九百貳拾坪。

舊地拜領ハ年月不知。替地拜領ハ承應三甲午年相違無御座ハ。

一、開闢起立ニ儀ハ慶長二酉年御座ハ。○下略。

一、開山南谷梵汲和尙遷化ハ正保元甲申年九月五日。

——麻布寺社書上

氷川神社。明治元年勅祭ニ准セラル。同五年五月十日鄕社トナル。祭神素盞嗚尊大己貴命奇稻田姬命。

鎭座年代詳ナラズ。享保十四年マデ赤坂一ツ木町ニアル事七百六十年餘、或ハ千四十年餘トモ云。○下略。

盛德寺。町○氷川町。西ニ在リ。○中略。禪宗曹洞派、上野國利根郡沼田村龍華寺末。慶長二年丁酉創建。僧梵汲開山。

迦葉山盛德寺。氷川町○赤坂區。二十九番地に在り。氷川神社裏手の崖下に當れり。當寺は上野國利根郡上發知村迦葉山龍華院末なして、慶長二丁酉年九月信州松代の城主信濃守眞田幸民公の創立、開山は南谷梵汲和尙なり。

——東京府誌

本氷川社。町○赤坂氷川町。西ニ在リ。社地東西十四間南北二十間零三尺、面積二百零一坪九合五勺。舊地及創建年月詳ナラズ。承應三年甲午此地ニ移ル。

——東京府志料

大法寺（法華）草創

慶長二年丁酉○紀元二二五七年。法華僧日利、大法寺ヲ麻布○一本松町。ニ草創ス。○江戸志。麻布寺社書上。續府内備考。東京新撰東京名所圖會

府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

大法寺事蹟

大法寺

大法寺。

開基、

房州長狹郡小湊誕生寺末、麻布一本松

日蓮宗　榮久山大法寺

同所。○櫻田町。

——江戸志

一、御年貢地境内貳百拾五坪。

但シ開闢起立ミ譯引地代地等ミ儀相知ゝ不ゝ申ゝ。

一、開山慈眼院日利聖人。慶長十九甲子年十一月十三日遷化。

——麻布寺社書上

本堂。二間半、梁間四間。

本尊、宗法ミ通諸尊安置。

半鐘。

寶曆八寅年七月十六日納、時ミ現住日地代願主彦右衞門針屋彌兵衞井桁屋伊兵衞。

鎭守堂。

内陣土藏。二間ニ二間半。　拜殿。梁間二間三間半。

大黑天。木座像。

右緣起左ミ通、

抑當寺に安置し奉る三神具足大黑天ゝ傳教大師ミ御作ゝして、昔桓武天皇の御宇、王城鎭護ミ法主として比叡山を建立し給ふ初める大黑天を信敬し給へゝ、示現ゝありて對話し給ひ、感應有し事ゝ諸所の舊記ゝゝゝるせゝ。然るに此尊像當寺に安置し奉る由來ゝ、當寺第五世妙乘院日亮上人師匠日舜の教ゝ依て常に大黑天を信仰し奉ゝ、旦靈作の尊像を感得せんと祈願他事なかゝし所、師匠東漸院日舜上人ゝ頗る道行の譽れあゝ、野呂ゝ學校ゝおゝて法華玄義を講し、化導の功終りて、武江麻布に閑居し、妙經の讀誦を企、既ゝ三萬部成就供養ゝ儀式事畢ぬ。其夜壹人ゝ高僧紫の衣に紫の袈裟を着し、手に大黑天の靈像をさゝげ持、日舜の枕ゝ立て告て曰、汝三萬部讀誦ゝ功德廣大無邊之、まゝのみならず常に大黑天を信仰し、人にも勸めて此尊神を恭敬供養し奉る事、尤賞美するにゝへたり、故ゝ今此尊像を授與す、幸に汝ゝ弟子日亮一寺の住職たれゝ、宜彼ゝゝゝゝゝゝゝゝて道場擁護靈場となし奉るべしとの瑞夢を蒙り、隨喜感歎して、いそぎ晨鐘の讀經を初めける時ゝ、机の上ゝ大黑天の像あり。日舜おもへらく是まさしく夢中の示現ゝ違ふとなしと、信仰ます〳〵厚かりし。その夜日亮も亦希有の瑞夢を蒙り、老師日舜ゝ語らんと、翌朝つとゝ起て師匠日舜の草庵ゝ來り、右の趣を語り、互に歡喜踊躍して、夢中の告ゝ任せ、即時に日亮ゝさつけて、榮久山大法寺鎭護の尊像となさしむ。一兩日過て、麻布六本木代々橘姓なる舊家伊勢屋長左衞門といへる者來り、日亮ゝまみへ語て曰、某常ゝ大黑天を信し、傳教大師眞作の一躰三身ミ尊像を傳へ持てり、然れども俗家ゝ穢れを恐れて扉をひらかず、しかるに去る七月朔日の夜の夢に尊像顯れ給ひ、某ゝ頂を撫て告てのゝまゝく、汝我を信して多年恭敬する事至れり盡せり、故に我も亦汝を守護する事影の形ちゝまゝがふゝ如し、まゝのりといへ共只汝ゝ家ゝ在りてゝ一家の鎭護にしてあまね

く一切衆生に結緣なし、何とぞ法華弘通の寺に住て萬民四衆の爲に結緣をなさしめんとす、此所より五六町を過に南の方ゑ寺あり、我かしこに住せん本願今既ゑ時至れり、汝すみやかゑ扉を開け、直ゑ希代の瑞相有べしとの靈夢を感して、則教のごとく寶殿の扉を開くに、尊像い見へ給むす、むなしき宮殿のみ殘れり、旦驚き旦信じて思ふ樣、是則尊天自ら法華の道場ゑ移り給ふ也と、速ろに尊躰鎭座の伽藍を尋ね、件の趣を告て傳教大師眞作有驗の靈像なる事をあきらのにせんと欲して、近所の寺を尋るにいまたその感應を聞ず、當山ゑもかくのとくの夢合せなしやと問ふ。日亮その物語を聞て、感涙肝ゑ銘し、師匠幷自分夢中の奇瑞を語り、かの尊像を出して合掌禮拜せしむ。長右衞門則拜し奉るゑ、年來所持せる處の靈像ゑ。手を打て感歎し、涙を流して隨喜す。則日亮ゑ屬して曰、尊天の御神力不思儀の感應何事ゑ是ゑ加へん、神慮既ゑ此寺ゑ住して普く萬民を守らんと思召す、永く當寺の守護神となし給へとて、信仰さらに輕からす。日亮則長左衞門が證據を得て、師匠日舜師弟ともに相歡、永く當寺に鎭座なし奉り、天下泰平萬民快樂所願滿足の擁護を仰き奉るそのゑ、三神具足といふい大黑天毘沙門天辨才天三天一躰の尊像ゑ、是則傳教大師法華弘通ゑ道師として、圓融三諦の妙理を表し、一心三觀の圓行にかゑと を給ふ靈像ゑ。開運といふい此尊像運を開き災難を拂ひ幸ひを得せしめ給ふ。此尊像ゑ祈請し官祿を求め立身出世し利益ゑ預るし事、爰ゑまるすにいとまあらず。故に世こぞつて立身出世の大黑天とも申奉る。經ゑ曰、福聚海無量是故應頂禮と。まろれば此尊像を信し恭敬せば、壽福愛敬萬德圓滿ひゞきの聲ゑ應するが如くならんとまろいふ。

左、鬼子母神。木立像。

右、七面大明神。木座像。

右ゑ三代目日亮勸請ゑ御座ゐ。

大法寺。榮久山ト號ス。日蓮宗。安房國小湊誕生寺末。開山日利。慶長十九年寂ス。境內二百十五坪、租稅地。——續府內備考

境內ニ大黑天アリ。甲子ノ日ハ參詣ノ者少カラズ。——東京府志料

大法寺。町（一本松町。）ノ西北ニ在リ。寺地東西十五間三尺、南北二十間。面積二百十五坪。法華宗。安房國誕生寺末。慶長二年丁酉創建。僧日利開山。——東京府志

榮久山大法寺。　同。（法華宗。）　十五番地。（一本松町。）——新撰東京名所圖會

大淵寺（禪、後大圓寺）草創

同年（慶長二年丁酉、紀元二二五七年。）禪僧桂察（諦巖。或ハ龍負。）大淵寺ヲ櫻田溜池邊ニ草創ス。寛永年間芝伊皿子ニ移リテ大圓寺ト改稱スルモノ是ナリ。（高輪邊寺社書上。東京府志料。東京府誌。）

本寺、牛込　保善寺末。
禪、曹洞派　芝、伊皿子　泉谷山　大圓寺

一、拜領地、七千五百五拾五坪。
當寺開山諦巖桂察和尙儀、本寺保善寺開山蟠龍門龍和尙ゑ徒弟ニゐ、越前國永平寺開山ゐ十七世ゑ法孫ニゐ御座ゐ。俗姓ゑ儀ゑ甲州武田家ゑ臣土屋氏ゑ孫ニ御座候。元和四年戊午二月二日遷化仕。當文政十

一年戊子迄貳百拾壹年ニ相成申ハ。

一、慶長二年丁酉二月十一日（此頃開山桂察和尚溜池邊に草庵住居と由申傳ハ。）東照神君様御前ニ被召出、折々法話等聞召、御懇ニ奉蒙上意、其砌櫻田溜池邊ニ神君様被爲成ハ節、御杖を以四方ニ境を御定被下置、則寺地ニ拜領仕ハ、梵刹を草創仕、山號を泉谷と仕、寺號之儀を大淵と仕ハ。然所寛永十八年桶町ゟ出火ニ節諸堂不殘類燒仕ハ。其砌右ニ寺地御用地ニ被召上、右爲代地ニ於當所七千五百五十五坪拜領仕ハ。其節寺號ニ淵ニ字を改、大圓寺ト仕ハ由申傳ハ。

——高輪邊寺社書上

大圓寺。泉谷山ト號ス。曹洞宗。牛込保善寺末。慶長二年溜池邊ニ草創シ、後此地（伊皿子町。）ニ移レリ。開山桂察。寺地七千五百七十坪。

——東京府志料

大圓寺。町（伊皿子町。）南ニ在リ。寺地東西一町十三間、南北一町十間。面積四千七百二十一坪二合。禪宗、曹洞派。牛込通寺町保善寺末派。慶長元年丙申創建。僧桂察開山。

——東京府誌

本所實相寺（法華）草創

同年（慶長二年丁酉、紀元二二五七年。）法華僧日證、實相寺ヲ本所（東駒形二丁目。）ニ起立ス。（再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。續府内備考。葛西志。）

東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

實相寺事蹟

實相寺

是應山實相寺。　日蓮宗。

本土末。　あら井丁。

——再校江戸砂子、江戸惣鹿子

本土寺末。　同所。（北本所荒井町。）

開山、慶長二丁酉年起立。

下總國本土寺末。

是應山實相寺。（境内除地二百四拾四坪。）　北本所表町。

——江戸志

起立者慶長二丁酉年ニ御座ハ。

開山今藏院日證。寛文六丙午年七月八日卒。

客殿、（梁間三間。桁行五間。）

釋迦、多寶。（坐像丈八寸。）　日蓮大士。（坐像丈八寸。）

日蓮大士。（坐像、丈一尺一寸五分。厨子入。）

鬼子母神。（立像、丈三尺二寸。厨子入。）

見（是カ。）應山ト額字。

擁護殿ニ額字。（尾州犬山城主成瀬氏藤原正典淨翁前人道書。位牌堂ニ掛有之。）

鎭守社。（間口二間、奥行三間。）

稲荷大明神。（白狐ニ乘像、丈四寸。）

大黑天。（立像、丈五寸三分。）

實相寺は同町（本所表町。）十番地ニ在り。是應山と號ス。日蓮宗にして、本土寺の末なり。慶長二年日證上人の建設ニ係る。

——續府内備考

門頭に頭痛虫封毎日、中山相承祈禱所と標示す。

鬼子母神堂。本尊は傳教大師の作なりといふ。

祖師堂。日蓮岩懸の像を安置せ。
熊谷堂。熊谷文殊菩薩を安置せ。
實相寺。境内除地二百四十四坪。最勝寺の東の方往還の南側にあり。法華宗。平賀本土寺末。是應山と號せ。開山今藏院日證。慶長二年當寺を開き、寛文六年○紀元二三六年。七月八日寂せり。本尊三寶祖師を安置せ。
熊谷稲荷社。門を入て左の方に有。熊谷の稱號詳ならぜ。
——葛西志
實相寺。是應山ト號ス。日蓮宗。本寺前ニ同シ。○平賀本土寺末。慶長二年ノ起立。開山ヲ日照ト云。寺地二百十四坪。
——東京府志料
實相寺。本町○表町。ノ西ニ在リ。寺地東西十八間、南北三十二間、面積二百四十四坪。日蓮宗。下總國本土寺末派。慶長二年丁酉僧日證開山。
——東京府誌

日黒本立寺（法華）草創

同年○慶長二年丁酉、紀元二二五七年。法華僧日惺、本立寺ヲ上目黒ニ草創ス。○新編武藏風土記稿。高輪二本榎通寺社書上。

本立寺。○中略。法華宗。池上本門寺末。妙建山ト號ス。慶長二年○紀元二二五七年。本寺十二世佛乘院日惺、上目黒村ニ起立ス。其後衰微シテ住僧モナク、當所○下大崎。惠性寺ヨリ兼帶セリ。然ルニ貞享四年○紀元二三四七年。新地ノ寺院ヲ廢セラレシ時、惠性寺ハ正保四年○紀元二三〇七年。ノ起立ナレハ則廢セラル。此時住持日演公ニ願ヒ、本立寺ノ山寺號ヲ廢蹟ニ移シ、同寺二世以下住僧ノ名ヲ除キ、惠性寺開山性澄院日通ヲ第二世トシテ相續ス。○下略。貞享四年ノ條參照。
——新編武藏風土記稿
一、往古、上目黒村本立寺開山は、池上十二代の祖佛乘院日惺上人よして、慶長二年此草創なり。
——高輪二本榎通寺社書上

井草觀泉寺（禪）草創

同年○慶長二年丁酉、紀元二二五七年。今川範英○刑部大輔。禪僧雄鶩○徹叟。ヲ開山トシテ、觀泉寺ヲ井草○杉並區今川町。ニ草創ス。○新編武藏風土記稿。武藏通志。東京府村誌。

觀泉寺事蹟

觀泉寺

觀泉寺。除地千八百九十坪。村○上井草村。ノ東ノ方小名八町ニアリ。寶珠山本井院ト號。禪宗曹洞派ニテ、本鄕村成願寺末。寺領御朱印十石ヲ附セラル。地頭ヨリ六町歩ヲ寄附ス。其地ハ井草村ニアリ。開山ヲ徹叟雄鶩ト云。寛永十二年九月十三日寂ス。開基ハ詳ナラス。
表門。客殿ノ正面ニアリ。
客殿。九間ニ七間。南向。本尊釋迦ノ座像。長一尺五寸ナルヲ安ス。
鐘樓。門ヲ入テ右ノ方ニアリ。二間四方。鐘ノワタリ二尺四寸五分、高サ四尺八寸。近キ頃ノ物ナリ。
觀音堂。門ヲ入テ左ノ方ニアリ。二間ニ一間半。東向。觀音ノ像ハ立體ニテ、長一尺三寸。
閻魔堂。觀音堂ノ並ニアリ。三間半ニ三間。東向。閻王ハ木ノ坐像ニテ、長三尺。
秋葉白山稲荷合社。本堂ノ西南方ニアリ。境内ノ鎭守。本社一間半ニ七尺。東向。拜殿二間ニ八尺。秋葉ノ神體ハ長七寸餘、白山ハ長四寸、稲荷ハ長三寸五分、何レモ木ノ立像ナリ。
福壽庵。除地五百七十六坪。村ノ西界ニアリ。無量山ト稱ス。庵ノ廣サ五間四方。南向。本尊彌陀ノ立像ニテ、長二尺七寸。脇士觀音勢至共ニ木ノ立像ニテ、長一尺八寸。觀泉寺ノ持。
藥王院。地頭除七段。小名寺分ニアリ。玉光山ト號ス。前寺ノ末。客殿七間ニ四間半。南向。本尊ハ座

像ノ藥師ニテ、長八寸五分。開山開基詳ナラス。

——新編武藏風土記稿

寶珠山本井院觀泉寺。

井荻村（上井草字仲通道北。）ニアリ。域内貳千四百三拾壹坪。曹洞宗。慶長二年丁酉今川範英（刑部大輔。）之ヲ創建シ、僧雄鷲ヲ以テ開山トナス。（雄鷲寛永十二乙亥九月十三日寂ス。馬橋村清見寺々傳、天正十二年三月廿三日寂ストナス。蓋誤ナリ。）德川氏ノ時寺領拾石ヲ付ス。

——武藏通志

觀泉寺。村（上井草村。）東字中通道北ニ在リ。寺地東西五十五間、南北五十八間、面積二千四百三十一坪。禪宗曹洞派。本郷村成願寺末派。慶長二年丁酉僧雄鷲開山、今川刑部太輔範英開基。

——東京府村誌

本住寺（法華）再興

慶長三年戊戌（紀元二二五八年。）法華宗ノ僧日惺羽田（蒲田區羽田本町。）ノ本住寺ヲ再興ス。寺ハ永祿三年庚申（紀元二二二〇年。）行方氏（修理太夫。）妹尾氏（三河守。）等ガ、本門寺ノ日現ヲ開山ニ請シテ創立シ、兵亂ニ遭遇シテ一ビ尾張ニ移リ居シモノトイフ。（新編武藏風土記稿。東京近郊名所圖會。東京府志料。東京府村誌。）

本住寺事蹟

本住寺

本住寺。年貢地五畝七歩。西北ノ方西馬場耕地ト東馬場耕地トノ堺ニアリ。朗長山ト號ス。法華宗ニテ、池上本門寺ノ末寺ナリ。開祖ハ佛乘院日惺聖人ナリ。慶長三年七月六日寂セリ。此寺上古此地ニアリシヲ、一旦故アツテ尾張國ヘウツリ、其後マタ此所ニ再造セリ。カノ國ニモ今ニ本住寺ト云大寺アリトイヘリ。張州府志云、本住寺ハ愛知郡東寺町ニアリ、長壽山ト號セリ、法華宗ニテ、池上本門寺ノ末寺也。

元武藏國荏原郡六郷ニアリ、永祿三年（紀元二二二〇年。）六郷ノ城主行方修理太夫及ヒ妹尾三河守等力ヲ合セテ創建ナシ、本門寺十一世日現上人ヲモテ開山トセリ、ナカコロ兵亂ノワサハイニ遇フテ荒廢ノ後、尾州ノ人加藤某ト云モノ、同國清須ニ移シテ堂舍ヲタツ、其後マタ今ノ地ニウツセリ、美濃尾張二國ノ池上派ノ司ヲナセリト云々。按スルニ彼書ニ云所トコノ寺ニ傳ル所ト略同シトイヘトモ、今モ尾張國ニ本住寺アルヲ以テオモヘハ、再ヒ當國ヘ移セシ後、カノ國ニモ猶本住寺アリテ、是ヨリ二寺トナリシナルヘシ。コヽニ開祖ハ日惺上人トイヘト恐クハ中興ニテ、再ヒ此地ニ移リシ時ノコトナルヘシ。本尊ハ三寶祖師ノ木像ニテ、長六寸ハカリナリ。本堂、七間ニ六間。東向。七面堂。本堂ノ右ニアリ。三間ニ二間。本尊ハ木ノ立像ニテ、長七八寸許ナリ。

稻荷社。除地二畝四歩。字西馬場ノ耕地ニアリ。小祠。東向。本住寺ノ持。

——新編武藏風土記稿

本住寺。朗長山ト號ス。日蓮宗。池上本門寺末。開山日惺。慶長三年寂。境内四百五十坪。租稅地。

稻荷社。境内六十四坪。見捨地。

——東京府志料

本住寺。村（羽田村。）西字西馬場ニアリ。寺地東西二十四間三尺、南北十七間、面積百五十七坪。日蓮宗。池上村本門寺末派。永祿三年庚申行方某（修理太夫）妹尾某（三河守）開基。僧日現開山。

稻荷社。字東馬場ニ在リ。社地東西二十三間、南北五間、面積六十四坪。祭神倉稻魂命。祭日二月上午。

——東京府村誌

本住寺は六郷堤の北に在り。朗長山と號す。日蓮宗にして池上本門寺の末なり。開祖は佛乘院日惺上人

にて、慶長三年七月六日寂す。當寺は往昔此地にありしが、一旦故ありて尾張國に移り、後再びこゝに再建せしといへば、日惺上人は恐らくは中興にて、再建の時の事なるべしといふ。

赤色門の内に南面して七面堂あり。中山直傳祈禱所と標示せり。

——東京近郊名所圖會

羽田長照寺（法華）創建

羽田○蒲田區羽田本町。ノ法華宗長照寺モマタ僧日惺ヲ開山或ハ中興開山トナス。日惺ハ慶長三年戊戌○紀元二二五八年。七月示寂スレバ、寺ノ創建ハ其以前ナルヲ知ラム。○新編武藏風土記稿。東京府志料。東京近郊名所圖會。

長照寺事蹟

長照寺

長照寺。除地二段三畝十二歩。朗羽山ト號ス。法華宗ニテ　池上本門寺ノ末寺ナリ。開山ハ日惺上人。慶長三年七月六日寂ス。本堂ハ七間ニ六間。北向ニテ本尊ハ三寶ヲ安ス。又太閤秀吉ノ守本尊ナリシトテ、開運妙見大菩薩ヲ安ス。相傳フ、此尊像ハ故アツテ秀吉ヨリ增田右衞門尉ニ與ヘラル。彼カ子孫ユカリニツキ此村ニ來リ、世々土民トナリテヲレリ。今ノ增田四郎兵衞カ家是ナリ。其祖先某ナルモノ、カク民間ニ落下リテ賤キ身トナリテカヽル靈佛ヲ守護センハ恐レアリトテ、ヤカテ此寺ヘ納メシト云。鬼子母神堂。門ヲ入テ左ニアリ。堂ハ三間ニ二間半。木ノ立像ニテ、長一尺二寸。

——新編武藏風土記稿

長照寺。朗羽山ト號ス。日蓮宗。池上本門寺末。開山日惺。慶長三年寂。寺地八百六十四坪。

——東京府志料

長照寺ハ本住寺の東方六鄕堤の北に在り。羽田山と號す。日蓮宗にして、池上本門寺の末なり。赤色門に羽田山の額を揭く。池上日昂書とあり。本堂は瓦葺にて遊龍の彫あり。境内別に堂宇を設け、妙見大士鬼子母神を安置せ。その標扁は大僧正日全の書なり。

相傳ふ、此妙見大士は豐臣秀吉公の守本尊にて、公より增田右衞門尉長盛に賜りけるが、その子孫當地ゑ來住して民間ゑ下りぬ。因て之を守護するは憚ありとて、當寺ゑ納めしと。

開山は詳ならぜ。中興は日惺上人にて、境内にその碑あり。撰文は六十六世大僧正日舜と書す。

——東京近郊名所圖會

妙延寺（法華）

土支田○板橋區東大泉町。ノ法華宗妙延寺ハ、慶長三年戊戌○紀元二二五八年。七月ニ示寂セル僧日宜ヲ開山トスレバ、以テソノ創建ノ時代ヲ推知ス可シ。○新編武藏風土記稿。東京府志料。東京府村誌。

妙延寺。法華宗。下總國中山法華經寺ノ末。信光山ト號ス。本尊釋迦。開山日宜。慶長三年七月寂ス。開基豈性院日安ハ今ノ名主彌四郎カ本家ノ祖ニテ、加藤作右衞門ト稱シ、寛永十五年二月終ル。大鐘。年號ヲ彫ラズ。客殿ノ簷ニカク。

妙延寺。信光山ト號ス。永祿十一年創立。法花宗。下總國中山法花經寺末。開山日宜。開基ヲ日安ト云。境内三百坪、租稅地。

——新編武藏風土記稿

妙延寺。字久保ニ在リ。寺地東西五十二間、南北五十三間、面積二千七百八十二坪。日蓮宗。下總國葛飾郡中山村法華經寺末派。永祿十一年戊辰創置。加藤某（作右衞門）開基。僧日宜開山。

——東京府志料

日惺示寂

日惺事蹟

慶長三年戊戌（紀元二二五八年。）七月六日己丑（己丑、三正綜覽。）法華宗ノ僧日惺示寂ス。（本化別頭佛祖統記。高輪寺社書上。）

——東京府村誌

日惺傳

日惺號佛乘院。天文十九年庚戌（紀元二二一〇年。）產於備之前州福岡。爲人清整遠識。正情嶷然。雖儕類而不得狎近。性歸佛乘悟世之妄。普扣明哲夙誓所酬。聞本化道深徹宗意。一時施美名。時兩山主佛壽現上沒後二十一年。丈室無主。猊座停吼。本行寺主本行院主更互執役也耳。山中聞師德儀霓望不已。執事諸位相議裁疏。千里請師。天正九年辛巳（紀元二二四一年。）之春師亮疏巡駕進山入堂。時師三十二歲。二條前關白昭實公結猶子契。（昭實公眞翰及顯正軒副書等存于比企藏中。）東照神君時領關八州。見師親善。殊賜兩山捧地之印。又筥根軍旅之時有命上攘災之符。從斯以前兩山主位常在比企經略池上。神君及築江戸城命師居于池上。又賜府內停住地五處。師造寺誌之。所謂興榮山朗惺寺、鎭護山善國寺、朗昌山蓮久寺、眞立山正覺寺、實相山蓮長寺也。慶長三年戊戌（紀元二二五八年。）四十九歲示病而化矣。七月六日申之時也。

——本化別頭佛祖統記

日惺上人化事跡

師、諱は日惺。佛乘院と號す。天文十九年（紀元二二一〇年。）備の前州福岡に產る。その人となり清整遠識、風骨嶷然たり。斷金の友たりと云へとも馴近く事を不ゝ得。性敏にして佛乘を信し、疾く浮世の泡沫をさとり、夙値の發をる處ろ、一度本化の道を聞て深く宗意に徹し、一時美名を四方に施す。時に兩山（池上本門寺、鎌倉妙本寺。）の主佛壽院日現上人の沒後貳十一年、丈室に主なし、猊坐吼茂とゝむ。此時本行寺主と本行院主と互に山務を取れる而已。こゝにおゐて園山の諸位相議し、終に師を招請をるに至る。天正九年辛巳（紀元二二四一年。）の春、師請を領し駕を巡し進山上堂す。時に師三十二歲。二條前關白昭實卿に結ふ。已後往復更にたへす。（昭實卿の眞翰および顯正軒の副書等今に鎌倉妙本寺の藏中に秘す。）時にまいふ、東照神君關八州を領し給ふ。一度師を見てまゝしみ甚深し。殊に兩山捧地の印を賜ふ。まゝ筥根軍旅の時、尊命に依て怨敵退散の守符を獻す。是より已前兩山の主位常に妙本寺に在て池上を經略通勤す。于茲神君江戸に城を築給ふにおよひ、師に命して池上に居しむ。又府內に停住の地を賜事五處なりと。師則寺を造り是をまるすに、所謂興榮山朗惺寺、鎭護山善國寺、朗昌山蓮久寺、眞立山正覺寺、實相山蓮長寺是なり。慶長三年世壽四十九歲にして、微疾を示し遷化し給ふ。秋七月六日申の時なりと。已上身延日潮聖の作にして、佛祖統記第十五の卷に見へたり。愚按するに、停住の地を賜事府內に五處、まゝ府外に數箇處、まゝ房總の二州には處々に多端なりと、專ら世の口碑に傳ふ聞處なり。既に吾寺（本立寺。）に元來これ府外の一處なり。是を持て是を思に、惺師の本傳を誌せし撰者恨くはいまゝ其悉く師の事跡には詳ならさる歟。

——高輪寺社書上

增上寺（淨土）移轉

增上寺移轉事蹟

同年（慶長三年戊戌、紀元二二五八年。）八月增上寺ヲ芝ニ移ス。（再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。事蹟合考。武德編年集成。江戸紀聞。蠹餘一得。武江圖說。慶長年間江戸圖說。三緣山志。江戸名所圖會。武江年表。東京通志。東京府誌。大日本地名辭書。新撰東京名所圖會。）

增上寺移轉

當山はむかし貝塚にありて光明寺といひしとこ。貝塚といふは今麴町平河の邊こ。慶長のはしめ芝ようつさる。其以前より增上寺と成。其舊地越後中將の御館となりしこ。

補。當寺草創の地ハ貝塚なり。後日比谷の邊ヨ移る。慶長三戊戌年八月今の地ヨうつさる。もと貝塚ヨあ
りしと云その跡松平越後守殿御やしきとなりしとあれは、今平河天神の前と元山王との間ニ。ヨかれ
とも喰違の内榎ある所を增上寺の舊地といひ來る。その地わつかに今も增上寺の持分なりといへむ、
此邊なりしか。貝塚といひし所も廣きほとなりしとかや。　——再校江戸砂子

當山いにしへハ貝塚ヨありし其時ハ光明寺といひしとニ。貝つかと云ハ、今糀町平河天神の邊なり。慶
長のはじめ芝にうつさる。其以前より增上寺と改められしと云。其跡後に越後中將の御館となりしとニ。
——江戸惣鹿子

當山むかしは貝塚ヨありて光明寺といひしとニ。慶長の初芝ヨ移さる。
土橋。清水坂より紀州御中屋敷ヘ行喰違、土手のまへ。
增上寺舊地。土むしの邊貝塚の内。　——江戸志

三緣山方丈歷代系譜。
一、當寺草創ミ地者貝塚、今糀町ミ邊。中頃移于日比谷邊、後慶長初移而于芝云々。〇中略。慶長三年戊戌
八月移寺地芝今地也。　——事蹟合考

慶長三年戊戌、去る天正十八年辛卯平川口ヘ移され增上寺を芝の地にうつす。
——武德編年集成

御菩提寺武州三緣山增上寺芝口より金杉近處ヘ慶長七年寺地かへ被仰付、今年普請御建立成就、舊地ハ
今數寄屋橋内ヨて、其ころ堀美作守秀家に給ひ、半ハ惣門となると。〇續塵埃抄。　——江戸紀聞

天正十八年庚寅八月第十二世源譽上人（後號觀智國師。）初て東照宮に謁し、當家御菩提所と定めらる。此頃龍の口
の東より日比谷邊に移さる。慶長三年戊辰八月、日比谷より今の地に移る。

頭書、安國殿御系圖、文祿二年の頃三緣山增上寺霞ヶ關より金杉の地ヘ移し給ふと。
——蠹餘一得

當寺往古貝塚に在て光明寺と云し由。其舊地後に越後中將御館と成りしと云。然れは御城西麴町の方堀
端なり。後に又日比谷邊に移さると。其地不詳。又慶長二丁酉年八月今の地芝ヘ移さると云。一說慶長
三戊八月とも云。　——武江圖說

增上寺。
今の地をいふなるべし。安國殿御系圖云、文祿二年の頃三緣山增上寺霞ヶ關より金杉の地に寫し給ふと。
又天正年中今の地ヘ移されしともいへり。鋏醬塵埃抄云、當寺は芝口より金杉近所ヘ慶長七年寺地を轉
ぜられ、今年普請御建立成就。舊地ハ今の數寄屋橋内にて、其頃堀美作守秀家に賜ひ、半は惣門となる
と。按に此圖ヨは數寄屋橋内の大名は見えず。三緣山方丈歷代系譜云、當寺は草創の始貝塚の臺にあり
て、後日比谷邊に移り、後慶長の始芝に移る。或ハ同三年八月なりと。江戸名所記云、當寺始は貝塚の
臺にあり、光明寺といへる眞言宗なりと。かく區々の說なれば、舊き事ハ定かならぬ。何れも此見聞集
にいへる所ハ芝の地なるべし。　——慶長年間江戸圖考

開運錄下云。〇中略。其後增上寺を平川口ヘ移し給ひしが、御城の要地逼れりとて、後程なく（慶長三戊年。）今の芝濱
の面ヨ引移ありと云々。

青山家傳云、天正十八年武州御入國。自茲以前青山藤右衞門忠成（後常陸介、又播磨守。）御先に江戸へ參着諸事見計可申旨被仰付、即時發足、幸ひ所致憐愍の僧林應を同伴す。是ハ存應和尙弟子也。藤右衞門江戸到着請芝稱名院致檀越之契約。大神君江戸御着座、未被定御菩提所、藤右衞門より御尋、汝先に參着檀越の寺院有之否と上意、藤右衞門稱名院檀越契約之旨申之上、則以稱名院可被定上御菩提所上意ゆて、稱名院可改號增上寺之旨被仰出。增上寺御建立奉行藤右衞門被仰付。其砌林應營于庵室號林應庵、藤右衞門御造作の御用勤務中爲宿坊。增上寺改號之師者大神君御歸依開山源譽存應和尙普光觀智國師なり。○中略。

古稱名院境地今花岳院なり。稱名院改號增上寺之以後引寺號而芝三田寺町建稱名寺。又後號稱讃寺也。藤右衞門同伴僧林應營小庵住居號林應庵、即今源流院開祖也。

青山家に傳ふる作事の務ハ、慶長三年八月今の地ゆうつり、堂閣御建立の時ならんか。貝塚の時御造營ありし事不詳。もと今の地ゆは稱名院といへる寺（今大門の邊。）ありしを、不殘長老國師と共ゆ寺地見立の時ゆ、稱名院ともゆ地續ゆ奏せられしかは、稱名院を八町堀に移し、（當所より移れるゆへ日比谷町といふ。）其跡へ增上寺を御引うつしありしなり。稱名院の寺號を改めしゆあらぞ。故ゆ今稱名院は日比谷町より又三田ゆ引れてあり。又擧譽大僧正の自記ゆ、慶長中御菩提所とあり。若此說ゆよらは、御入國の後程過ける間は、諸寺院の道德兼備の僧を內々淸撰仰出され、存應和尙の外ハ、淨家に智行勝れし僧あらざりしかば、慶長中仰出され、寺を直ゆ今の地ゆ移し給へるゆや。國師此前夜夢想ありし（增上寺のきはのたるきをけるらんといふ句を、門前の老翁見たりしを、靑銅二十疋にてもとめらる。）を求め得られしかは、翌日命ありて諸堂御造營の御沙汰初りけると。此說をもまかりとるべきか。されど諸書よみな御入國の年とあれば、正否定めがたし。又或人の云、そのかみ御菩提所の御契約はあらせられしかと、寺院御引移ハ後ゆ至れり、故ゆ傳通院殿の御葬事の比は（慶長七年。）今の寺全備せさると、國師の奏ゆて開山上人の師なる了譽上人の牌所光榮を存せられ、擧用なせしとそ。是當山に傳ふる所ゆして、古記ゆ見へたり。然りといへとも、其かみ仰出されし御諚全くかくのことくゆして、此外に別の義なしと、今定むるにはあらぞ。

——三緣山志

事蹟合考ゆ出せる三緣山歷代系譜ゆ云く、當寺草創之地者貝塚、今糀町邊、中頃移日比谷邊、後慶長初移于芝云々。日比谷より芝へ移りしハ慶長三年八月なり。武德編年集成ゆ、慶長三年戊戌、去る天正十八辛卯年平川口へ移されし增上寺を芝の地ゆうつしとあり。平川日比谷古へ地を接せ。故に混していふ歟。

——江戸名所圖會

八月（○慶長三年八月。）三緣山增上寺日比谷より今の地へうつる。（其ころは、今のヤヨスかしの南日比谷町の方にありしとぞ。この邊をひゞや町といふ事、むるしハ潮入の地にして、漁人海中に枝付の竹を並べ立て、魚の入るを待て取る。これをひゞといふ。正字なし。今も海苔をとるに此ヒゞを用ふ。ひゞろせきをなせもの住居の地なれば、ひゞや丁といへり。後芝口にうつされてもひゞや町と號しけるか、後に芝口とあらたむ。新看町獅左衞門町帶町も此舊地に有しとぞ。）

——武江年表

三緣山廣度院增上寺。

芝區芝公園地內ニアリ。域內七千七百四拾壹坪。淨土宗。關東總本寺。拾八檀林ノ稱首タリ。（存應ノ時關東淨土宗拾八院ヲ選ビ檀林ト定ム。）古ヘ貝塚ニアリ。光明寺ト稱シ、眞言宗タリ。明德四年癸酉（○紀元二〇五三年。）十二月僧聖聰（大蓮社酉譽。）改テ增上寺ト號シ、淨土宗トナス。是ヲ開山第一世トナス。（○中略。）天正十八年庚寅（○紀元二二五〇年。）僧存應（貞蓮社源譽。）ノ時、德川氏以テ香火院トナス。慶長三年戊戌八月今ノ地ニ移ス。（事蹟合考云、中頃移于日比谷邊、後慶長初移于芝、武德編年集成云、天正十八年平川口ヘ移サレシ增上寺ヲ、慶長三年芝ノ地ニ移ス）

ト。然レドモ天正日記八月朔日條云、八半時貝塚ヘ御着、御勝被召上。又九月三日條云、貝塚ノ御寺火ヲアヤマチ開山堂ノ堂モリヤケルト。村田平右衛門家譜云、天正十八年八月朔日未下刻貝塚增上寺入御、被レ蹕御勝云々ト。則其貝塚ニアル明ナリ。同年城中諸寺ヲ郭外ニ移スヲ以テ之ヲ觀レバ、更ニ增上寺ヲ城邊ニ移建スベカラズ、合考等說恐誤ナリ。寺域貳拾萬坪、寺領千石ヲ與ヘ、後增テ壹萬五百四拾石ニ至ル、外廩米三千七百俵ヲ給シ、市街地五町ヲ付ス。因テ存應ヲ中興トナス。存應字慈昌、由木氏、武藏多摩郡由木人。天文十三年甲辰生ル。同四年己亥九月存應ニ紫衣及常紫衣ノ論旨ヲ賜フ。同十年德川氏本堂回廊三門方丈經藏等ヲ造リ、大伽藍トナル。事跡合考云、是堂ノ總柱槇ノ木ヲ以テ造リタリ、千歲ニ至リテモ不朽ナリト。三藏山志云、三門東向拾間四尺五寸横五間、中ハ帝王、左ハ將軍、右平人出入ノ爲也ト。同十三年戊申十一月勅願所トナリ、同十五年庚戌六月存應參朝シ、後陽成天皇ノ授戒師トナリ、七月天皇親ラ普光觀智國師ノ號ヲ書シテ之ヲ賜フ。元和六年庚申十一月二日寂ス。年七拾七。淨土高僧傳等。爾來巨刹トナリ、其宏壯寬永寺ニ亞ク。元祿七年甲戌五月第二世僧了也大僧正ニ任ジ、後之ヲ世襲ス。舊時彊域ハ、前門東ニ在リ、俗ニ大門ト云。後門ハ北ニアリ、赤門ト云。西北角ノ門ヲ涅槃門又黑門ト云。西南又柵門アリ。赤羽門ト云。今之ヲ廢ス。前門ノ内ニ山門アリ。其内ニ本堂アリ。明治六年癸酉二月大教院トナス。其十二月火災ニ罹リ、今之ヲ重建ス。本堂ノ背ニ護國殿アリ。德川家康守護佛阿彌陀像ヲ置ク。黑本尊ト稱シ、僧惠心作ル所ト云。昔時三河桑子明眼寺ニアリ。家康嘗テ城内ニ安シ、特ニ之ヲ崇敬ス。後享保十四年己酉本寺ニ移シ、寶曆十一年辛巳三月堂宇ヲ造營ス。方六間半。開山堂、本堂ノ右ニアリ。開山僧聖聰以來住僧ノ像ヲ置ク。經藏、開山堂ノ後ニアリ。寬永九年壬申創立シ、佛經書籍ヲ藏ス。本堂ノ左ニ鐘樓アリ。巨鐘ヲ懸ク。鐘口徑五尺八寸、高壹丈許、厚壹尺餘。延寶元年癸丑十一月鑄造スル所ナリ。樓亦火災ニ罹ル。又後門ノ内舊方丈アリ。明治五年壬申三月開拓使購テ其出張所トナス。因テ支院眞乘院ニ移住ス。學寮舊八十餘宇アリ。同年五月海軍省其廿六宇ヲ購テ官舍トナシ、今五拾七宇ヲ存ス。支院亦五拾餘宇アリ。合併廢毀シテ今存スル者三拾六宇ノミ。支院妙定院内地藏堂アリ。寶永五年戊子僧正元坊建立スル所、六地藏ノ一ニシテ、鎌倉佛工某之ヲ鑄造ス。舊深川靈巖寺ニアリ。安政二年乙卯十月大震ノ後故アリテ此ニ移置スト云。

——東京通志

增上寺。淨土宗創建ノ說據トス可カラス。關東該宗ノ總本寺十八檀林ノ冠首タリ。僧源譽ノ時、德川氏始テ檀越ト爲リ、慶長三年戊戌寺地ヲ此ニ給シ、貝塚ヨリ移ルト云フ。此ヲ中興トス。

——東京府誌

增上寺はもと光明寺と稱し、江戸麴町貝塚に在りて、眞言古義の一本寺たりしが、後、龜山天皇元中二年乙丑西譽上人感ある所ありて、聖冏上人に歸して淨土宗よ改め、後小松天皇明德四年癸酉十二月當山を興隆し、○中略。のち日比谷に轉じ、慶長三年戊戌八月に至り、今の地よ移れり。紀尾井町喰違ひ門の邊を增上寺の舊地といふ。新編江戸志云、清水坂より紀州御中屋舖（今の伏見宮邸）へ行く喰違土手の前なり。土橋の邊貝塚の内と見ゐたり。江戸名勝志には、麴町一丁目越後屋舖と云邊なりとあれと、いかが。

——新撰東京名所圖會

增上寺の貝塚にありしは疑を容れぢ。而も其轉徙して今地よ來れる年代よ不審あり。或は一時比々谷に居りしとも說く。（比々谷村民を芝口へ移されし頃、此寺も貝塚より芝浦の新比々谷の邊に移されしとの義よや）。

慶長圖考云、安國殿御系圖に、文祿二年のころ增上寺は霞ヶ關より金杉の地へうつし給ふと。又天正年中今の地ようつされしとも云へり。鋏醬塵埃抄には、此寺初め芝口數寄屋橋内なりしを、慶長七年に轉

ぜられ、金杉近所へうつると述べ、增上寺歴代系譜には、當寺草創の地貝塚今の糀町の邊也。比々谷へ移り、後慶長の初に芝へうつる。慶長三年なり云々。移轉の年代さだかならぜ。

——大日本地名辭書

長慶寺（法華）

雪ケ谷（○大森區雪ケ谷町。）ノ法華宗長慶寺開山日親ハ慶長三年戊戌（○紀元二二五八年。）九月ニ示寂セリ。以テ寺ノ開創ノソノ以前ニ在ルヲ知ル。但シ寺モト碑文谷ニ在リト。ソノ現地ニ移リシ時代ヲ知ラズ。（○新編武藏風土記稿。東京府志料。東京府村誌。）

長慶寺。除地一段一畝二十二歩。小名下ニアリ。法華宗。池上本門寺末。雪谷山ト號ス。開山ヲ十法院日親ト云。慶長三年九月十日示寂セリ。客殿五間半ニ六間。本尊三寶祖師。門ハ南ニ向フ。兩柱ノ間九尺。當寺ハ昔本郡碑文谷村ニアリシヲ、イツノコロカコヽニ引移セリトソ。檀越ニ國分方直江宮田飯田等ヲ氏トセルモノアリ。今ハ當村ニ住スレト、モトハ碑文谷村ノ人ニシテ、當寺ト共ニ移リシト云。舊記ヲ失ヒタレハ、コレモ其移リシ年代ヲ知ラズ。

八幡社。除地三段四畝。村（○雪ケ谷村。）ノ中央ニテ少シク高キ處ニアリ。此地ノ鎭守ナリ。本社二間半ニ二間。南ニ向フ。前ニ石階十六級及ヒ石ノ鳥居アリ。コノ鳥居兩柱ノ間七尺許。祭禮年々正月九月、共ニ十五日。神樂ヲ奏セリ。村內圓長長慶二寺ノ持ナリ。

末社。七面社。白鷺明神社。天滿宮。稻荷社。以上五社何レモ社地ニ安置ス。共ニ小祠ナリ。

——新編武藏風土記稿

長慶寺。雪谷山ト號ス。日蓮宗。池上本門寺末。開山日親。慶長三年寂。寺地三百五十二坪。

——東京府志料

長慶寺。字大下ニアリ。寺地東西三十二間、南北之ニ同ジ。面積五百六十四坪。日蓮宗。池上村本門寺末派。慶長三年戊戌僧日親開基。

八幡社。村（○雪ケ谷村。）北字西ニアリ。社地東西四十間、南北四十八間、面積一千二十坪。祭神譽田和氣天皇。天正年間創立スト傳フ。本村ノ鎭守ナリ。明治五年十一月村社ニ列ス。末社四座、天神社稻荷社清正社瘡守社。祭日舊時正月九月ノ十五日。今十月一日ヲ用フ。

——東京府村誌

澁谷福昌寺（禪）

澁谷（○澁谷區上智町。）ノ禪刹福昌寺ハ、寛文十年庚戌（○紀元二三三〇年。）ノ回祿ニ舊記燒失シ、由緒不明ナルモ、僧桂岩（○或ハ宗頓トシ、或ハ良嫩トス。）ヲ開山トス。桂岩ハ慶長三年戊戌（○紀元二二五八年。）十月示寂ス。以テ略其時代ヲ知ルニ足ラム。（○江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。新撰武藏風土記稿。續府內備考。澁谷寺社書上。東京近郊名所圖會。）

福昌寺事蹟

福昌寺

澁谷山福昌寺。　下谷高岩寺末。　同所。（○澁谷。）

澁谷山福昌寺。　禪宗。　——江戸砂子

開山、桂岩禪師。　下谷高岩寺末。　同所。（○下澁谷。）

澁谷山福昌寺。　——江戸志

關東首都時代　千九百七十四坪。　同所。（○下澁谷。）

九五七

開山、桂巖宗頓和尚。

役行者。

福昌寺。禪宗。曹洞派。江戸下谷高岩寺末。澁谷山ト號ス。寛文十年火災ニカヽリテ、起立ノ年代ハ傳ヘサレト、開山桂岩良嫩、慶長三年十月二十九日寂ス、又大猷院殿ノ御代時ノ住僧耕國願ヒ上拜領地トナリシヨシ傳フ。本尊彌陀ノ立像。長一尺八寸。慈覺大師ノ作。貞享二年記セシ緣起ニ貞觀二年三月十五日圓仁ノ造立セシコトハ載タレト、傳來詳ナラズ。

鎭守堂。役行者ノ石像及十王白衣觀音ヲ安ス。

衆寮。

鐘樓。寶永四年鑄造ノ鐘ヲカク。

——江戸紀聞

一、境內古跡拜領地千九百七十四坪餘。

一、當寺起立ニ義者寛文十庚戌年類燒ニ付、書物諸記錄等燒失仕、由緒相分り不申ハ。但シ境內ニ分ル大猷院樣御代住持耕國寺社御奉行安藤右京太夫殿御掛ヨテ拜領地ニ被成下度段被願上ハ處、右耕國願ニ通被仰付ハ是迄拜願仕ハ事。

一、當寺開山桂岩良嫩和尚。

慶長三戊戌十月廿九日遷化仕ハ。

——新編武藏風土記稿

江戸下谷高岩寺末。

禪曹洞宗　澁谷山福昌寺

一、開基等一切無御座ハ事。

本堂。桁行六間半、梁間三間。

本尊、阿彌陀如來、木立像。丈一尺八寸、慈覺大師作。

緣起體卷物一軸有之。寫左ニ通。

南閻浮提大日本國東海道武藏國豐島郡澁谷村澁谷山福昌禪寺本尊阿彌陀如來者、人王五十六代淸和天皇御宇貞觀二庚辰三月十五日天台慈覺大師圓仁造立矣。人王百十三代今至貞享乙丑年八百廿六年也。現住孝補和尚佛像臺坐後光厨子共再興。就予燒香見需偈。謹綴八句偈拜呈佛前矣云。

彌陀世界在西方。諸鳥樹林呈百祥。功德海中蓮色洌。菩提山下覺花香。願門闢處靈光耀。觀悲成時眞道場。去此不邇淸淨土。唯心乃見福昌昌。

于時貞享二乙丑年八月吉辰

勅賜永平傳法一世因光大了禪師

愚門叟暮齡七旬又餘歲敬書焉

□　□

——澁谷寺社書上

一、大鐘。　丈四尺壹寸、徑貳尺壹寸。

右鐘撞堂九尺四方。銘左ニ通有之ハ御事。

夫鐘者、聲聞於霄壤、利澤於幽明。見者咸生仰信之情、聞者速發菩提之願。觸聲則旺王免刀鰺。

思響則難獄破鏘湯矣。稱其功德若大虛無能窮其體。計其玄妙如河沙未可盡其用。論斯至理
筆何竭焉。茲因岩崎氏定安爲女子自觀忍性因六親眷屬世々父母並濟此願。有緣道俗等大菩提。虔
鑄法鐘一口奉備於澁谷福昌禪寺當什。永作歷劫無上勝緣。庸植世出世間之妙果。並銘於後。此識
不朽云爾。

羨爾靈鐘、洪韻賁々、等偏空界、梵響繽紛、晨昏扣擊、克紹功勳、
上窮有頂、下徹無根、鏜々鏞々、明暗洪聞、普令含識、悉登法雲。

寶永四丁亥天五月良晨　施主俗名　岩崎氏定安
武州豐島郡澁谷村澁谷山福昌禪寺現住
普觀光峰誌　——澁谷寺社書上

鎭守堂。桁行二間、梁間二間、庇九尺、三間半。

本尊、役行者石像。　閻魔王。

衆寮。桁行二間、梁間二間、庇九尺。

本尊、辨財天。　妙見菩薩。

福昌寺は、下澁谷四百六十番地に在り。澁谷山と號す。曹洞宗にして、下谷高岩寺末なり。
創立の年代詳ならぎ。開山は桂岩良嫩和尚にて、慶長三年十月二十九日寂せ。又三代將軍德川家光公の
時、住僧耕國和尚此地を拜領せしよしを傳ふ。
本尊彌陀は慈覺大師の作なりといふ。　——東京近郊名所圖會

高岩寺（禪）

上野屏風坂下○下谷區上車坂町。ニアリシ禪宗高岩寺ノ創建年代ハ不明ナルモ、開山大助○扶嶽。
ハ慶長三年戊戌○紀元二五八年。十二月遷化トイヘバ、略推測シ得可シ。○江戸砂子。江戸惣鹿子。續江戸砂子。江戸志。改撰
江戸志。下谷寺社書上。續府內備考。東京府志料。東京府誌。　——續府內備考

高岩寺事蹟

高岩寺

萬頂山高岩寺。　忍、集福寺末。　屏風坂。

萬頂山高岩寺。　忍、集福寺末。　屏風坂下。　——江戸砂子

開山扶嶽大助大和尚。

印像の地藏尊あり。　——江戸惣鹿子

印像地藏。　萬頂山高岩寺。　禪宗。　下谷屏ぶ坂埜。

正德三巳年田付氏何某の妻病苦萬死一生たる時云、我ら氏長谷川の家ゑ靈ありて、女子廿五歲を越す、
我今死を待のみこ。田付氏ゑれを聞、此上は神明佛陀の力ならてはと、常に信をる所の地藏尊を祈る。
少睡る枕ゑ、一人の僧來て曰、此像一萬體紙ようつし江河ゑ流しなは、平愈ならしめんと、屑木のこと
きそのをあさへ給ふと見てさむる。枕のうへに自然木一寸三分の地藏尊を刻める印像あり。告のことく

一萬體うつし、淺草川まうらめり。その夜病人の床ま衰さるおのこの立るを、高僧錫杖を以て追給ふと、夢ならを現ならを覺へて、明の日より全快まおもむき、終ま死をのゐれたりしなり。此像因緣あつて當寺ま納まる。重病難病の者此印像をいたゝくふ、そのまるしあらをといふ事なし。くはしくハ當寺靈驗の記ま見へゝり。

——續江戸砂子

萬頂山高岸寺。　禪宗。　集福寺末。

開山扶嶽大助大和尚。

中興松巖說大和尚と稱を。春日局の歸依ゐりし上人なり。

——江戸志

屏風坂下。

古碑二基、堂の前まあり。文明十七年己巳八月大永八年庚子九月三日の文字ゐり。念佛供養並庚申待供養の碑なり。此寺まて池を掘りし時、地中よりほり出せしといふ。寛政十二年庚申七月まるせし記を傍ま刻せり。

——改撰江戸志

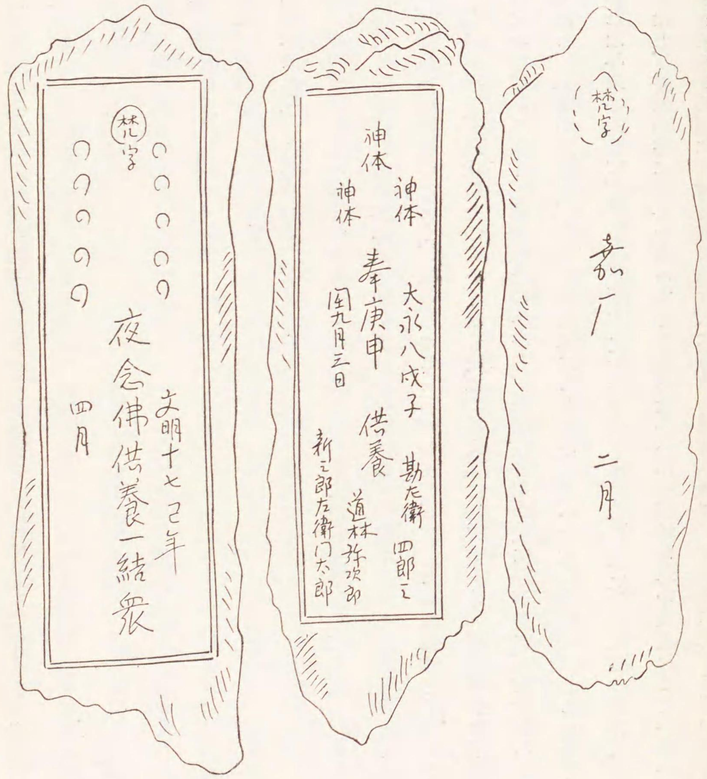
武州幡羅郡忍領下奈良村集福寺末。　本州豐島郡下谷

禪、曹洞宗　萬頂山高岩寺

一、境内御年貢地ニ御座ハ。東西二拾壹間半、南北四十六間也。惣坪數千二拾五坪三合壹勺也。但シ先年者御茶ノ水ニ寺有是ハと申傳ゐハ處、五十五ヶ年先明和九辰年の類燒ニ、古記錄並寺寶物等不殘燒失仕ハ。依是開闢起立並替引地ミ年代共ニ相知レ不申ハ。

一、當寺開山扶嶽大助和尚。從慶長三戊年文政九戊年迄二百二十九年也。本山ミ五代和尚也。慶長戊戌年十二月二十三日遷化ニ御座ハ。

高岩寺境内古碑



一、門前町屋ミ儀者寳暦六子年御免許被仰付ハ、表通り六間横丁拾七間半。此坪數百二十坪。右ミ通ニ御座ハ。

——下谷寺社書上

本堂。

本尊、釋迦如來。木座像。

地藏尊。秘佛。

右地藏尊は享保二酉年小石川田附又四郎より寄附。緣起左の如し。

靈印所持の因緣。某妻ハ藤原の姓長谷川氏の娘なり。常に地藏尊を信して年久し。壹人の男子を生む。其後正德三年五月朔日より其母重き病を請、心身安からず、腹中を瀉し、或るときやくとなり、後ハ脹滿となり、手足ハ細き竹のごとく、腹のみきこと石のごとし、二便ともよ通せず、諸醫手をつくすといへとも、七月初ふ至、此世のたのミをくなく成ぬ。病人某に語ていわく、我重き病を請針藥殘所なし、然ども日をおつて病つよく、此世のたのみなし、我聞長谷川の家に怨靈有て、女子をるもの二十五歳を限り皆死をと、父母の語給ふ、我姉も廿五歳ゆとし死を、然ハ此度の病治すべしとも覺を、ふのむくハ後世のいとなみ我心能して、臨終をまたんとなり。某つく〳〵おもふに、凡人間の壽命天ゆ算數定る所ハ祈るに所なし、怨敵の爲に苦しむ處ハ佛神の威力なからんや、地藏尊の擁護をくむへゐへやと、於くふんして少まとろミし夢に、貴き僧の黑き衣に香色の袈裟かけて、枕もとに立、告ていむく、我のみちを壹寸三分に彫刻て河水に流すへしとなり。某急にふりきをむ事成のをからんと答申せハ、又いむく、正ふ涌出の印像汝はあをふと見て夢覺ぬ。不思儀ふおもひ、未明におき見れハ、枕もとに木のふしの樣なる者有。見れハたゆらか成のをに、地藏尊の尊容、ほりたるにもなく、書をるにもなく、影のごとく見へをり。正しく夢に見し事なれば、尊容の方を印肉にをめして、一體に壹扁つゝ寶號をとなへ印奉る。壹萬體みてゝ兩國橋にゆをり、南に向誓ていむく、歸命頂禮地藏大士、印奉る壹萬體の尊容、只今河水にうかへ奉る、感應何そむなしからんと、肝膽の傍に女二三人付居をりしの、數月の看病につかれて、物によりてまとろみ居をりしが、丑の刻むかりに何となく杉戸ふ物の當りたる音高くひゝきける。夜伽のそのおとろきあたりを見をとも去事なし。病人目を覺し、某を呼ひ、いそき行て何事と問。病人のいむく、只今うつゝともなく年の程廿四五斗なる男、月代なのくちやせん髮なるの、紺の小袖のひさ長なるを着、長き棒を持、片手に籠のやう成ものをひつさけ、枕もとにをゝをみ居たる、かゝる處にいつくともなく香色の袈裟着給へる御僧來り、かのおとこにむやく出去へしとの給ひて、蚊屋の外へ引出し給ふ次の間にて錫杖を以て背中を突給へハ、戸板ふたおれ掛ると見て失ぬ、是全大士怨敵退散の靈夢なるへしと語。夜伽の者も始此事を慥ふ聞し事なれハ、奇異の思ひをなす。濁代末代なをとも信心ふ依て威力を加へ給ふ事、感應響のごとく、まのあたり忝さのあまり感涙を催を。扨翌日より病氣段々平愈して、則十一月中旬床をたち、夫より此のた無病に成ぬ。右書にあらハを靈驗家内下々まて知所にして、聊僞る事なし。若虛ならハ正八幡の御罰を蒙へし。此靈驗を山高氏の家よて物語せしに、一座に西順といふ

世捨人居合せしか深くこのんし、御影をもふ。某懐中にありしを二枚あたふ。此僧兼て毛利家へ出入せしが、正徳五年、かの家にほのふる女、折きたる針を口にくむへ、あやまつて呑、咽に立ぬけも、後わ腹中に入甚痛くるしむ。諸薬御符其功なし。西順かいむく、爰に霊験明らか成地蔵の尊容有、頂戴すへしと、一枚を水にて呑しむ。まばらく有て、吐逆す。其内に御影有。水まて流し見るに、四分斗の針御影をつらぬき出たり。座中奇異のおもひをなすよし。此霊験わ某見及ふまゐらも、西順其後ゑさ〳〵來り。誓言を以て語。依てこの縁起ま書入むへり。

右ゝ外まも不思議の事とも多しといへとも、まゝきのゆへに是を略も。其後此印像ふのく秘して人まも見せも。然るに此度高岩寺の本堂破壊ま及、修造の爲百萬人講を初らる。幸に諸人御影をもほどこし、修復の功早からしめん爲、初て和尚ま此霊瑞を語、來由を書記して霊印共に寄附し奉るものゝ。

享保十三戊申年七月十七日　　田付美作守是定六代之孫　田付又四郎敬書

地蔵尊。弘法大師作。丈二寸八分五厘。

右ゝ小石川渡邊筑前守殿ゑ文政七申年寄附。

鎮守堂。

摩利支天。春日作。丈五寸五分。

達磨大師。木像。

道元禪師。土像。

右ゝ實朝公筆と申傳。　二基。

臥達磨畫。

右ゝ兆殿司筆と申傳。

寶筐印塔。

右は元文二丁巳年十月建立。

庚申塔

一ゝ文明十七巳年建立と相見へ申ゐへは、舊名ニる文字相分不申ゐ。

松巖は三世の住僧ま て中興にあらも。五世獨州は春日局の伯父なりしと云。是も中興にあらも。

什寶。

武藏坊辨慶書。　一幅。

十六羅漢畫像。

紺紙金泥の畫像ま て、禪林寺奉納、建保甲戌二月佛日一筆三拜源實朝花押とあり。　一幅。

寢達磨畫。

兆殿司筆。讃あり。

光昭日月減若活開　碧瞳天相横放身威　宗呂　拜書

高岩寺。萬頂山ト號ス。曹洞宗。武藏忍領下奈良村集福寺末。往古御茶ノ水ニテ起立。後此ニ移ル。開

——續府内備考

山大助。境内千二十五坪。租税地。

高岩寺。町（○土車坂町）西ニ在リ。寺地東西二十三間五尺、南北三十九間五尺、面積九百二十八坪五合三勺。禪宗、曹洞派。幡羅郡下奈良村集福寺末派。初御茶ノ水ニ創建。後今ノ地ニ移ル。僧大助開山。

——東京府誌

船堀光明寺（眞言）附、山王社

船堀（○江戸川區東船堀町。）ノ眞言宗光明寺ハ慶長三年戊戌（○紀元二二五八年。）十二月ニ示寂セル僧覺仙ヲ開山トセリ。（○新編武藏風土記稿。葛西志。東京府志料。東京府村誌。）

光明寺。新義眞言宗。下小岩村善養寺末。稲香山不動院ト號ス。本尊不動ヲ安ス。開山覺仙。慶長三年十二月二十一日寂ス。

山王社。東組ノ鎭守ナリ。稲荷ヲ合祀ス。本地佛十一面觀音。光明寺持。

——新編武藏風土記稿

光明寺。新義眞言宗。小岩村善養寺末。

——葛西志

光明寺。稲光山ト號ス。新義眞言宗。下小岩村善養寺末。開山覺仙。慶長三年寂ス。寺地三百六十八坪。

日枝神社。東組ノ鎭守ナリ。稲荷神社ヲ合祀ス。モト山王社ト云。一新後社號改マル。明治六年七月村社トナル。末社二宇。社地二百八十坪。

——東京府志料

光明寺。字中割ノ東南方ニ在リ。寺地東西二十一間、南北十八間、面積三百七十八坪。新義眞言宗。下小岩村善養寺ノ末派ナリ。僧仙覺開山。創建年曆未詳。

日枝神社。村（○船堀村。）ノ東方字東袋ニ在リ。社地東西二十八間、南北二十一間三尺、面積六百二坪。國常立尊ヲ祀ル。村ノ鎭守ナリ。此社モト山王社ト稱ス。維新後今ノ社號ニ改ム。明治六年七月村社ニ列ス。祭日九月二十四日。

——東京府村誌

西宇喜田（○江戸川區宇喜田町。）ノ淨土宗法蓮寺ハ、宇田川某（○喜兵衞。）ノ開基ニシテ、ソノ法諡ヲ以テ寺號トス。開山眞譽ハ慶長三年戊戌（○紀元二二五八年。）ノ遷化トイヘバ、創建ノ時代ハ其已前ニ屬ス。（○新編武藏風土記稿。葛西志。東京府志料。東京府村誌。）

法蓮寺。淨土宗。東小松川村源法寺末。花光山嚴知院ト號ス。當寺境内ハ開基法蓮ヵ屋敷ノ蹟ナリト云。本尊阿彌陀。長二尺一寸五分。聖德太子ノ作。開山桑蓮社眞譽。慶長三年遷化。開基ハ宇田川喜兵衞、法名嚴知院花光法蓮。元和三年六月二十五日死ス。源法寺ノ傳フル處法諡及卒年異同アリ。（○源法寺ノ所傳ニハ嚴地院華譽法蓮、元和六年六月廿五日死ストアリ。源法寺ノ條參照。）

——新編武藏風土記稿

太子堂。

——葛西志

法蓮寺。（○淨土宗。）同宗。東小松川村源法寺末。

法蓮寺。村（○西宇喜多村。）ノ中央字天沼ニ在リ。寺地東西三十九間一尺二寸、南北二十六間一尺八寸、面積一千三十坪。淨土宗。東小松川村源法寺ノ末派ナリ。寛永三年丙寅宇田川喜兵衞定次開基創建ス。僧眞譽ヲ以テ開山トス。

——東京府村誌

法蓮寺。華覺山ト號ス。淨土宗。東小松川村源法寺末。開基ハ宇田川喜兵衛、法名法蓮ナリ。寺地則法蓮ノ屋舗跡ナリト云。法蓮元和三年死ス。開山眞譽。慶長三年寂ス。寺地三千二百坪。

——東京府志料

松平西福寺（淨土）草創移轉附、松平神社

淨土宗西福寺ハ、原參河國松平村（○愛知縣加茂郡。）ニ在リシトイフ。（一說ニ天正六年戊寅濱松ニ創建ストモイフ。）天正十一年癸未（○紀元二二四三年。）僧了傳（○眞蓮社。）一寺ヲ駿府（○靜岡市。）ニ草創シ、西福寺ト稱ス。德川氏ノ江戸ニ移ルヤ、慶長三年戊戌（○紀元二二五八年。）從テ寺ヲ駿河臺下（○淡路町。）ニ移ス。寛永十四年丁丑（○紀元二二九七年。）德川家康ノ妾武田氏（○於竹局。）ヲ此處ニ葬リテ、ソノ謚號良雲院ヲ冐シテ興隆シ、翌十五年戊寅（○紀元二二九八年。）淺草ノ現地（○南元町。）ニ移レリ。世ニ松平西福寺ト呼ベリ。（○江戸名所記。大草隨筆。再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。改撰江戸志。淺草寺社書上。以貴小傳。御佛供料書附。藩翰譜。江戸圖說。江戸圖說集解。江戸名所圖會。武江年表。淺草志。東京府志料。東京府誌。東京通志。大日本地名辭書。新撰東京名所圖會。）

西福寺事蹟

西福寺

淺草町

西福寺。

そのかみ東照權現駿府の城よおはしましける御時に、心蓮社貞譽上人頑故を御歸依の僧として開基し給ふ寺なり。本尊は安阿彌の作。殊勝端嚴の彌陀如來なり。後に江府にうつされて、いま此ところにおはしませ。辨財天をもつて鎭守とせらる。

——江戸名所記

西福寺、もとは神田まゐりて、今の稻葉丹後守屋敷あゝり、又松平長門守屋敷よもかゝりて、其跡殘れり。寛永年中新堀よ移さる。近年長門守屋敷より古き石碑を堀出せしゝ、傳通院よ納めたり。さて松平を西福寺の苗字の如くいへる事ハ、三州松平村より移されし故ゝ。されは百年ほと以前（年曆不知。）寺門辨天開帳の時門前其外へ立たる札よも松平西福寺とかけり。又年々正月六日御禮にも、獻上の御札に傍に松平西福寺とまゐるし來れりと。是等よ據ても正しき故ゐる事まゐるへし。武邊咄聞書よ、上條又八淺野但馬守へ奉公し、和田庄兵衛と喧嘩して兩方改易となる。江戸よて西福寺千部の法華經轉讀の時、意趣うちして和田庄兵衛ゝ死骸を見まゐるに、鎖帷子を着ゝりと云々。是當寺の駿河臺下にゐりし時の事なるへし。（按に寛永九年江戸圖に、堀の屋敷ハ駿河臺下西福寺の前道を隔て向ひてありといふ。）

——大草隨筆

東光山良雲院西福寺。　寺領百石。　知恩院末。

開山、心蓮社貞譽上人頑故和尚。

本尊、阿彌陀。安阿彌作。　御藏前。

鎭守、江島辨才天。第二世梅譽上人感得。弘法大師の筆。

補、多門兵衛稻荷社。三州以來の鎭座。

補、初音の鶯。三州より隨身の鶯まて、他よ異なりと云。

補、撞樓の藤。世もつて稱。

當寺往古三州よありしゝ。台命よつて駿府ようつり、慶長の頃御當地へうつされ、駿河臺よ地をたま

ふ。寛永十五戊寅年淺草川のネとりまうつる。今の地なり。

補、ある人の云、當寺を松平西福寺といふ事ハ、往古三州松平村まありしときハ、松平山といひしゆへなりとゝ。寺傳まはなしとこ。

補、塔中、存心院、法林院、林照院、眞行院、
長應院、智光院、源崇院、——再校江戸砂子

東光山西福寺　寺領百石元和四年御寄附。　知恩院末。

開山、心蓮社貞譽上人頑故和尚。

本尊、阿彌陀。安阿彌作。

鎮守、辨財天。

當寺駿府よりうつさる。慶長年中駿府御在城の御時、貞譽上人まを命して開基ありしとぞ。

寺中、存心院、傳授院、法林院、壽慶院、
源崇院、眞行院、智光院、林照院、
長應院。　——江戸惣鹿子

東光山良雲院西福寺。同宗。○淨土同末。　寺領百石。　新堀小ヲケ丁。

寺中、存心院、法林院、林照院、眞行院、
長應院、智光院、源崇院、

寺傳云、開山貞譽了傳上人也。安譽虎角の弟子まして、遠州犀ヶ嶽亡魂得脱の師也。○中略。良雲院殿ハ、前本丸竹姫君と申奉り、甲州信玄の女也。天正壬午拾六歳まして入輿。寛永四丁丑三月十二日逝去。當寺まを葬奉る。是ハ昌清院の御母君也。

昌清院殿ハ慶長三年蒲生家へ嫁給ひ、其後淺野長晟まを再醮也。元和三丁巳八月晦日逝去。御位牌當寺まを安置、本尊阿彌陀、御長三尺、安阿彌作。寺門凶事の時惣身まを御汗し給ふとこ。○下略。

——江戸志

按するに、神祖駿河國まを御在城の頃の圖にも西福寺といへる寺御城の傍まのも。

按するに、當寺貞譽の開山ならんには、三河駿河の兩國まを移轉し、後江戸まを移りしは、よほとの年月を歴し事なるへし。然るに上人遷化元和八年といへも、恐くハ江戸までの開山なるへし。又按るホ、元和二年丙辰神祖御他界後駿河衆を此所まを移されて屋敷を給ひしらハ、駿河臺の名ありといへり。恐らくは此寺も其頃移されしなるへし。寛永九年の江戸圖まを今の御成道より火消屋敷の方へのぼる角まを西福寺あるよし載たり。

昌清院殿ハ、洛陽の黒谷まを葬り奉る。是元和三年の事なれは、其後當寺も江戸まを移されしまより、先御位牌所と定められしなるへし。されはあくる四年寺領を附せられしならん。其因みにより寛永十四年良雲院殿を此寺ホ御葬送ありしまや。

——改撰江戸志

京都知恩院末。江戸增上寺下。淨土寺。淺草。

西福寺。

一、境内凡六千六百七坪餘。古跡拜領地。

右者慶長三戊年於駿河臺下前文坪數寺地拜領之。寛永十五戊寅年同所御用地ニ相成、於當所替地被仰付。其節ニ境内坪數等未詳。其後追々御用地ニ相成、當時坪數如往古六千六百七坪餘。

一、東光山松平西福寺良雲院、慶長三年起立。當寺根元ハ三州ニ有之。開山貞譽於駿府一寺ヲ建立シ號西福寺。慶長三年今ノ駿河臺ノ下ニ一寺建立シ、依三州ニ舊號東光山西福寺。蓋シ山號並御稱號ハ神祖所名也。具如後記。

一、本尊、無量壽佛。但シ立像、丈ケ三尺二寸。安阿彌作。

二脇士、觀世音、大勢至。但シ立像、丈ケ一尺九寸。作人不知。

一、開山號眞蓮社貞譽願故了傳上人。姓產不詳。嗣法於下總大巖寺安譽虎角。嘗テ駿州三州遊歷、住西福寺矣。神祖御壯年ニ頃ヨリ時々召貞譽、佛教ニ奥儀ヲ尋玉フ。天正十一年〇紀元二四三年。奉台命、駿府ニ一宇草創、號西福寺、住十有餘年也。慶長三年依台命來于當國建一寺神田村、依三州ニ舊號西福寺、住十有一年。退又遊駿府。于時深川法禪寺無住也。緇素請貞譽住。纔ニシテ退矣。元和元壬戌年五月廿七日終於法禪寺ニ境中。昔在遠州三方ヶ原犀ヶ峪、雲雨ノ夜有鬼哭之妖怪。其聲怒號、如悲嘷。聞之者慴怖、疫癘流行、民以愁之訟之神君。君曰是戰場也。令貞譽弔之。貞譽至彼所而假リニ草庵ヲ結ヒ、與衆僧持念七日。未落慶而鬼哭疫癘頓遏矣。神君美貞譽有道驗、將賜祿秩三百石。固辭。因之賜松平御稱號表動於後世矣。先是參州以來每月六日儲齋于公處、有時令講佛經。乃賞賜金襴僧伽梨。初大樹秀忠公亦寵遇最厚。有命講選擇集于金城中。寺附梅譽。

阿部伊豫守正勝從三洲之因爲檀越。於當寺建牌。松平助十郎正勝亦三洲已來檀越。依之建牌於當寺。

第二世薫蓮社梅譽上人唯念靈順者、佐竹之族也。其性篤實志操清高。慶長十三戊申知于此寺也、良雲院殿〇竹姫。待遇異他。住持之間多有營構之功。元和二丙辰年九月十五日化。壽四十三歲。梅譽嘗昌淸院殿阿姫、良雲院殿竹姫。傳法譜脈授與法名。

第三世源蓮社豪譽上人九把受梅譽遺囑自房州金臺寺而來。元和二丙辰九月知寺。俗姓佐竹家ノ老臣正木大膳子也。元和三年八月十九日昌淸院殿逝去シ玉フ。此時依台命建尊牌于當寺。元和四年新賜佛食百石武州千駄ヶ谷村。元和七辛酉年二月九日化矣。寺附定譽。

第四世天蓮社定譽上人向西隨波者、筑前國糟屋郡人。俗姓未詳。逮下關東遊幡隨意門、又隨觀智國師決宗願。初住上州館林善導寺。元和七年住知當寺。同九年奉台命住小石川傳通院。寛永四丁卯年累承喜惠住增上寺。同十二乙亥年九月十日化。

第五世雄蓮社正譽上人道故意天者、元和九癸亥年受定譽囑住于此焉。住持之間結夏建法幢會下。板頭以產者後年住增上寺。二臘相月者住于大樹寺。可謂盛矣。寛永十癸亥年轉住靈巖寺、補靈巖寺和尚之遺厥也。寛永十七庚辰年十月二十二日化。

第六世、中興稱蓮社檀譽上人空居順翁、姓產未詳。第二世靈順之徒也。寛永十癸酉年轉自房州金臺寺住于此。同十一年有台命賜忠長卿之舊殿。同十二年賜神祖御神影秀忠公尊影。同十三年始賜佛食御朱印。同十四年良雲院殿逝去。檀譽爲導師。尼公在世之時訟大樹君以當寺爲菩提所。且其歿後以兩君之尊影與自肖像同堺祝之崇一祠神與兩君護國家。君聽之。於此新建一祠。四時祭之。是當寺御別殿之興起也。同十五年戊寅、結界之地爲官用擧之。移寺于淺草河之濱。故有功於營構也。自梅譽

至正譽雖世有興隆之功、檀譽最功高才優。故稱中興。明暦元乙未年十二月廿四日依台命轉住洛陽黑谷光明寺。寛文二壬寅年辭彼寺職。同五年乙巳四月十日化。當寺經六世創業漸成。而以此時尤爲隆盛矣。

當寺本坊者別ニ開基無之。但自開山貞譽蒙神祖寵遇至六世檀譽代以來、昌清院殿良雲院殿御由緒ニテ寺門繁昌ニ相成ル。其狀如左。

良雲院殿天譽壽誓大禪定尼。第二世梅譽奉授戒號也。武田氏。名竹姫君。信玄第十四女也。信玄舍弟秋山越前守虎康爲養女。甲亂之日親族岩手信景信州長沼之領主也。信虎叔父武田治部少輔信義之孫。秋山虎康本姓武田、信虎第九男。甲亂後改姓。等共信州長沼武州八王子等之處ニ隱、天正十年、姫十六歳、始神祖ニ遠州横須賀ノ城ニテ見ヘ、同十一年生信吉君于同州濱松城。同十五年生阿姫君於中泉焉。元和二年四月十七日神祖薨去シ玉フ。姫忱慨、遂ニ薙染メ良雲院ト號ス。翌元和三年丁巳八月晦日阿姫モ亦城州伏見邑逝去シ玉フ。先是慶長八年九月十一日信吉公卒シ玉フ。良雲尼公悲歎ス情ニ不勝、甲州下山籠居セラル。大樹秀忠公聞知之マシ〳〵テ、尼公ヲ召シテ金城ノ東丸居ラシメ玉フ。寛永十四丁丑年三月十二日、東丸逝去。葬于當寺。第六世持檀譽順翁導師相勤ム。

昌清院殿英譽果悅善芳大禪定尼。

第二代梅譽所レ奉授ス號之。昔シハ戒ヲ授申ル得ハ禪尼ス號ヲ稱シル事。

右尊靈者神祖第八ノ姫君也。母ハ竹姫、武田氏。三州中泉生レ玉フ。慶長三年三月嫁蒲生飛彈守秀行生二男一女。嫡ハ下野守。次ハ女子、加藤肥後守忠廣ノ室。忠廣有罪。配流之後ハ姫蟄居相州鎌倉號相高院。三者中書監也。然ルニ慶長十七壬子年五月十三日秀行卒ス。二子繼家。相次テ夭死シ、國竟ニ除ル。

於是大樹秀忠公阿姫ヲシテ淺野但馬守長晟ニ再緣。元和三丁巳秋八月二十二日光晟ヲ產。後有病。同月晦日城州伏見ノ邑ニ卒シタマウ。于時年三十一。乃葬于洛陽黑谷。然ルニ兼テ當寺ハ菩提所ノ御約諾有之ヨリ建尊牌于當寺。昌清院殿奉號。但シ黑谷ニテ正清院殿ト申ス由。又藝州正清寺ノ尊牌モ正字ニ。蓋シ昌清院殿トハ阿姫君御存生ノ節當寺二世住持梅譽所奉授傳法之號也。依之從公儀尊牌建サセラルヽノ砌、第三世豪譽上件之趣申立、當寺ノ尊牌ハ昌清院殿ト奉稱。至于今御年回ミ節々者、松平安藝守殿ヨリ嚴重ニ御法事經營有之。其趣當寺ヨリ寺社御奉行所ニ屆書差出ス事先例也。翌元和四年賜佛食百石武州千駄ヶ谷村。

東照宮樣御眞影

台德院樣御眞影　　小野氏通女筆

右兩君ミ御眞影ハ寛永十二乙亥年依良雲院樣御願賜當寺。

良雲院樣御像ハ兼テ小野通女ヲメ令寫之。先是被爲納之。

右良雲院樣御心願ミ旨有之、御眞影ヲ神ニ祝リ奉リ、御武運御永久ヲ可奉祈之段懇ニ託玉。之因テ一祠建テ奉祝之。正月十七日、同二十四日、三月十二日、四月十七日、五月十七日、九月十七日、毎年六度御祭禮ヲ執行シ、天下泰平御武運御永久奉祈。然ルニ星霜年久シク、御別殿破壞ニ及シカバ、享和元辛酉年官ニ訟ヘ、再建シ奉ル。寺社御奉行土井大炊頭殿也。文化八年辛未年十二月祝融ノ災アリ。同九申年四月再官聽ヲ經テ修造之。乃チ今ノ御神殿也。寺社御奉行有馬左兵衛佐殿也。

一、御朱印高百石、武州豐島郡仙多ヶ谷村之內、元和四年ヨリ賜之。但御印璽ハ大猷院樣御代寛永十三

年十一月九日賜之。

武田氏ハおさけとのといふ。父の姓名詳ならず。第三の御女をうめり。振姫君と申といふ。藩翰譜ニハ御名分明ならすとあるせり。武田氏ハ後良雲院とのといふ。寛永十四年の三月十二日うせらる。淺草の西福寺ヨ葬れり。

——淺草寺社書上

家康公御部屋信吉公御母

良　雲　院　殿

武田信玄女。寛永十四丁丑三月十二日逝去。

——以貴小傳

淺　草　西　福　寺

御朱印寺領高百石。

——御佛供料書附

七郎殿ハ徳川殿第五の御男、御母ハ下山殿、秋山越前守虎康が娘也。初ハ御外戚の名字ヨよつて、武田萬千代と申しまゐらせ。○中略。御成人の後ハ松平七郎信吉と名のり給ふ。

——藩翰譜

良雲院殿天譽壽清大姉ハ、神君御妾なり。市川十郎右衞門女なり。天正三午、十六歳にて入輿。寛永十四丁丑三月十二日逝去。當寺ヨ葬奉る。是昌清院殿御母君なり。

——江戸圖說

古來實錄云、下山御方信吉卿御母良雲院殿と號せ。武田信玄の弟秋山虎景女。慶長八卯九月十二日逝、御法名良雲院殿天譽壽清大姉。

——江戸圖說集解

三州西福寺ニ義者明白ニ分り兼ハ。是迄公邊ハむ當寺書認ニ趣ヲ以申上來り、今般トテモ同斷ニ御座ハ。然處是迄不調ニ段麁略ニ義ニ付、此度相調度、問合差シハ處、安否未ニ申越ニ付、此節分り兼ハ。追ゐ明白相分りハハヽ可申上ハ。

駿府ニ一寺建立ハ新建ニゐ、三州ニ寺號を用ハ迄ニ義ニ御座ハ。

東都駿河臺下建刹ハ駿土ニ舊號を用ハ迄ニ義ニゐ、兩所共ニ于今西福寺有之、當寺山む駿臺創刹ニ時ニ新號ニ趣ニ書認有之ハ。

以前去ル事も有之シニヤ、明和年中開帳ニ節是等ニ義申觸レハ事ニ存ハ。文化八未年類火凶變ニ節ハ左樣ニ義無御座ハ。

營中ニ義辨ヘ不申ハ。但シ是ヨリ後天樹院樣ヲモ東之丸樣ト申上ハ由ニ御座ハ。當時何レノ御場所ニ事ヤラン。尤本文ハ拙寺古記ニ儘認之ハ義ニゐ御座ハ。

東照宮樣御七十ニ御像御束帶。台德院樣御年壽ニ認記無之御座ハヘ共、御髮御班白ニ被爲在ハ御束帶ニ御像。良雲院樣御法躰ニ御像。右三幅共極彩色ニ御座ハ。

神祖左リ向、二代樣右向、良雲院樣左リ向。○中略。

開山貞譽常人ニ秀ハ人物ニハヘハ、三州已來ニ守護神ニるへきも難斗ハ。併し當寺ヨテハ却る是等ニ申傳を失申ハ。認め置さる事の不念ヨ御座ハ。已來此趣記し置可申ニ存ハ。

當寺第四世定譽隨波代、良雲院殿自ラノ玩好ニ器物并ニ昌清院殿御遺物等ヲ被爲納。其中ニ鳥籠并ニ大閤殿下御所持ニ申傳ハ象牙ニ食籠菓子入、五七ニ桐ニ紋付タル梨子地ニ膳椀等アリ。文化八年十二月類火ニ節悉燒失せ。右鳥籠ニ赤ハラノ鶯入りしまゝ被納之。是を境内ニ放しハ共申傳ハ。但右ニ鳥籠に附會したる說歟も不知。何れニも鶯ニよき種當寺境内ニ有シヿと見ハたり云々。聢ニ致したる認記も無御座ハ。○中略。神田鍛冶町高井助左衞門、三州岡崎ニ產之。御入國ニ砌相從、關八州鍛冶棟梁ニハ。高井

彌三右衞門定春も岡崎ゝ産ニゐ、御入國ゝ砌相從、御廟內爲鍛冶棟梁。

別院。

一、眞行院。

一、往昔眞行ト云僧ノ草庵ゝ。寛永年中良雲院殿ノ御廟守リトシテ第六世ノ住持檀譽一院ニ取立、壽誓院ト號ス。中古眞行院ト改號ス。○下略。

塔頭源崇院。

一、境內百四十九坪餘。

一、本尊阿彌陀如來。但シ座像、丈ケ貳尺。行基作。

一、開基、念蓮社善譽長岡。寛永四卯十一月廿四日寂ス

塔頭林照院。

境內百五十八坪餘。

本尊、阿彌陀佛。但シ座像、丈ケ壹尺二寸三分。作人不ゝ知。

開基、忍蓮社響譽虎谷。寛永十二年四月十三日寂ス。

塔頭智光院。

境內百五十九坪餘。

本尊、阿彌陀如來。但シ座像、丈ケ一尺五寸。惠心作。

脇士、觀音、勢至。但シ立像、丈ケ二尺。作人不ゝ知。

開基、唯蓮社心譽無庵。寛永七庚午年十一月廿五日寂ス。

開基施主、高井彌三右衞門定春。戒名ハ智光院殿頓譽行圓大信士。寛永十四丁丑二月廿一日死。

——淺草寺社書上

東光山西福寺。良雲院と號ゝ。良雲院殿御尊骸を當寺に葬し奉る。故に院號と走。當寺に御墓所あり。鳥越明神より三町ばかり東の方にあり。江戸淨宗四ケ寺の隨一ゝして、本尊阿彌陀如來ハ安阿彌の作なり。三州よりうつさるゝとそ。開山を眞蓮社貞譽了傳上人と號ス。元和八年五月廿七日に寂す。遠州犀ケ淵戰死の迷魂得脫の師なり。迷魂得脫の功ハ武夫の戰功に等しけれは、其功を永世に傳へよと、神祖松平の御稱號并山號を賜ふ。往古三州ゝありしを、慶長の頃台命に依て當國駿河臺に移され、又寛永十五年今の所ゝて地を賜ふ。一夏中法幢を立、檀林に准ス。

東照大權現宮神影。神祖唯に台德公及ひ良雲尼公の御壽影をも寄附せられ、共に三軸あり。毎歲四月十七日御祭禮のとき諸人に拜せしむ。

江島辨財天祠。當寺の鎭守たり。本尊ハ畫像にして、弘法大師の筆なりと いへり。當寺第二世稱譽上人威德ありてこゝに安せらる。

——江戸名所圖會

同○慶長三年戊戌、○中略。松平西福寺駿州より江戸駿河臺の下へ移る。後寛永十五寅年に至り今の淺草へ移る。

——武江年表

東光山良雲院西福寺。淨土四ケ寺。知恩院末。寺領百石。開山心蓮社貞譽上人頓故和尙。了傳ト云、安譽虎角の弟子にして、犀ケ嶽亡魂を得脫の師なり。

御守本尊無量壽如來。聖德太子御彫刻。

大神君御感得靈像なり。傳へて夜光の彌陀と云。第八の御姫君滿姫君御讓り渡ゝ藝州太守ゝ嫁させられ御逝去後御菩提所故當寺奉納。

當寺往古參州松平郷ヨ有り。故ヨ松平西福寺と唱ふなり。

駿府御在城のみきり貞譽上人御歸依まし〳〵台命ヨ依て駿府ヨ移さる。慶長中御當地駿河臺ヨ地を給ふ。

寛永十五寅年淺草川濱ヨ所替ヨ。今の地なり。元和四年寺領御寄附あり。

寺中、　存心院、　法林院、　眞行院、　長應院、　智光院。

良雲院殿天譽壽清大姉は神君御妾ヨ。市川十郎右衞門女なり。天正壬午十六歳にて入輿。寛永十四丁丑三月十二日逝去。當寺に葬奉る。是昌清院殿御母君ヨ。

昌清院殿ハ慶長三蒲生家へ嫁し給ひ、後淺野長晟に再醮ヨ。元和三丁巳八月晦日逝去。御位牌當寺に安置。

多門兵衞稲荷祠。三州以來鎮座。

鎮守江島辨才天宮。第二世稱譽上人感得。弘法大師筆。

當寺年始獨禮、尤乘輿ヨ。一夏法幢、順檀林。鐘樓の藤名高かりしか、今はなし。初音の鐘三州ヨ隨身の鐘にて、他に異なりと云。

東照大權現御宮。庭中ヨ鎮座。古來より有しを近頃再建有之。四月十七日參詣を免ヨ。

——淺草志

西福寺。東光山ト號ス。淨土宗。京都智恩院末。開山貞譽。慶長三年駿州ヨリ駿河臺へ移シ、寛永十五年今ノ地ニ轉ス。寺地六千六百七坪。

支院六宇。眞行院、法林寺、長應院、林照院、智光院、存心院。

——東京府志料

西福寺。本町（南元町。）ノ西南隅ニ在リ。寺地東西五十三間三尺、南北一町四十間二尺、面積六千二百二十六坪。淨土宗。京都知恩院末派。天正二年甲戌僧貞譽開山。僧了傳開基。慶長十三年戊申駿府ヨリ本府駿河臺ニ移リ、寛永十五年戊寅又此地ニ轉ス。子院六宇。法林寺、眞行寺、長應院、林照院、存心院、智光院。

——東京府誌

東光山松平良雲院西福寺。

淺草區淺草南元町ニアリ。域内五百貳坪。淨土宗。天正十一年癸未僧了傳（眞蓮社貞譽顯故。）一寺ヲ駿府ニ創建シ、西福寺ト號ス。（或云、天正六年戊寅遠江濱松ニ創建スト。）慶長三年戊戌駿河臺下神田ニ移リ、東光山ト稱ス。遠江三方原犀峪嘗テ鬼哭アリ。其古戰場タルヲ以テ、德川家康了傳ニ命シ、之ヲ弔セシム。了傳草庵ヲ結ヒ、經ヲ誦スル七日。鬼哭乃止ム。家康其法驗アルヲ以テ、松平ノ稱號ヲ與フト云。（寺傳。）後深川法禪寺ニ住シ、元和八年壬戌五月廿七日寂ス。寛永十三年丙子十一月六世僧順翁（稱蓮社梅譽。）ノ時、德川氏寺領百石ヲ付シ、同十四年丁丑三月十二日家康ノ妾武田氏（於竹局。）卒シ、本寺ニ葬リ、良雲院天譽壽誓ト謚ス。武田氏ハ晴信第十四女ト云。武田信吉及振姫ヲ生ム。振姫蒲生秀行（飛彈守。）ニ嫁シ、後淺野長晟（但馬守。）ニ再醮シ、元和三年丁巳八月晦日伏見ニ卒シ、昌清院英譽果悅善芳ト謚シ、亦位牌ヲ本寺ニ置ク。（按ニ、信吉ノ母ハ部本武田系圖云、武田晴信ノ女穴山信君ニ嫁シ、其養女家康妾トナリ、武田信吉ヲ生ムト。然ルニ下總小金町本土寺信吉母墓アリ。貞享元年德川光圀碑ヲ建テ曰、夫人秋山氏、諱都摩、越前守虎康女云々ト記ス。則信吉ノ母ト云者蓋誤ナリ。今姑ク寺傳ニ據ル。）

西福寺。藏前森田町の北にして、今寺邊を富坂町と云ふ。（小石川富坂町の代地なりしに由る）。松平山と稱し、淨土宗を奉し、參河國より德川家に附隨し來れる者とも。寛永圖によれば、駿河臺下なる淡路町を西福寺の舊地とも。

——大日本地名辭書

東光山松平西福寺は良雲院と號し、江戸淨土宗四ヶ寺の隨一にして、本尊阿彌陀如來ハ安阿彌の作なり。

——東京通志

松平神社事蹟

○中略。江戸名所圖會云、往古三州にありしを、慶長の頃台命に依て當國駿河臺へ移さるゝ々。武江年表には慶長三年戊戌松平西福寺駿州より江戸駿河臺の下へ移ると。寛永七八年の頃の江戸繪圖を見るに、今の淡路町一丁目の角地は西福寺の境内なり。同書ゟ又云、寛永十五寅年に至り淺草へ移ると。されば四十年間淡路町の地に在りしこと明白なり。寶暦の古圖ゟは既に屋舗となりて寺はなし。維新前までは松平左衛門尉の上屋舗の地ゟして、今は殷賑なる市街となり、商家軒を連ねて、其繁榮小川町に亞ぐ。

西福寺は南元町五十一番地に在り。東光山と號し、良雲院と稱す。淨土宗にして京都知恩院の末なり。開山は貞譽了傳上人とす。山門の扁額に松平西福寺とあり。○中略。當寺は初め駿河國府中に在りしが、慶長三年江戸神田駿河臺に移り、寛永十五年此地に轉せり。○中略。良雲院の稱は、德川家康公側室（武田信吉母）の法號なり。當寺に其墓あり。

——新撰東京名所圖會

松平神社

松平神社。祭神東照宮。寛永十二年二月創立。社地三百八十七坪。

——東京府志料

松平社。本町○南元町。ノ中央西方ニ在リ。社地東西二十間、南北二十二間三尺、面積四百四十五坪八合。寛永十二年乙亥創建ス。祭神東照宮。合殿三位。仲哀天皇、神功皇后、應神天皇。明治五年十一月村社ト爲ル。祭日四月十七日。

——東京府誌

松平神社。

淺草區南元町ニアリ。域内四百四十五坪。德川家康ヲ祀リ、仲哀天皇神功皇后應神天皇ヲ合祀ス。寛永十二年乙亥之ヲ創建シ、舊西福寺ニ屬ス。明治ノ初之ヲ分離シ、同五年壬申十一月村社ニ列ス。祭日四月十七日トナス。

——東京通志

稱念寺（淨眞）草創

松平神社は南元町四十九番地に在り。新堀川に面す。德川家康公を祀る。寛永十二年乙亥四月の創立にして、明治五年十一月に至り村社に列す。大祭日は毎年四月十七日なり。

本社は南ゟ向ひ、極て質素の構造にて、前面に葵章を附す。石の鳥居あり。創立當時建る所にして、現在のものは□□二年乙丑四月の再建に係る。

——新撰東京名所圖會

稱念寺事蹟

慶長三年戊戌、○紀元二二五八年。淨土眞宗高田派ノ僧正傳、稱念寺ヲ禰宜町ニ草創ス。同十二年丁未○紀元二二六七年。野々藏ニ移リ、正保元年甲申○紀元二三〇四年。淺草寺町○淺草永住町。ニ移ル。○再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。淺草寺社書上。續府内備考。淺草志。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

稱念寺

光澤山滿志願院稱念寺。

開山正傳權僧都法眼。

塔中　觀名寺、　願信寺、　最尊寺、　覺音寺、　本行寺。

右兩寺○唯念寺。稱念寺。と溜池の澄泉寺と三ケ寺は、一身田の考分ゝ。考分とは院家の心ゝ。本寺勢州高田山無量壽院ハ親鸞上人の草創ゝ。寺領三百七十石。此一身田建立ハ後堀河院嘉祿二年○紀元一八八六年。ゝ。京本願寺の建立ハ龜山院文永九年○紀元一九三二年。ゝて、高田より四十七年後ゝ。元祖の入滅より十一年後なりと。

——再校江戸砂子

同派○高田派。　同○寺町。

光澤山稱念寺。高田一向宗。

武州淺草。開山、正傳權僧都法眼。

寺中。　寶池軒。　淨性軒。　良正庵。　慈照軒。　德壽庵。

——江戸惣鹿子、江戸志

淺草新寺町稱念寺

一、拙寺境內惣坪數、拜領地千七百五坪餘、東西三拾五間餘、南北五拾五間餘。

一、宗旨ハ義ハ淨土眞宗、高田派觸頭、勢州一身田專修寺御門跡末。

一、光澤山滿志願院稱念寺。

一、開山、授法院正傳大僧都。寛永九申十月九日寂。勢州白子田端道場現住ニゐ、田端道場壽善寺ト稱、當寺再帶所ニ御座ハ。神君樣御料國ニ砌、關東ニ致遊化、慶長三戌年禰宜町ニ於て地所拜領仕、當寺致草創ハ。同十二未年野々藏ゐ移、正保元申年當所ゐ替地被仰付、已後連綿致住居ハ。其節寺社奉行安藤右京亮殿松平出雲守殿ニゐ御座ハ。

——淺草寺社書上

本堂。本尊、阿彌陀如來。立像、長二尺六寸。惠心僧都ノ作。

祖師聖人親鸞ミ木像。無上院宮眞影畫像。聖德太子木立像。七祖眞影畫像。

什物。

開山親鸞聖人眞筆十字名號。　一幅。

眞惠上人直筆文章。　一通。

同上人野袈裟切直筆名號。

大鐘。文化三寅年三月四日鐘樓燒失ミ砌損ハ間、同年十一月寺社奉行大久保安藝守殿伺鑄直申ハ。

——續府內備考

大日本東海道武藏國江戸城淺草里光澤山稱念寺鐘銘并序。

稱念寺舊在伊勢國白子村。慶長年我祖傳公移刹於此。今七十年矣。寛文戊申司垣不儆災延三寶。貧道受海身罹斯厄。耿々六年。檀越爲之詢謀。以客歲癸丑從事於土木。凡十閱月、殿堂門廡、渠々然、翼々然於前有光矣。唯是巨鐘之未備、四谷人長岡長重夙寄心佛乘、深信歸依、獨能自奮、命鬼氏會工治、範金鎔金、而洪鐘一旦告成焉。甬舞乳櫟、不窕不撰、噲噦碎訇、上徹有頂、下入無間。先哲有言、曰、衆生定業不可滅、唯聞鐘其苦息耳。又曰、天以震雷鼓群動、佛以鳴鐘覺大夢。鐘之德其博哉。貧道深嘉其績。乃錄其因。係之以銘。々曰、

茫土之野　淺草之里　有欝叢林　寶樓中峙　筍簴維樅　縣協宮徵

晨發菩提　昏證般若　三塗其脫　五欲其捨　永護三寶　追蠢不墮

延寶二年歲次甲寅夏四月　當寺第三世嗣法　沙門　受　海

檀　那　長岡權兵衞源長重　法名宗念

舊鐘延寶中長岡宗念獨力所就、而我三祖海公實撰其銘者也。本歲春月高繩失火、闔刹延燒、而鐘亦隨而燬焉。栗谷道雲小傳馬街人也。生游願海死入無畏。其妻妙景與子宗閑能承繼其志、乃收鐘于燼餘、揮財改鑄。災後舊物之復實是爲始。功亦偉矣。玄明坐受其再造、謹具顚末於舊銘之後。蓋妙景以燬鐘爲之本。則海公之銘予不敢改作者、亦存宗念功也。

文化三年歳次丙寅冬十一月。

第十一世嗣法　沙門　玄　明

檀那　故栗谷道雲妻　法名妙景

男　源　七　法名宗閑

鑄　工　和　泉　守　藤　原

——淺草寺社書上

塔頭

一、覺音寺。

開基、寶池院玄澄法師。勢州白子產。俗姓田中氏。寶永四亥年二月九日寂。

其餘相分不申ハ。

——淺草寺社書上

本尊、阿彌陀立像。丈二尺一寸。聖德太子作。

什物。

一、祖師親鸞聖人眞影畫像。

一、歡喜心院宮眞影。

一、聖德太子眞影。

一、七祖影像。

——續府內備考

一、歡名寺。

開基、良正院覺祐法師。勢刄白子產。俗姓鈴木氏。天和二戌年正月廿九日寂。

其餘由來不ニ相分一ハ。

——淺草社寺書上

本尊、阿彌陀如來。惠心僧都作。長二尺一寸。立像。

什物。

一、祖師親鸞聖人眞影。

一、歡喜心院宮眞影。

一、聖德太子眞影。

一、七祖影像。

——續府內備考

一、願信寺。

開基、妙理院誓恩法師。俗姓知れ不ニ申一ハ。寛永十九午年十二月七日寂。

——淺草寺社書上

本尊、阿彌陀如來立像。聖德太子作。丈二尺一寸。

什物。

一、祖師親鸞聖人眞影畫像。

一、歡喜心院宮眞影。

一、聖德太子畫像。

一、七祖影像。

——續府內備考

關東首都時代

一、最尊寺。

開基、誠心院教印法師。俗姓相知不〻申ハ。元祿三午年正月廿日寂。

——淺草寺社書上

本尊、阿彌陀如來立像。丈二尺五寸。春日作。

什物。

一、祖師親鸞聖人眞影畫像。

一、歡喜心院宮眞影。

一、聖德太子眞影。

一、七祖影像。

——續府內備考

一、本行寺。

開基、慈照院善正法師。勢州白子產。俗姓山中氏。來由相知不〻申。正保四亥年正月廿一日寂。

——淺草寺社書上

本尊、阿彌陀立像。丈一尺三寸。古佛。

什物。

一、祖師親鸞聖人眞影畫像。

一、歡喜心院宮眞影。

一、聖德太子眞影。

一、七祖影像。

——續府內備考

稱念寺。光澤山ト號ス。眞宗。勢州一身田專修寺末。慶長三年禰宜町ニテ起立。同十二年矢ノ倉ヘ轉シ、正保元年今ノ地ヘ再轉ス。開山正傳。寺地千四百六十五坪。

子院五宇。覺音寺、本行寺、願信寺、歡名寺、最尊寺ト云。

——東京府志料

光澤山滿志願院稱念寺。高田派一向

開山正傳權僧都法眼。

塔中、　觀名寺、　願信寺、　最尊寺、　覺音寺、　本行寺。

——淺草志

稱念寺。龍福院ノ東北ニ在リ。寺地東西二十七間、南北四十七間四尺、面積五百六十五坪一勺。正保元年甲申矢之倉ヨリ此ニ移ル。眞宗。伊勢國專修寺末派。慶長三年戊戌僧正傳開基。開山不詳。子院五宇。覺音院、本行寺、願信寺、觀名寺、最尊寺。本寺今眞宗專修寺派ノ事務取扱所トス。

——東京府誌

稱念寺は同町（○永住町。）十九番地一號に在り。光澤山と號し、滿志願院と稱す。眞宗高田派。伊勢國專修寺末なり。慶長三年僧正傳の開基に係る。現住職は鈴木光敎師なり。舊支院の現存せるその左の如し。

本行寺は同町二十一番地に在り。

願信寺は同町二十五番地に在り。

覺音寺は同町三十二、二十三番地に在り。

觀名寺は同町二十六番地に在り。

最尊寺は同町二十四、二十六番地に在り。

本堂は莊宏にて、鐘樓の結構亦觀るべし。地域の廣からざるは惜むべし。什寶ヨは聖德太子自作と稱する自像、探幽下繪墨欄間、法橋顯作筆涅槃像（幅九尺長二間）、親鸞上人書寫の大無量壽經優婆提舍願生偈、及び念佛往生古要儀抄等あり。

——新撰東京名所圖會

同年（慶長三年戊戌、紀元二二五八年。）淨土眞宗ノ僧純海、法泉寺ヲ芝（西應寺町。）ニ草創ス。（江戸砂子。續府內備考。東京府志料。東京府誌。）

光明山法泉寺。　同。（東。）　同。（芝。）

京都本願寺末。

光明山法泉寺。

境內古跡西應寺年貢地二百七十坪、內門前町家五十七坪。

起立ミ儀舊記燒失相知不申ハ。

開山釋純海。元和五未年五月八日寂。

本堂、間口六間奧行五間半。

本尊、阿彌陀如來。

東照宮樣御紋付御尊牌。

御代々御紋付御尊牌。

親鸞上人眞影。

常如上人裏書、寛文五年巳仲秋廿八日武藏國豐島郡江戶庄金曾木村法泉寺常什物也。

——江戶砂子

宣如上人眞影。

琢如上人裏書、萬治三年七月廿五日。

乘如上人眞影。

達如上人裏書、文政九年十一月三日。

三朝高祖眞影。

宣如上人裏書、年號文字不詳。

聖德太子眞影。

裏書右同斷。

寶物。

一、阿彌陀如來木像。（丈一尺二寸、聖德太子作。）

一、阿彌陀如來木像。（丈七寸。惠心僧都作。）

一、六字名號。（蓮如上人眞筆。）

——續府內備考

法泉寺。町（西應寺町。）南ニアリ。寺地東西二十間、南北十六間。面積百六十四坪。眞宗。京都東本願寺末派。開山純海。元和五年寂ス。境內百六十四坪。租稅地。

慶長三年戊戌創建。僧純海開山。

——東京府志料

——東京府誌

長谷寺（禪）草創

麻布笄町ノ禪刹長谷寺ハ、天正十二年甲申（紀元二二四四年。）櫻田溜池ノ龍雲院ヲ移シテ改稱ストノ説アルモ、非ナリ。山口重政（修理亮。）ノ邸地ニモト觀音堂アリ。慶長三年戊戌（紀元二二五八年。）重政之ヲ修營シテ長谷寺トナス。開山ハ宗關（門菴。）ナリ。元和年間山口氏更ニ溜池ノ廢寺龍雲院ノ舊地ヲ得テ、院ヲ長谷寺ノ兼管ニ歸ス。龍雲院ハ傳ヘテ天正十二年甲申（紀元二二四四年。）ノ草創トナス。故ニ彼此混淆シテ天正ノ移轉改稱説ヲ生ゼシナリ。（再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。江戸紀聞。望海毎談。續府内備考。江戸名所圖會。東京府志料。東京通志。新撰東京名所圖會。）

長谷寺事蹟

長谷寺

普陀山長谷寺。　曹洞宗。　大中寺末。　かうろい橋。

開山、門菴宗關和尚。

本尊、觀音。和州長谷のうつし。立像。二丈六尺。御首ハ長谷と同作。

當寺もと溜池の上にあり。天正十二年（紀元二二四四年。）當所ヨ移。はしめハ龍雲院といひしとゝ。小松原稲荷の社あり。境内三萬坪餘ありといふ。古杉老松梢をつらねて、稀有の茂林たり。大門より中門まて三町むらり。左右大木つらなり、すゝしの坂ヨて景色よし。

高野槇の大木あり。根より一尺はかり上より枝葉四方へまけりたり。　——再校江戸砂子

補陀山長谷寺。

下澁谷。　下野富田大中寺末寺。

開山門菴宗關大和尚。天正十二年（紀元二二四四年。）移ニ於溜池上龍雲院之地一、置ニ于此日年一改ニ龍雲院號一長谷寺。

本尊釋迦。

末寺。　武州黑金　宗榮寺。　同龍土　長德寺。

普陀山長谷寺。　禪宗、曹洞宗林、大中寺末。　同所（寄山。）長者丸。　——江戸惣鹿子

開山、門菴宗關和尚。

江戸砂子ヨいむく、天正十二年（紀元二二四四年。）溜池の上より移る。本尊觀音、和州長谷のうつし。立像。壹丈六尺。御頭ハ長谷と同作ゝと云々。此寺始ハ龍雲院と號せしか、後ヨ長谷寺と改む。

鎮守、小松原稲荷。

境内凡三萬坪餘ありと云。古木枝を交へ、大門より中門迄三町計、左右に大木並らひ立る中ヨ、殊に目茂とゞむるハ、高野眞木の大木、根より壹尺むかり上より、枝葉四方茂りて、誠に珍しき木ゝ。其境寂然として、江南第一の勝地なりと、江戸惣鹿子名所大全ヨも書り。亦いむく、山口家傳云、當寺は昔山口重政開基ヨて、屋敷の内を分て菩提所となし、龍雲院と云。重政母公の爲ヨ起立もる所ゝ。此母公ハ織田信秀の家臣岡部彦九郎正房女にて、寛永二年乙丑三月廿五日、九十二歳にて江戸に歿も。法號長谷寺殿南室妙薫と號も。其後故有て山口家の墳墓不殘屋敷の内へ引取、長谷寺と境を隔るとや。　——江戸志

今按に是によれは、砂子のなせる處、例の妄說たるへし。

此寺は芝泉岳寺とおなし開山なり。

夜叉神。

出世大黑天。　日蓮上人作。

愛染明王堂。

中門に大觀音あり。則本尊なるへし。裏門の內ゟ稻荷社あり。

——江戶紀聞

長谷寺、靑山の末笄橋の脇ゟ有。其初ハ麻布溜池の南の端ゟ有しを、山口伊州當澁谷の地靑山にて屋敷地を坪廣く下されし故、長谷寺の住持と相談して、溜地の端の寺地を上屋敷として住居し、其代りとして當所の屋敷地の內にて廣く代地を渡され、初より如何成約束故か、其寺を屋敷の內に構させ、出入の口をも屋敷の門よりせさせて、內寺とせらる。かゝる譯を每度非と申云へども別口にせず、終ゟ其住持ハ遷化し、後住の代に公事と成。尤他所ゟある寺地を自分の居屋敷とし、其代地を下屋敷の內ゟて、出入の口も別にせられざること無道の致され方と聞えしまゝ、山口の方より東の方を寺へ添地して、出入の門を設けさせたり。故に外よりの見分もよく、其東の表通りの分門前の借屋と成、古跡地となりて、立像の釋迦を本堂に摸したり。此時より妙心寺派を改、曹洞宗と成る。

——望海每談

澁谷。

普陀山長谷寺

禪、曹洞宗。

一、境內坪數壹萬八千四百四十六坪餘。古跡拜領地。內惣小間百八十七間五尺門前町屋。千五百坪、大

安寺へ貸地。

當地所拜領ゝ節壹萬九千三百拾八坪致拜領ハ處、其後延寶九酉年取調ハ節、貳百坪減、壹萬九千百拾八坪ニ相成、其坪數ニゐる書上申ハ。減坪壹萬九千百拾八坪ゝ內六百七十貳坪同年願ゝ上道敷御用地ニ差上、代地不被下ハニ付、猶又相減、當時ゝ坪數ニ相成申ハ。

右長谷寺儀ゝ、御入國以前ゐ有來本尊十一面觀音ゝ靈像を致安置、御入國後山口修理亮殿澁谷原ニて下屋敷拜領ゝ節、長谷寺境內共ニ屋敷內ニ相成、同侯堂宇建立被致、大中寺十二代門庵宗關和尙を請し致開山祖、菩提寺ニ被仕置。然處外櫻田溜池ゝ端ニ龍雲院ゝ申ハ大中寺末院有之、拜領ゝ古跡御座ハ處、住持天堯代類燒仕、元和六七年ゝ頃歟。殿堂再建相成兼、當分空地ニ仕置ハ故、修理殿居屋敷ニ被相望、本寺ゐ相談ゝ上、公儀ゐ被願上拜領被致ハ。但年月者多分元和八九年ゝ比ゝ相見ハ得共確ゝ相分り兼ハ。右爲代地、同人下屋敷ゝ內長谷寺有之ハ場所ニゐる、壹萬九千三百拾八坪被指上、龍雲院ゝ代地ニ相渡りハ得共、無住ニ付、有來り長谷寺ゐ合寺同樣ニ相成、龍雲院ゝ號相唱不申ハ。當所長谷寺儀ゝ慶長三年宗關和尙山口家依請住職ニ相成、同年三月十五日入院ゝ記錄相見ハ。然る上者龍雲院境內ゝ代地ゝ趣ニ相見ハ譯、別帳ニ寫差上申ハ。

一　普陀山長谷寺開山門庵宗關大和尙御當家ゐ御由緒ゝ覺。

當寺開山祖師門庵宗關大和尙禪師者生國駿河源氏之子、大中寺十一代勅賜寶鏡圓明禪師建室宗寅和尙ニ參得シテ、其室中ニ獨步し道名日々ニ籍甚タり。因之東照大神君時々被爲召、禪學ゝ御師範申上ハ處、病を以參州ニ住庵する事數年。其後大神君御入國ゝ後、慶長ゝ初被召呼、殊ニ兩御所公御崇敬ニよゐゝ、江城ニゐる初住開山ゝ寺地過分拜領被仰付、開山所數多御座ハ。當地者慶長三年ゝ春三月廿五日入院、專

國家安全ニ御祈禱として、座禪誦經不怠嚴密ニ住持し、兩御所公ニ御恩賜益厚記するゑいとまあらに。又慶長五年庚子ニ春江城ニ可睡富宋山和尚ヲ召して法問被仰付ふ趣、記錄ニ拜見申ふ。

門庵宗關和尚在世傳記

一、師者天文十七庚戌年（○天文十七年ハ戊申ナリ、庚戌ニアラズ。紀元二二〇八年。）ニ生、駿河今川義元公ニ嫡子氏眞公ニ三男若王寺ナリ。大中寺十一代宗寅禪師ニ參得シテ、道名殊ニ高シ。依東照神君駿府御在城ニ砌、禪學ニ御師範タリ。病ニ依參州ニ住庵スル事數年、後神君御入國被爲在、慶長ニ砌被召呼、兩御所君甚御崇敬、同曆三年ノ春長谷寺開山トナル。同九甲辰三月二十六日皆川傑岑寺ヱ轉住。同年八月朔日ヨリ小田原最乘寺ニ轉住シ、期了テ大中寺ニ還住ス。元和元乙卯三月十五日同寺ヲ退キ、又傑岑寺ヱ歸住シ、同曆二丙辰九月十五日江府龍雲院ヱ轉住、同五己未九月二十八日芝泉岳寺ヱ隱居シ、同曆七辛酉年十一月二十六日行年七十四歳ニテ遷化。

一、開闢起立ニ譯。御由緒並緣起等委細別帳ニ仕、寫差上申候。

一、長谷寺境內壹萬九千三百拾八坪。慶長ニ初開山門菴宗關和尚拜領仕、同曆三年春三月十五日入院仕ふ。然所澁谷長谷寺開闢天正十二申年（○紀元二二四四年。）天和元戊年迄九十九年ニ罷成ふ。開山者大中寺十二代門庵、右拜領ニ古跡ニ紛無御座ふ。

天和元戊年四月廿五日

澁谷　長谷寺　鐵印
玖
本寺　大中寺
鐵　重印

寺社御奉行所

御役人衆中

右ニ通天和二戊年寺社御奉行秋元攝津守殿御勤役中相認差出ふ趣、記錄ニ相見ふ得共、右ニ長谷寺開闢ニ付て無御座、天正十二申年（○紀元二二四四年。）ハ櫻田溜池ニ端龍雲院ニ開闢ニ御座ふ。長谷寺開闢者前々文ニ相認ふ通、慶長ニ初ニ相見ふ。委細譯柄者記錄並緣起寫書ニ御座ふ。

一、龍雲院開闢柏堂宗淳和尚者大中寺九世ニゐ、慶長十年乙巳正月十日行年七十九歳ニゐ遷化仕。左ニ傳記認加入御覽ニ入ふ。

師天文四乙未年（○紀元二一九五年。）產地、（○脫文カ。）天正十五丁亥（○紀元二二四七年。）四月十五日進山于大中寺矣。五十三歳爲。法幢大興矣。天正十九年辛卯（○紀元二二五一年。）冬、東照大神君有台命以大中寺而爲日本曹洞僧錄ニ寺矣。而董正於宗門之事矣。又百石ニ御朱印矣、於下皆川也五十三石於山田邑也四十七石矣、以充香厨也。寺ニ境地ハ別也矣。文祿四乙未七月讓席於良雄而隱居於皆川最勝寺ニ者十有三年。慶長十年乙巳正月十日于寂。壽七十一歳也。

一、大鐘。

渡貳尺貳寸五分。龍頭迄四尺壹寸。

銘ニ曰、

武州豐島郡澁谷庄高貝村補陀山長谷寺者門庵宗關和尚開闢之禪刹也。近江湖之兩派雖有永脈之靜終歸曹洞正宗也。再依往昔之摸楷整同時之威儀而擧揚中間零碎焉。寔少林之命脈綿々哉。佛法興隆時至矣乎。雖然曾以無金童然欠闕而已。今雖掛小鐘於擔下、其用偏局而似焉有敬。予實有願敢

不畢力也。因同志者有檀越柳原氏道本居士而代于予願亦欲烏祖稱菩提鏤戒號以貽來者而終擲寶財命工摸鑄這箇也。其體圓、其用無不應處。庶幾四海蒼生各々隨分觸聞、則破長夜暗覺煩惱眠矣。若又向聲色之外認得聞聲上郎恰道見色上郎明心矣。竊以夫居士何人哉。所謂從頭依無邊功德生來種子圓明而正游泳佛海之波瀾且安座歷祖之閫域、豈疑諸乎。如今見叢林之華鯨不可無銘刻。故比之下筆端愧傍隣舍毀聲卑者歟。

銘曰、

全體鐵腸圓　厥洪韻巨宣時安國土　切々戰家筵　解脫無明　歸趣般若船　壽齡千萬億長護補陀嶺。

旨寛文十貳歲次壬子林鐘月　施主榊原氏道畜

補陀山長谷現住骨零久徹代

各靈位、

見林道圓心窓貞印德譽道悅
喜窓理慶貞泉玄富入京妙清
月窓妙順端宗常喜忠庭善功
實峰貞心　琴聲院殿嶺室高音大姉　幻花春香
玄芳牛助　幻孫春花　萬吉童子
快叟常活孤月秋高

本堂。間口七間、奥行九間半。

本尊、釋迦如來。木座像。長一尺九寸。

脇士、文殊菩薩。普賢菩薩。各木座像。長一尺二寸。

開山門庵和尚像。木座像。長二尺五寸二分。

佛殿。間口八間半。奥行六間半。

本尊、十一面觀世音。木立像。長二丈六尺。

右天照皇大神、左春日大明神。共、木立像。長七尺三寸二分。

右ハ正德六丙申年當寺八世宗悅代堂宇共造立仕ル。施主ハ内藤豐前守殿　米倉丹後守殿ニ御座ル。其外萬人ニ助成ニヨリ成就仕ル。

同像。楠ニテ作ル。長四寸餘。

右ハ大和國及鎌倉兩長谷寺觀世音同木同作（替主動替文會作。）何ニ頃ニ彫刻ヨリて御座ル哉　御入國以前より當寺ヨリ安置有之。右觀音寶冠ニ内ヨリ納置申ル。

江戸住鑄師　宇多川善四郎藤原利重

澁谷長谷寺觀音略緣起

夫觀世音菩薩の利益甚深なる事ハ、諸の經文に廣く說給ふ。其趣たやすく云盡しかたし。十一面咒經の意ハ、□願を求めむと欲するものハ、淨信心を以十一面觀世音の像を作り、清淨の所ヨリ安置し、そろ〳〵の飲食を備て、香花燈火を獻し、密咒を誦して如法に修行し供養をる時ハ、ねがひに隨つて成就せをと

云事なし。現ゝ於て十種の勝利を得へし。一ゝは身常ゝ病なく、二ゝは常ゝ十方の諸佛ゝ□念せられ、三ゝは一切の財物衣服飲食乏しからに。四ゝは能怨敵を破り、五ゝはいよ〳〵衆生をして慈心を生せしめ、六ゝは一切の蟲毒熱病ゝおろされも、七ゝは刀杖の害なく、八ゝは水難漂溺をる事なたむに。九ゝは火難焚燒せに。十ゝは横死を受す。復四種の果報なり。一ゝに臨命終のとき十方無量の諸佛を見。二ゝは永く地獄ゝ墮せに。三ゝは一切の禽獸ゝ害せられに。四ゝは命終の後無量壽國ゝ生をるといへり。又次ゝ廣く修行の儀軌を說り。誠ゝ惟を念をる人信心能一なる時む、菩薩の應現水ゝ月影の移るかことく、信心の水清からむ事を思ふべし。然るゝ我朝元正天皇の養老年中ゝ法道仙人願を發し、十一面觀音の像を作らむと欲を。爰ゝ近江の國高島郡三尾ゝ崎といふ所ゝ洪水なりて、楠の木の大なる橋の木をなゝし出せり。僊人靈木なる事を知りて、木ゝ向て加ちをるに、十五年の後藤氏房前奏有つて官租を賜ひ、稽主勳稽文會といふ佛工ゝ命し、貳丈六尺の尊像を成就し、本木ゝて作れるは、神人の告ゝより、和州長谷寺ゝ安置を。末木にて造れるは、緣有方へあらり給へとて、海中ゝ入らる。數百年を經て相州馬入に流れよりさる茂取上、鎌倉ゝ安置して長谷寺と號を。詳ゝ元享釋書並鎌倉志等ゝ載たり。某等四方に募りて貳丈六尺の尊像を彫造し奉るは、當寺開闢より爾來安をる處の十一面觀世音は御丈四寸餘、和州長谷の觀音と同作ゝ。これに因て長谷寺と名つく。加之天滿宮は十一面の靈應なれは、長谷の鎭守と仰く。當寺も亦天神を鎭守とし、自作の尊像を安置を。秋葉大權現稻荷大明神の社を構ふるは、十一面の垂迹なれはゝ。山を普陀と號をるむ、天竺の南海及ひ大唐の□涯觀音遊舍し給ふ普陀山ゝ準擬を。靈作の諸佛ゐさつ諸天諸神の尊像百體にあまりて、今此山ゝ鎭座し、佛舍利の光明衆生此罪闇を照破し給ひ、松聲竹韻妙法を談し、山邑溪光□落の紅塵を遮り、粉禽林ゝ囀り、蘭草叢をなを。見聞盡く道緣優ゝ、行住自禪心清し。大悲示現の道場誠ゝ勝れたりといへとも、其謂れ未ゝあらはれさるゝあとし。此故ゝ新ゝ十一面の大像を摸刻して、小像の觀世音を御くしゝ納め、並ゝ一宇の堂を創建して、大和鎌倉の長谷寺とおなしく、天下安泰武運綿延、黎民慶快ゝして、長ゝ豐年をゝのしみ、一膽一禮の輩ともに因緣を結ひ佛道を成し、利益無邊ならん事を禱るのみ。一度も此山ゝいるをものは、永く三惡の苦を離れ、一禮も此尊像にかを人は、速に二世の願をなをといへるも、長谷觀音靈驗あらゝなる故ゝ。凡人として願ふ事なきハあらし。若願ひの充む事を思むゝ、此尊像を敬ふにをくはなし。況東都の人む、驛路の遠ふ方を渡らをして、大和鎌倉の觀音を眼前ゝ拜し、拔苦與樂の惠を蒙る事、世に稀なる幸にあらさらむや。深く信心憶念をる人は菩薩靈感響ゝ應をるかことくならん。

正德三癸巳春　　澁谷普陀山長谷禪寺

化主某等記

達磨。大權。各木座像。　十六羅漢。各木座像。　賓頭盧。木像。　正觀音。木立像。　閻魔王。木座像。

圓通閣額字。月舟筆、横一丈二尺餘。竪五尺餘。伊澤玄庵寄附、八世圓海代、享保十八丑年庇上ニ掛シ之。

施無畏額字。阿正誠筆。横三尺、竪一尺三寸。

古佛堂。○中略。

玄關。○貳間半四方、唐戸兩開。

中玄關。間口三間半、奥行二間半、敷台六尺二間。

書院。梁間三間、桁行五間。半庇六尺、二間半。

裏書院。貳間半、五間半、葺下。

右は黑田備前守殿先祖筑前守忠之殿潛居之節、自分屋舗を取寄急に造立被致ふに付、黑田殿一夜書院と相唱申ふ。

次座舗。梁間三間、桁行五間半。二間に五間半ノ葺下。

小方丈。梁間三間、桁行四間、庇六尺四方、九尺に二間半、葺下。

同次座舗。間口四間半、奥行二間。

小庫裏。梁間三間、桁行七間半。

角屋。三間に四間半、三間に九尺ノ井戸屋附。

大庫裏。梁間四間、桁行八間半。

本尊、韋駄天。木立像。

飯臺座。梁間三間、桁行五間半。

石手洗鉢。安永四未年寄納。

鐘樓。九尺四方。

大鐘。差渡二尺二寸五分。袖頭迄四尺一寸。○鐘銘略。

天滿宮。六尺に三尺。

神體、木座像。長四寸二分、御自作と由申傳。

秋葉社。二尺四方。

神體、幣束

稲荷社。二尺四方。

神體、木面。竪七寸、横五寸。

小松原稲荷社。六尺四方。

渡殿。四尺四方。

拜殿。二間に三間。

神體、幣。

愛染堂。二間半に二間。

愛染明王。木座像。

地藏菩薩。銅座像。

同石像三軀。

衆寮。七間半に三間半。

本尊、藥師如來。木立像、長一尺五分。當時古佛堂に安置ス。惠心僧都作。

學寮。大破に付當時廢ス。

中門。二間、門外馬立有り之。

五葉松。○中略。

雷除槇。根廻り九尺餘。高七丈一尺餘。

枝垂櫻。根廻り八尺三寸餘。高一丈八尺。

表門。間口二間潛六尺。

普陀山ノ額ヲ掛。竪四尺、横一丈二尺五寸。筆者不レ詳。

裏門二ヶ所。

黑田右衞門佐忠之、其家臣栗山大膳僞訴の事に付參府の時、霞ヶ關の屋敷をはゞかりて、芝邊所々の寺院へ止宿を賴まれけれとも、御不審の人なれは、左右なく止宿をゆるさと。是ゝ依て當寺五世東天和尚を賴みて當寺ゝ止宿せらる。忠之の供はつかに二十人計、鎗一筋をもたせられしといふ。東天和尚此よしを寺社奉行へ達しけれは、御先手御

目附等晝夜當寺を固めたる由。其後御紀明の上御不審むれ、霞ヶ關屋敷へ歸られしかは、寺領三千石を寄附あらんとなり。然るに東天和尚辭退せしにより三百石を附せられたり。其後山口家と論ありて、當寺無住となりし時、彼三百石の寺領ハ黑田家へ預りとなりて、夫より後寄附なき由、其頃の記錄ゐり。本堂の前玄關は駿河大納言忠長卿御屋敷の御玄關なりしを、山口家にたまふ。後當寺へ寄附ありしとなり。今ハ山口氏の家門ゐり。

——續府內備考

普陀山長谷寺。同所○濃谷。まあり。曹洞派の禪窟にして、江戸檀林の一室なり。野州富田の大中寺ふ屬ま。本尊十一面觀音の像ハ和州長谷寺の觀音の模形まして、立像二丈六尺ゐり。御首の中に御丈四寸九十一面觀音の靈像を安置ま。則和州長谷寺の本尊と同木の樟まして同作なりといへり。開山ハ門庵宗關和尚たり。當寺昔は赤坂溜池の上にありて、龍雲院といひしを、天正十二年甲申○紀立二二四四年。此地ま移し、寺號をも改むるといへま。或人云、當寺昔ハ山口氏重政の開基にして、青山のやしきの中に建立し、母堂龍雲院の號を寺號とし、山口家の香花院たりしとなり。されと其後故ありて離檀ありし由、其家の記錄にみゆるといへり。○中略。

當寺境內ハ、古杉老松蓊鬱として、常に寂々寥々ゑれは、座禪公案の爲ま便あしららま、佛目祖風をあふくまは勤てよろしかるへくなん。

——江戸名所圖會

當寺の沿革。江戸名所圖會○中略。武江圖說○中略。兩書に徵すれば、當寺はむかし龍雲院と稱したるものと見ゆ。現住にその由緒を照會せしに、記錄完からざるよしにて、左の如く回答せられたり。

創立。天正十二申年○紀元二二四四年。五月、元加賀守御屋敷を改築せしものゝよし。

開祖。文庵闡明和尚。野州下都賀郡富山村大中寺より移轉す。

——新撰東京名所圖會

當寺より三枝九葉草といふ藥草出る。積の藥ゑ。諸人うけ求む。

五葉松二株。佛殿後有之

右ゑ松西の方ニ有之いま古木ニゐ、年代不詳い。左ニ記い三枝九葉草ハ雌鶴含來、松ゑ實ハ雄鶴含來、只今有之い場所ハ一粒落しい故、生い由。此實を食しい者百歲ゑ長壽をいゑをよし申傳。五七年已前重き御方樣ハ指上申い。中古左の方ニ壹本植い間、當時ハ二本ま相成申い。左の方ま有之い松ハ、圍七尺八寸、高サ七丈五尺餘、若木ニ御座い。右ゑ方ニ有之いま、圍七尺、高サ六丈七尺餘。古木ニ御座い。

——江戸砂子

三枝九葉草。本堂の後所々に繁茂仕ゐ。

右ま年代不詳住僧靈佛十一面觀音寶前ニゐ看經仕居い處、夢中同樣ニ觀音より御告まは、只今勝手にて鶴の卵を取來りゆでい間、早々取返し巢ま入置へし、左い得ま明朝雌鶴藥草を含來て、卵の上下に置へし、數日相過ひな鶴生をへしとの夢想ニ付、見請い所相違無之故、取返、教の通取計置い得ま、右ゑ卵雛と相成、親鶴とゝもに飛去い。其夜又々夢想有之、山內ニ此草繁茂まをたりひ、諸人にあゑへ病惱を救ふへしとの事まより、年々夏つみ置、遠近まよらを望の者にあたへ申い。

——續府內備考

當寺まて淫羊藿を植をき、年々にのけ干となし、諸病の藥とていゑせり。世の人そのいかなるものをも辨へを、奇藥とてもてはやせり。

——江戸紀聞

三枝九葉草。

此藥草は、今も當寺に於て培養し、陰乾して貯へ置き、請者あれば之を施與を。按をるに三枝九葉草は、本名淫羊藿にして、和名をウムキナ、又はヤマトリグサといふ。仙靈脾、放杖草、棄杖草、千兩金、乾

雞筋、黄連祖、剛前の異名あり。一根數莖にして、一莖二椏、一椏三葉なり。氣味辛寒無毒にて、能く精氣を益し筋骨を堅ふす。我が國にては、丹波國船井郡の山中に出づ。然るに當寺に於て能く收穫し得るは奇なりといふべし。此藥草に就て鶴母孵卵の異談もあれども、事長ければ記さず。

——新撰東京名所圖會

當寺に古佛數百躰あり。悉名作佛まして、ひとつとして凡作まあらず。一庫をたて、古佛藏と號しておさめをく。

——江戸砂子

古佛倉。古佛數不知。名作佛まして、希世の靈佛のみ、一庫に充滿せり。維摩の丈室ともいふべからん。

——江戸志

古佛堂。間口二間、奥行三間。

道了權現。木座像。　夜叉神。石立像。

大日如來。木座像。　釋迦如來。木座像。

普賢菩薩。木座像。　天照皇太神。木座像。神功皇后御作ト有レ之。

偏祖右肩異佛。木立像。　十一面觀音。木立像。

古佛。何佛トモ見分不申候。木立像。　正觀音。木立像。

大黑天。厨子入、木立像。　大黑天。上同斷。

大黑天。厨子入、木立像。長三寸。日蓮上人作。　阿彌陀如來。厨子入、木立像。

阿彌陀如來。厨子入、木立像。　阿彌陀如來。厨子入、木立像。

阿彌陀如來。厨子入、木立像。寸五分。弘法大師作。　阿彌陀如來。厨子入、木立像。

阿彌陀如來。厨子入、一尺貳寸、銅立像。安阿彌作。　阿彌陀如來。厨子入、木立像。

地藏菩薩。厨子入、木立像。長六寸。惠心僧都作。　地藏菩薩。厨子入、木立像。長壹尺五分。行基菩薩作。

十一面觀音。厨子入、木立像。　脇士、春日大明神、天照皇太神。各厨子入、木立像。

庚申。厨子入、木座像。　出山釋迦如來。唐佛ト相見ユ。金鋼鎖鑰默。不分明。

釋迦如來。厨子入、木立像。内佛舍利四顆入。

佛舍利寶塔。厨子入、三千貳百六拾五顆。鶴見内藏助寄附。　——續府内備考

鰐口。差渡壹尺二寸。安永二年造。

古佛倉。本堂の右にあり。希世の靈佛靈神の像を安して、庫中に充滿せり。此地の住人鶴見内藏助秀治といふ人、當寺へ納る所にして、すへて百四十一躰ありと云。世に澁谷長者といふハ是なりとそ。

——江戸名所圖會

古佛倉。今は廢絶してなし。

——新撰東京名所圖會

長谷寺。普陀山ト號ス。曹洞宗。野州都賀郡山田村大中寺末。天正十二年起立ス。開山ヲ宗關ト云。寺地一萬八千四百十六坪。

——東京府志料

普陀山長谷寺。

麻布區麻布笄町ニアリ。域内三千貳百三拾坪。曹洞宗。舊觀音堂アリ。天正中之ヲ營造シ、寺傳云、大和長谷觀音ト同作ニシテ、梓樹ヲ以テ刻スト。慶長三年戊戌山口重政修理発建テ一寺トナシ、長谷寺ト號シ、下野大中寺僧宗關ヲ以テ開山トナス。元和中溜池ノ邊ニ龍雲院アリ。山口氏其地ヲ請ヒ邸宅トナシ

龍雲院ヲ此ニ移シ、本寺之ヲ兼管ス。明暦ノ頃故アリテ、山口氏檀家ヲ止ム。觀音堂ハ享保元年丙申八月之ヲ再建ス。

——東京通志

長谷寺は、麻布笄町百番地に在り。道路より西に入ること三町許。正面に黑門を構へ、普陀山と書せし大額を掲げ、門柱に東京吉祥講會教會所の標榜を掛く。當寺は曹洞派の禪窟にして、駒込の吉祥寺、三田の功運寺と同じく、檀林の一たり。

佛殿。

門を入りて正面に在り。二重屋根素木造り開戸にして、前に鰐口を懸け、層屋の間に月舟の書せし圓通閣の大額を扁す。西方第三十三番の札所にして、御詠歌と稱する者は左の如し。

めくり來てちかひそあふくふたらくの
山もめくみもふかきはせでら

本尊十一面觀世音は立像にして二丈六尺あり。東京の觀世音中最大なる者なり。養老年間法道上人楠の良材を以て造りし三體中の一にて、餘は大和國初瀬と相模鎌倉に在り。

年號並に造像に就ては諸說あれども、今姑く寺傳に從て記す。

殿前に露座の銅佛あり。殿內左右にも諸佛の像あれども、一々に之を注せず。

本堂。

佛殿より更に奥の方に在り。昔は大伽藍にて甚だ盛なりしが、今は其三分の一に過ぎず。彼の黑田家騷動の際、主公難を當寺に避けし時造りし一夜書院と稱するものもありしが、今はなし。然れども他の寺院に比すれば、決して小宇にあらず。聞く慶應變亂の頃、檀徒皆離散し、資財給せざりしを以て、堂宇隨て大廢し、雨中傘を手にするにあらざれば入ること能はざりし程なりしが、前住具戒禪師辛苦經營して之を維持したり。○中略○

夜叉神堂。

門を入りて右の方に在り。前に石燈籠二基を配置す。堂廡に朝暮對此善神些事無不成就と題せし横額をかく。堂內の香火常に絶ることなく、奉納の夜叉の假面（俗にいふ鬼の面）甚だ多く、そのふるきものは傍の箱に充滿してあり。これは世人夜叉神に祈願をれば、腫物に效驗ありとて、まづ此處のふるき面を持ち去り、平癒の上新しきを添て供ふるがためとぞ。一年に二回程燒棄るよしなれども、此の如く堆積すといふ。彼の假面は門番所にて鬻ぎ居れり。又現在の堂宇は安永二年九月の再建に係る。

夜叉神は、石の立像にて、むかし澁谷長者の古蹟たる井中より出現せしものゝよし。

石水盥、及、石井。

夜叉神堂の前西よりの處にあり。共に屋を架す。水盥の刻文は左の如し。

具二一切功德一　慈眼視二無生一　福聚海無量　是故應二頂禮一

安永乙未年孟夏之月當代十三世羣巖叟代　麻布藤屋半七　上山田寛書　石工入口與兵衛

鐘樓。

關東首都時代

佛殿の北に在り。

古佛倉。

今は廢絶してなし。

小松原稲荷社。

是も今はなし。もと裏門の方に在りて、毎年九月廿一日祭事ありたり。意ふに神佛混淆禁止の際に撤去せしものならむ。○中略。

當寺に藏する元祿十五年の地圖を閲するに、奥行二百三十四間、表間口百二十二間、拜領地一萬八千四百四十六坪。内卵塔場千三百五十坪。境内一萬九千三百十八坪とあり。以て其寺域の濶大なるを知るべし。今は僅にその一部分に過ぎず。不許葷酒入山門の標石は二三丁を隔てゝ道路よりの入口に存せり。むかし此邊に表門ありしならむ。彼の有名なる高野槇も今はなし。

——新撰東京名所圖會

經王寺（法華）草創

慶長三年戊戌○紀元二二五八年。法華僧日靜、經王寺ヲ市ケ谷田町ニ草創ス。寛文八年戊申○紀元二三二八年。川田久保ニ移リ、天和三年癸亥○紀元二三四三年。更ニ原町○一丁目。ニ移レリ。○再校江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。市ケ谷寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府誌。

經王寺事蹟

經王寺

大乘山經王寺。

平賀未。

原町。

——江戸砂子

大乘山經王寺。

日蓮宗。

同所○原町。裏通り。

——江戸志

開山、

法花。

大乘山經王寺。

二百八十坪。

同所○原町○裏市ケ谷にそくせり。

開山、

大黑天宮、

——江戸紀聞

一、境内古跡拜領地。表間口十二間五尺三寸。裏行二十二間五尺三寸。地尻十二間。

此坪數二百八十一坪九合三勺。

下總國平賀本土寺末。市ケ谷川田久保。法華宗。大乘山經王寺

一、同持添御年貢地。入口北と方ゟ圍迄六間。裏行西之方二十五間。地尻、東と方二十六間、南と方八間二尺。

右當時平岩右膳殿御代官所ニ御座候。正德三巳年五月寺社御奉行松平對馬守殿ニ右濟申ハ。

一、開闢、慶長三戊年於市ケ谷田町ニ除地拜領仕、起立有之候處、其後寛文八申年御堀地御用ニ付、同所川田久保ニ成三百七十一坪代地拜領仕候。然ル處又候、天和三亥年二月御用地ニ被召上、此處□錢寺上り屋敷ニ成、古跡拜領仕、則當地ニ御座候。寺社御奉行所等相知不申ハ。

一、開山、尊重院日靜大德。在住不詳候。

寛永七庚辰年七月十七日死去。

客殿。間口六間、奥行五間。

本尊、宗法と通諸尊安置。

關東首都時代

——市谷寺社書上

大黑堂。二間ニ三間半。
開運大黑天。中老日法作。丈五寸餘。
天滿宮。
瀧先稲荷。
經王寺。大乘山ト號ス。日蓮宗。下總國平賀本土寺末。慶長三年起立。開山日靜。寺地四百八十一坪九合三勺。
——續府内備考
經王寺。町○牛込原町一丁目。南ニ在リ。寺地東西二十三間四尺、南北十二間二尺、面積二百四十坪二合。法花宗。
——東京府志料
下總國葛飾郡平賀村本土寺末派。寛永七年庚午創建。僧日靜開基。
——東京府誌

淺草實相寺(法華)草創

慶長三年戊戌○紀元二二五八年。紀元二二七一年トス。一説十六年辛亥、今暫ク書上ニヨル。法華僧日見、實相寺ヲ淺草八軒寺町○榮久町。ニ草創ス。○再校江戸砂子。江戸志。江戸惣鹿子。淺草寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

實相寺事蹟

實相寺

寶樹山實相寺。　法花、　妙滿寺末。　同所○八軒寺町。仙藏寺ノナラヒ。
開山、正法院日見。○江戸紀聞ハ、妙滿寺末ノ次ニ、表廿五間、裏五十間トアルノミ、其他ハ同文ナリ。
——江戸志、江戸紀聞
房州誕生寺末。　八軒寺町。
寶樹山實相寺。
——江戸惣鹿子

武州豐島郡淺草八軒寺町　房州長狹郡小湊村小湊山誕生寺末　法華宗　寶樹山實相寺

一、本地古蹟拜領地所、東間口拾六間、奥行三拾間。坪數四百八拾坪ニ御座ハ。
一、拙寺建立、慶長三戌年ヿ申傳ハ。
一、開山、正法院日見。死去年月相知不ヿ申ハ。
一、中興、十二世眞了院日廣。寶曆八寅ノ七月十五日死去。
一、拙寺門前町屋ヿ儀ハ、天和年中ゟ立來申ハ由申傳ハ。尤古書物等燒失仕ハ。
但年季町屋ニゟハ無御座ハ。
一、拙寺ヿ儀ハ古來ゟ引地ニハ無御座ハ。古近邊田地ニ御座ハゟ、田中實相寺ヿ申傳ハ。

寶樹山實相寺。
開山、正法院日見。卒年月不ヿ知。○中略。　淺草八軒寺町。
本堂。六間四方。本尊釋迦如來、木像。
毘沙門天堂。本社土藏。貳間四方。　拜殿。間口三間、奥行貳間。
毘沙門天。木像、長八寸。傳敎大師作。
——淺草寺社書上
鎭守稲荷社。貳ケ所。一六間口一間、奥行八尺。一六間口四尺、奥行一間。
寶曆二申年致勸請ハ。(以上乙酉書上)

古事記囊ゟ、虎石ヿ稲葉氏淺草實相寺ヘ納めし由記せり。當所ゟ實相寺二ケ寺ありて、兩寺とも虎石の傳へなし。但淺草法福寺ゟ寅石と云あり。此法福寺を誤りて、實相寺と記せしならん。其文法花山實相

寺條ヨ出ル。○天文十九年ノ實相寺、慶長六年ノ法福寺參照。

實相寺は、同町○榮久町。百三十番地に在り。寶樹山と號す。日蓮宗にして、安房國小湊誕生寺の末なり。開山は正法院日見上人とす。慶長十六年の創立に係る。

——新撰東京名所圖會

實相寺。寶樹山ト號ス。日蓮宗。房州小湊誕生寺末。元和八年起立。開山日見。寺地三百坪。

——東京府志料

實相寺。宗圓寺ノ東ニ在リ。寺地東西三十間、南北九間、面積三百坪。日蓮宗。安房國誕生寺末派。慶長十六年辛亥僧日見開基。

——東京府誌

押上永泉寺（天台）

押上○本所區。ノ天台宗永○或ハ榮トス。泉寺ハ慶長三年戊戌○紀元二二五八年。ノ起立トイフ。○再校江戸砂子。江戸志。

江戸紀聞。葛西志。新編武藏風土記稿。東京府志料。

永泉寺。　天台宗。
開山、　成就寺末。
榮泉寺。　天台。
開山、　同所。○押上。
慶長三辛丑年起立。

——江戸紀聞

押上。

——江戸砂子

——江戸志

榮泉寺。境内除地百廿八坪。德正寺の北に有。當寺も天台宗にて、中ノ郷成就寺の末なり。壽桂山延命院と號す。慶長三年の起立と云。本尊火除地藏を安置す。

——葛西志

榮泉寺。同宗。○天台。中之郷成就寺門徒。壽桂山延命院ト號ス。本尊地藏。慶長三年ノ起立ト云。

——新編武藏風土記稿

榮泉寺。壽桂山ト號ス。天台宗。中ノ郷成就寺門徒。慶長三年ノ起立。寺地百二十八坪。

——東京府志料

上北澤密藏院（眞言）草創、附、八幡神明社

密藏院八幡社事蹟

上北澤○世田ヶ谷區上北澤二丁目。ノ眞言宗密藏院ハ、慶長三年戊戌○紀元二二五八年。鈴木定宗○但馬。ガソノ地ノ舊觀音堂ヲ再興シテ一寺トナセルモノニテ、八幡社○上北澤一丁目。神明社ノ別當ナリ。八幡社ハ萬壽年間ノ勸請ト傳フルモ詳ナラズ。神明社ハ慶長十九年甲寅○紀元二二七四年。榎本氏勝○市右衞門。ノ勸請ナリ。○四神地名錄。新編武藏風土記稿。東京府志料。武藏通志。

密藏院、八幡社

上北澤村。幽谿山密藏院と云眞言地有り。此寺の庭ふひかん櫻の大樹有り。長サ凡六七丈、周二抱へ。

——四神地名錄

八幡社。社地ハ神明社地ヲ通シテ雜木林六段一畝二十八歩。村○上北澤村。ノ中央ニアリ。八幡ノ勸請ハ萬壽三年○紀元一六八六年。トイヒ傳フルハカリニテ、委シキコトハシレズ。後ノ世ノ宮作リ造營ハ元祿五年ノ秋村内

ニ住スル榎本市右衛門信親ト云モノ發願ニシテ、同九年九月二十二日遷宮アリ。此宮居ノ立シ所ハスコシク高キ山ナリ。ソレモ自然ノ山ニモアラス、人作ヲモテ築キタテシナリ。去シ享保十四年十月朔日ヨリ事オコシ、人夫アマタヲカケテキツキ立、イクホトナク同月二十三日功ヲ終リ、祭事ナト行ヒシト云。本社ハ二間四面、土ヲモリ上テ、上ニ社ヲ作リ、マヘニ石階十五級ヲ設ク。ソノ前數歩ヲ離テ鳥居ヲ建。村内密藏院持。

末社。多賀明神。此社ハ元文二年十一月鈴木左内カ妻女ノ願ニヨリテ建立セリ。導師ハ了寛法印トイヘリ。

疱瘡神。本社ニ向ヒテ左ニアリ。

稲荷社。是モ同所ナリ。鈴木宗保勸請ス。元祿五年ヨリ祭禮ハシマル。除地二十歩アリ。

三峰社。本社ノ後ニアリ。

神明社。八幡社ノ北ニアリ。是モ密藏院ノ持ナリ。此社ハ慶長十九年十月榎本市右衛門氏勝勸請ス。是ハ此年秋ヨリ冬ノ間世上ニ伊勢參宮ノコトハヤリテ、或ハ躍リナトヲトリテ群參シケレハ、遙拜ノ爲ニトテ、此所ニモ神明宮ヲ勸請セリト云。其後享保十年榎本文内時勝ト云モノ願主トナリテ再造アリシカハ、十月二十三日遷宮アリ。社ハ二間四方。前ニ鳥居ヲタツ。

末社。熊野權現。此村ニ住ル榎本市右衛門信親カ發願ニヨリ、寶永七年八月朔日勸請セリ。此年ノ春字山谷ノ農夫宇兵衛ナルモノ、西國ノ觀音巡禮ノ次ニ、紀州熊野ノ宮ニマウテ、社地ノ土砂ヲ取來リ、是ヲ社地ノ下ニ埋メテ宮居ヲタテリ。導師ハ密藏院ノ宥範法印ナリ。

辨天社。除地十二畝。村（上北澤村。）ノ東南ノ方田ノ畔ニワツカナル森ニシテ、其内ニタテル小祠ナリ。本郷六郎左衛門ト云モノ勸請ニテ、文化五年遷宮セシトイヘハ、近キ世ヨリノ祠ナリ。別當密藏院也。

天神社。免除十五歩餘。鈴木左内ノ勸請ナリ。

密藏院。境内二段三畝除地。村（上北澤村。）ノ西ヘヨリ本村（下北澤村小名本村。）ニアリ。新義眞言宗。江戸小石川護持院末ナリ。幽谿山觀音寺ト號ス。開山ハ東溪法印トイヘリ。此寺草創ノ來由ヲ尋ルニ、天正ノ頃下野國都賀郡水代ノ城主ニ榎本河内重泰ト云モノアリ。故アリテカノ城ヲ退キ、ソノ子文右衛門氏重ヲ携ヘテ、此世田ケ谷村ニサマヨヒ來レリ。其頃吉良家ノ家人鈴木新平重貞ト云モノ、此地ノ地頭ニテ此ニ居レリ。重泰此人ニムツヒ、暫ク此ニ寓居セシカ、天正八年（紀元二四〇年。）終ニコノ所ニ住所ヲ定ム。後タマタマ下野國都賀ニスミシ僧頼慶法印モ當國ニ來リ、文右衛門氏重カ先ニウツリテ此所ニ住スルヨシヲキヽ、ヤカテカノ居宅ヲ尋ケルトキ、タマタマ重貞トモ知人トナリ、法談ナト聞ショリ、深ク此法師ニ歸依シテ、トカクハカラヒテ當所ノ觀音堂ニ居シム。此堂ハフルキ世ヨリココニ建リト云。其後重貞カ養子但馬定宗ノ代ニ至リテ、慶長三年カノ觀音堂ヲ再建シテ一寺トシ、是ヨリ山號等モ今ノ如ク定メタリ。世田ケ谷勝國寺ノ門徒トナル。此鈴木氏トイヘルハ、今ノ名主左内カ祖先ナリト云。元祿十五年マテハ尚世田ケ谷勝國寺門徒ナリシカ、僧正快意ノ法流ニヨリ、江戸護持院ノ末トナルト云。

表門。東ニ向、本堂ノ正面ニアタレリ。

本堂。八間ニ四間。本尊不動尊。立像。一尺七八寸。作人シレス。寶暦十二年九月本郷六郎左衛門トイヘル者彩色ヲ加ヘテ安置ス。堂ノ前ニ大木ノ垂枝櫻アリ。

位牌堂。本堂ニ向ヒテ左ノ方ニアリ。三間四方。正面ニ十一面觀音ノ立像ヲ安ス。モト觀音堂ナリ。後ニ位牌堂ト改メ唱フ。承應元年榎本文左衛門ナルモノ建立シテ、田一段五畝十三歩ヲ修復料トナシテ寄進ストイヘリ。

地藏堂。位牌堂ノ並ニアリ。九尺ニ二間。除地一畝十八歩。是ハ鈴木左内カ先祖寄進。

裏門。表門ノ並ニアリ。

百觀音堂。裏門ヲ入テ右ニアリ。堂ノ大サ三間四方。觀音免ノ田地六段五畝十三歩ヲ鈴木左内寄附セリ。

閻魔堂。百觀音堂ノ側ニアリ。堂ノ大サ三間ニ二間半ナリ。享保十七年土人鈴木仁右衛門建立セリ。

舊家百姓左内。先祖ハ鈴木但馬重經ト云テ、北條左京太夫氏康ニ仕フ。永祿十二年（紀元二二九年）十二月六日北條新三郎ニ從ヒ、駿河國蒲原ノ城ニシテ武田信玄ト戰ヒ、ソノ軍利ナクシテ討死セリ。此重經ニ三子アリ。嫡男ハ新八郎重繼、二男新助某、三男新平重貞トイフ。重繼初テ北澤村ニ來リ住シ、吉良家ノ家人トナレリ。ソノ後ユヘアツテ、家ヲハ弟新平重貞ニユツリテ、ソノ身ハ東照宮ニ仕ヘ奉リ、天正十二年（紀元二二四四年）四月九日尾張國小牧ノ合戰ノ時井伊兵部大輔直政ノ手ニ屬シテ戰死セリ。ソノ弟新助ハ別ニメサレテ御家人ニ加ラレ、御鐵炮玉藥組トナレリ。サレハ新助ハオノツカラ一家トナリ、新平ハ初兄ノ重繼カ跡ヲツキテ吉良家ニ仕ヘテ此地ニヲレリ。天正十八年北條家亡テヨリ吉良左兵衛佐氏朝上總國ニウツリシ時、重貞ハコヽニトヽマリ、鄕士トナリ、世ニタヨリナキ身ナリシカハ、モト己カ家人ナリシ益戸庄五郎ト云モノ、初主トタノミシ恩ヲワスレス、トカクハクヽミテ置シカ、重貞幾程モナク重キ病ニカヽリ、ハタ嗣子モナカリシカハ、カノ庄五郎ニ家名ヲユツリ、文祿二年死ス。是ヨリ庄五郎ハ鈴木但馬トアラタメ稱シ、ナカク此所ノ農民トナレリ。其子孫村内ニ數多別レテ連綿タリ。今ノ左内ソノ宗家ナリ。

——新編武藏風土記稿

八幡神社。萬壽三年（紀元一六八六年）ノ勸請ト云。社地千二百四十坪。

天祖神社。慶長十九年十月榎本市右衛門氏勝勸請ス。是ハ此年秋ヨリ冬ノ間、世上ニ伊勢參宮ノコト流行シ、或ハ踊ナトヲ踊リ群集シケレハ、遙拜ノ爲ニトテ此所ニモ勸請セリト云ヘリ。社地六百十八坪。

花見戸神社。祭神市杵島姫命。社號ハ所ノ字ニヨル。社地十坪。

北野神社。社地十五坪。

密藏院。幽谿山ト號ス。新義眞言宗。豐島郡大塚護國寺末。創建慶長三年。開山東溪。寺地七百坪。

——東京府志料

幽谿山密藏院觀音寺。

松澤村（上北澤村字野久保）ニアリ。域内五百六十坪。眞言宗寺。傳云、此地舊觀音堂アリ。天正中下野水代（都賀郡）城主榎本重泰（河内）故アリ。其城ヲ退キ、子氏重（文右衛門）ト共ニ世田谷ニ來リ、吉良氏ノ臣鈴木重貞（新平）ニ依ル。八月庚辰重貞本村ノ地頭タルヲ以テ、重泰等ヲ此ニ住セシム。會マ僧賴慶下野ヨリ來リ氏重ヲ訪ヒ、因テ重貞ニ親シム。重貞乃賴慶ヲ觀音堂ニ居ラシム。鈴木氏ハ重經（但馬）北條氏康ニ仕ヘ、永祿十二年己巳（紀元二二九年）十二月六日駿河蒲原城ニ戰死ス。二子アリ。長子重繼（新八郎）二子某（新助）三子卽重貞ナリ。重繼本村ニ來リ、吉良氏ニ屬シ、後家ヲ重貞ニ讓リ、德川氏ニ仕ヘ、天正十二年甲申（紀元二二四四年）小牧ノ役ニ戰死ス。重貞ハ留リ、吉良氏ニ仕ヘ、北條氏亡後鄕士トナリ、文祿二年癸亥（紀元二二五三年）歿ス。舊臣益戸某（庄五郎）

ヲ養テ子トナシ、定宗（但馬。）ト稱ス。定宗慶長三年戊戌觀音堂ヲ再建シテ一寺トナシ、山寺號ヲ定メ、僧東溪ヲ以テ開山トナス。卽本寺ナリ。鈴木氏子孫今村内ニ住スト云。

八幡神社。（上北澤。）

松澤村（上北澤村字本村。）ニアリ。域内九百四拾壹坪。應神天皇ヲ祀ル。社傳云、萬壽三年丙寅（紀元一六八六年。）之ヲ創建スト。後元祿五年壬申村人榎本信親（市右衛門。）社宇ヲ再建シ、同九年丙子九月廿二日遷宮式ヲ行フ。又享保十四年己酉十月朔日ヨリ工ヲ起シ、小丘ヲ築キ、同月廿三日功ヲ畢リ、宮ヲ移シテ祭事ヲ行フト云。

——武藏通志

大澤八幡、長久寺（眞言）

慶長三年戊戌（紀元二二五八年。）眞言僧祐長、長久寺ヲ大澤（多摩郡三鷹村。）ニ起立ス。寺ハ八幡社ノ別當ニシテ、社ハ元和二年丙辰（紀元二二七六年。）ノ勸請ナリ。（新編武藏風土記稿。）

八幡社。除地一町二段十七歩。小名羽澤ニアリ。二間ニ三間ノ覆屋ヲ作リ、中ニ纔ナル祠ヲ置リ。南向。元和二年ノ勸請ナルヨシ。本地ハ彌陀ノ木像、長一尺。例祭ハ八月十五日。

別當長久寺。社ノ東小名羽澤臺ニアリ。應神山本智院ト號ス。新義眞言宗。開山祐長法印。慶長三年ノ起立ニテ、其頃ハ甲州市川金剛院ノ末ナリシニ、正德元年ヨリ京都醍醐釋迦院ノ末トナリ、今モ然リ。本堂五間半ニ八間。南向。本尊大日、木ノ坐像二尺許ナルヲオケリ。

——新編武藏風土記稿

淺草正覺寺（淨寺土）草創

淺草黑船町ノ淨土宗正覺寺ハ、古ク享保年中ヨリ存スル一草庵タリシガ、天正慶長ノ間僧順大（源譽。）之ニ居リ、其師存應（源譽。觀智國師。）コヽニ隱棲スルヤ、慶長四年己亥（紀元二二五九年。）建テヽ一寺トナシ、存應ヲ開山ニ推セリ。境内榧ノ大樹アリシニ由リ、世ニ榧寺ト稱ス。（再校江戸砂子。江戸志。江戸惣鹿子。江戸紀聞。改撰江戸志。淺草寺社書上。續府内備考。遊歷雜記。淺草志。江戸名所圖會。東京府志料。新撰東京名所圖會。）

正覺寺（榧寺）事蹟

正覺寺

榧寺。　同所。（御藏前。）　池中山盈滿院正覺寺。　增上寺末。

開山。觀智國師。

塔中。哲相院。寶壽院。

地藏堂。石佛靈驗の像なり。

當寺を榧寺といふは、むかし堺内ゟ大木の榧なり　よつて俗ゝよびきたる。いつのころか、ある時和尙碁を圍折ゟ山伏一人忽然と來て此榧を乞。その心よまりせたり。翌朝見るに此木なし。不ト過て遠州秋葉山ゟ此木ゟる事を知るとかゝり傳ふ。

——江戸砂子、江戸志

池中山正覺寺。　同。（增上寺末。）　黑舟町。

寺中二ケ寺。哲宗院。寶壽院。

榧寺と名にたてる堂前の木も今は燒失せり。

地藏堂。常念佛あり。

池中山榧寺。　增上寺末。　千三百九十七坪。

——江戸惣鹿子

池中山盈滿院正覺寺。

關東首都時代

開山、觀智國師。元和六年十一月二日寂。七十有七歳。

本尊、阿彌陀。惠心作と云傳ふ。

地藏堂。石佛。乳なきものいのるに驗ありと云。

塔中。　哲相院。　寶壽院。

むかし境内は大木の榧ありしゆへ、俗に榧寺とまをせり。寺傳。

むむろしは池中庵とて、もの所の洲にありしいさゝかの庵なり。享祿の頃庵主能園といへるものおきり。

其頃庵の傍に古木の榧の木あり。故は後は榧寺とよへり。天正慶長の頃廣譽順和尚といへる人おれり。

その頃觀智國師まむらく此地に退隱せし故、是より寺院の數まいり、慶長四年新に本堂を造立し國師を

もつて開山とし、廣譽は二世まおれり。此廣譽は國師の弟子なりといふ事は、緣起に詳なり。

——江戸紀聞

——改撰江戸志

増上寺末、

池中山盈滿院正覺寺。境内古跡拜領地千三百九拾坪七合餘、内門前町屋。　淺草黑船町。

當寺起立慶長四己亥年。〇紀元二二五九年。其後天和三亥〇紀元二三四三年。極月十五日寺社御奉行本多淡路守樣御寄合にて拜

領地被仰付ふ。

開山、觀智國師、法名貞蓮社源譽上人觀智國師存應大和尚、元和六庚申年〇紀元二二八〇年。十一月二日遷化。〇中略。

當寺にて荼毘いたし、分骨を納て本堂右辰巳の方に國師の石塔在之、無縫塔蓮花の下、六角、茄子座に

開山觀智國師と彫付有之ふ。石塔高四尺八寸。

第二世、圓蓮社廣譽上人、稱阿順大和尚。元和九癸亥年〇紀元二二八三年。五月十五日遷化。

中興、九世證蓮社誠譽上人念徹和尚。享保廿一丙辰年〇元文元年、紀元二三九六年。三月十五日遷化。

——續府内備考

淨土宗。芝増上寺末。

池中山盈滿院正覺寺。

起立、慶長四乙亥年〇文政八乙酉年迄二百廿七年。〇中略。

榧寺緣起

榧寺は草創起立の年代いつの頃といふことをまらも。

私に云、正覺寺と申名を付て、増上寺末の一ケ寺と定ルは、慶長四年〇紀元二二五九年。なり。故ふ正覺寺起立

慶長四年と古記まあり。榧寺と稱し來る事は、年代久しき事まて、いつの頃よりといふ事をまらもと

なり。

昔は隅田川の流淺草寺をめくりて駒形堂より西のうた二町むかりは皆川なりしとそ。當寺は西岸のうた

一堆なる洲の中まて、實にひさをいるゝむろりの草堂なり。流の中なるをもつて池中庵といひしとなむ。

享祿の頃より天正のもるまて住る庵主、ゆへある桑門とみえて、生所所緣をのつて人まのたらも、たゝ

隱遁避世をこゝろふ味ひ、念誦稱號かつて定規なく、心のまゝなる行跡なりしゆ、禪餘たゝ圍碁をこの

みて光陰をうつしける。まかるに天正四子年九月十八日其さま雄偉なる山伏來て終日碁をのこみ樂みし

が、今境内まあるところの榧の木、其頃はや二圍むかりありて庵を覆ひ、實をむもふこと尋常ならも、

殊まる風味ありしを、清貧餘物なふして、此日もろやの子を出して饗しけるに、客僧稱味のあまりたむむ

れまいとむて云く、此ろやの木を碁のかけものゐまさまへ、もし勝たらはわれゐ得させよと。庵主何心なく許諾して、まさ一局をゐこむ。客僧ろちてけれは、われろやの木を得たりとたゝむれて歸りぬ。其翌年ハ榧の子ひとつを結むを。奇異の事ゐ思ひしに、冬のはしめさきの山伏まさ來りて碁をゐこむ。庵主のいはく、ことしハろやの實なけれは饗をる物なしと。山伏笑て云く、去年我ゐあたへたまひしゆへ持去りぬ、今ハわゐ山中ゐ有て嗜み味ふといへり。庵主いふかりて、何地の山ゐ住たまふと問へハ、遠江國秋葉山ゐ住その也、貴房の質直寡欲ゐかむして、今年また來れり、多年嗜翫のろやの子を得て いまた寸微の謝をるなし、よつてつら〳〵考るに、此地いまハ白屋蒼茫の片境なれとも 遠からを繁華昌榮の街となるの運氣ゐり、この草坊も一阜の大祇林となるへし。其ときは火災の怖絶へゐらを。われに祕術ゐり、永く火災をまぬろるゝの符をあさへむとて、數字の咒文を書きゐさへらる。書異體不能讀。まさ云く災ゐ大小ゐり、大なるものは運ゐよる、小なるそのは人ゐよる、人ゐよるそのは得てうつをへし。運ゐよるそのハ陰陽の定數ゐて、佛神力もいゐむとそをることろたし、若運行ゐよりて災の免れろたきときハ、此榧の木ニまるしあるへしと、云畢て去りぬ。思ふに、言語凡ならを、疑もなき秋葉大權現ならむと、彼符を收、火防の寶符と稱して、草堂にとどむ。榧の木も實む結むねど、枝葉繁て欝茂たること、今ろくの如し。世人此祕符をいつとなく傳へ知りて、榧寺の護符と號し、符を乞て災を免るゝもをくなゐらを。其後東照神君（德川家康。）東都御開創ましく〳〵て 此地都下の境となれを。その頃增上寺中興開山觀智國師此地ゐ遊觀したまふに、土地の風致前に清流みなぎり、四望目前に究りて、景色殊ゐをくれゐされは、隱居閑栖の地となさんと、神祖ゐ乞て許諾を蒙り、堂宇門樓を起立し、則池中山盈滿院正覺寺と改め、廣譽順太上人を看主たらしゆ、時々卓錫したまひ、寂靜湛然淨業清修ゐりし。已ゐ遷化のとき遺命ニよりて 此寺にて荼毘し、灰骨を分て塔を建、國師を推して第一祖と仰き、順太上人を以て二世の住たらしめ、增上隨一の末山たり。實や今年都下の大災人民の燒亡前代未聞の事と怖衆生命を縮る中に、當寺つゝろなく烏有をまぬろれしこと、偏ゐ擁護の神德唐損ならを。檀越三浦氏なるもの新外函を獻寄し、榧寺寶符と題し、當寺第一の什物たり。此序三浦氏の需ニ應して、舊記の趣をひろふて、粗當寺の來由を記し與ふる而已。

明　曆　三　酉　の　末　秋

淺草黑船町、

正覺寺。

一、古跡拜領地。

境内千三百九十坪七合餘。

右境内天和三亥極月十五日、寺社御奉行本多淡路守樣御寄合ニ御拜領地ニ被仰付ハ。

淨土宗、芝增上寺末。

池中山盈滿院正覺寺。

起立、慶長四己亥年ゟ文政八乙酉年迄二百廿七年。

一、拙寺儀享保九辰年二月十五日本堂諸堂表門寮舍門前長屋ニ至る迄不殘類燒仕ハ。依之同十一午年三月寺社御奉行黑田豐前守樣ゟ再建願差出ハ處、同月廿六日願之通作事御免許被成下ハ。其已後連々に再建仕ハ事。

一、鐘撞堂。高サ一丈、横八尺四方、

大鐘、長ケ三尺四寸、口差渡し二尺三寸。○中略。

一、拙寺門前町屋間數當時有形、

表通小間大間、

裏行二十九間二尺餘。

右門前町屋、先年ハ葦垣ニる差置ハ處、寶永八卯年朝鮮人來聘ミ節御役人中道筋御見分ミ上ニる葦垣町並見苦敷由ニ付、則門前町屋ミ儀本多禪正少弼樣ゟ奉願ハ處、早速御免許被ニ成下一ハ。尤其節ミ間數ハ

表口六間二尺。

裏横五間三尺、

裏行廿四間一尺、

右ミ通御座ハ處、寶暦八戊寅年三月中御願申上ハ得ハ、其節ミ寺社御奉行本多長門守樣御内寄合御列席ニおいて、右當時有形ミ間數ミ通ニ、門前町屋家作御免許被ニ仰付一ハ。

一、拙寺境内西北墓所隅ゟ二間三間ミ非人小屋一ヶ所有之、非人住居仕ハ。尤何ヶ年以前ゟ住居仕ハ哉、書留無之、相分不ニ申一ハ。○中略。

差上申一札ミ事。

古跡拜領地　　增上寺末、淺草黑船町、正覺寺。

境内千三百九十坪七合餘。

門前町屋。表通、小間南北ニ六間、東西ニ二十九間二尺餘。

右拙寺境内千六百十一坪ミ御帳面ゟ御座ハ處　享保九辰年二月十五日寺堂不ニ殘類燒仕一、御用地被ニ召上一ハゟ付、黑田豐前守樣、牧野因幡守樣、松平相模守樣、御勤役ミ節御普請御奉行ゟ再應御改御座ハ處、境内千四百二十四坪有之、右ミ内表通廣小路並ゟ七十三坪、御用地ニ被召上一、門前町屋小間ミ儀も、南北ニ六間二尺、東西ニ二十四間一尺ミ、御帳面ニ御座ハ處、其節御普請御奉行ゟ御改、惣坪千三百五十一坪、門前町屋表通、小間南北ニ六間東西ニ二十二間四尺有之ニ付、右小間ミ通廣小路並ニ引込作事仕ハ樣被ニ仰渡一、地面ミ儀ハ御普請御奉行ゟ御改定杭打御渡被ニ置ハ處、地中相詰難儀仕ハニ付、右被ニ召上一ハ門前切地ミ内、表通り間口六間裏行六間四尺餘ミ場所御返し被ニ下置一ハハヽ、町並ミ通瓦葺塗家作可ニ仕一ハ旨奉ニ願一ハニ付、去ル六日本多長門守樣御内寄合、於ニ御列席一願ミ通被ニ仰付一、表通小間南北ニ六間東西ニ六間四尺餘、此坪數三十九坪七合餘、今度町御奉行所ゟ定杭ニ打御渡し被ニ成一ハニ付、惣坪數門前町屋小間等書面ミ通御改被ニ成一、尤以來門前町屋ミ儀瓦葺塗家ミ作事可ニ仕旨被ニ仰渡一難ニ有奉一畏一ハ。爲後證仍如件。

寶暦八戊寅年三月

寺社御奉行所

淺草黑船町　正覺　寺印

——淺草寺社書上

本堂。京間六間。奥行九間。

本尊、阿彌陀如來。木座像、丈二尺五寸。運慶作ミ由申傳也。

同、二菩薩。木立像、丈各二尺壹寸。但同作。

後堂、一宇。

釋迦如來。木立像、丈二尺三寸。天竺紙首羯磨作。

脇士、文珠、普賢。座像、各丈壹尺壹寸五分。作不知。

兩脇、善導大師　圓光大師。各丈貳尺。

南脇、當寺開山觀智國師像。丈壹尺五分。

北脇、當寺二世順太和尚像。觀智國師ノ弟子。丈壹尺五分。

北脇檀、宗門開祖圓光大師。木座像、丈壹尺三寸。熊谷蓮生作。

南脇檀、當寺中興念徹和尚像。丈壹尺三寸。

鐘搗堂。高壹丈、横八尺四方。

大鐘。高三尺四寸、口差渡貳尺三寸。　銘文左ノ如ク、

南無阿彌陀佛、

奉ㇾ寄ㇾ進□洪鐘武州江戸淺草池中山正覺寺ㇾ者也。

天下和順　日月清明　風雨以ㇾ時　災厲不ㇾ起

國豐民安　兵戈無用　崇德興仁　務修禮讓

延寶六戊午年三月七日　施主　富田長右衛門尉

鑄物師　小沼玄清藤原重正作

鎮守堂。但三社合殿。

熊野權現。丈三寸、惠心作。

右觀智國師襟掛ケノ尊像、則國師ノ勸請、日時不ㇾ知。

秋葉權現。立像、丈貳尺、作不ㇾ知。但白狐ニ乘ラレ足ニ白蛇纏ヒ付有ㇾ之。奇代ノ靈像ナリ。

右享保年中當寺中興念徹勸請。

中、稲荷明神、陀枳尼天。畫像、丈五寸。

左、大威德明王。同丈四寸。

右、摩利支天。同丈四寸。

右三尊一軸、畫工ノ名不ㇾ知。稲荷明神厨子ノ裏ニ、

當寺第七代
玄蓮社汎龍信譽魯童上人

茲歲圖畫稲荷明神中、大威德明王左、摩利支天右ノ尊像而欽ㇾ安ㇾ神祠ㇾ以奉ㇾ備ㇾ合山之禮誦ㇾ矣。予嘗感ㇾ見於此像者數矣。雖ㇾ然未ㇾ識ㇾ執神ㇾ。遂問ㇾ之密乘之闍梨ㇾ。闍梨昭然廣依ㇾ教軌懇垂ㇾ指示ㇾ。予於ㇾ是始知ㇾ所ㇾ感見ㇾ之尊像則是向上三聖。因ㇾ茲不ㇾ耐ㇾ隨喜、直命ㇾ畫工ㇾ如ㇾ所ㇾ其感見ㇾ具拜ㇾ畫之ㇾ焉。後生莫ㇾ謂以ㇾ左右之二聖ㇾ誤爲ㇾ明神之脇士ㇾ而已。

維時、享保十六年辛亥十二月上旬。

東都淺草池中山正覺寺第九主證蓮社誠譽念徹、時年六十五、稽首拜書。

地藏堂。二間ニ三間。

本尊、石佛地藏。立像、丈二尺六寸五分。

承應二癸巳年建之、乳の願叶いよし申傳へい。

同前立地藏。木立像、丈壹尺五寸、小野堂作。

かん〳〵佛觀音石像。丈二尺四寸、正德元年建之。

飴なめ石地藏。丈壹尺八寸、寛保二戌年建之。該の病の願を叶ひ候よし申傳へ候。

石寶篋印塔。蓮坐ヨリ高サ九尺。寶曆二卯年建之。

銅佛觀音。諸物師多川民部作。寶曆年中建之。

什物。

正覺寺ミ三字　横物壹軸。增上寺中興觀智國師筆。

六字名號。長三寸壹分、右同筆。

古幡隨上人消息、壹軸。裏ニ幡隨院中興性海究メ有ル之。

利劍名號。阿州玉出山開山珂憶筆。

當寺古緣起、壹通。當寺四世發三筆。○中略。

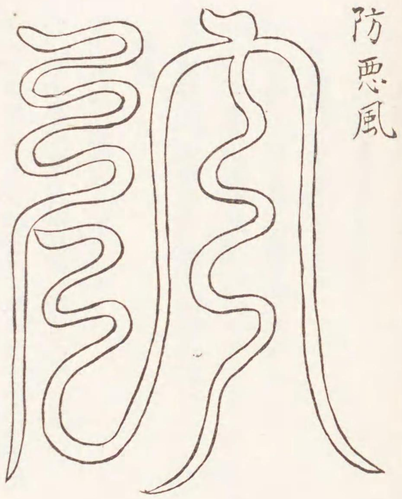
當寺緣起、一卷。第十二世宅譽筆、文面略。

同緣起、一卷。第十四世高玄筆、文面略。

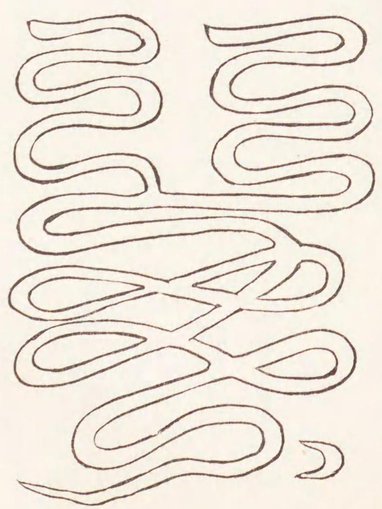
同和文緣起圖畫、一軸。文ハ石川五光、畫ハ栗原信充。

火防寶符、右文字寫左ミ通。

防惡風



防惡火



右ハ當寺傳來ミ火防寶符と申もの　第四世發三ミ記錄ニ、數字の呪文を書あさへらる、書異體不ル能讀と有之ハ。右ミ品當寺九世念徹代迄傳り有之處、享保九辰年二月當寺類燒ミ後、榧の木を以て秋葉神像を彫刻いたし、右ミ神書を神體ミ内ニ秘藏いさし納ハと申傳へい。其砌風を防ク文字火を防ク文字、右の二字斗寫し殘しハて、護符ま認め、人ニ施し被申ハと申傳ハ。

當寺緣起碑石。第十四世高玄筆。

右本堂ゑ卯ミ方左側まあり　長八尺壹寸五分、横巾壹尺四寸。寛政四年建之。

關東首都時代

六字名號額字。第九世念徹筆。丈四尺五寸三分、横壹尺六寸。

正覺寺額字。筆者不レ知。丈二尺九寸五分。横五尺三寸五分。

榧寺額字。花翁筆。何レノ人ト云義ヲ不レ知、表門ニ在リ。長貳尺壹寸、横巾四尺貳寸。

古榧茅生ミ榧の木、貳本。

右ハ本堂南ミ方墓所ミ内ゴ在、壹本ハ根本圍四尺貳寸、壹本ハ圍三尺五寸有之ハ。

——續府内備考

正覺寺寮舍、哲相院。

一、當院起立、正保元年ゴ文政八酉年迄百八十年。

一、開山法名心譽長雲和尚。慶安三年庚寅年五月四日遷化。

哲相院。構内八十坪餘。○中略。

客殿。

本尊、阿彌陀如來。木立像、丈壹尺九寸五分。聖德太子ノ作ノ由申傳ハ。

二菩薩。木立像、丈各壹尺貳寸。右同斷。

善導大師、圓光大師。木立像。丈各壹尺六寸。

閻魔王。木坐像、丈壹尺五分。

石佛地藏菩薩。丈貳尺貳寸。

寶篋印塔。高サ八尺。

——淺草寺社書上

芭蕉翁碑。高サ六尺五寸。

出山釋迦佛。丈八寸。

正覺寺寮舍、寶壽院。

一、當院起立、寛文元年ゴ文政八酉年迄百六十五年。

一、開山法名隆譽長殘和尚。寛文六年正月廿三日遷化。

寶壽院。構内百貳十坪。内三十六坪正覺寺ゴ預り地。○中略。

客殿。

本尊、阿彌陀如來。木坐像、丈壹尺五寸五分。

二菩薩。木立像、各丈壹尺七寸。

本尊右脇壇、善導圓光兩大師。各丈壹尺七寸五分。

同左脇壇、地藏菩薩。木立像、丈貳尺四寸。惠心作ミ由。

寶壽院額字。竪壹尺五分、横貳尺七寸五分。牛山筆。

——續府内備考

一、東武淺草黑舟町盈滿院正覺寺淨土は、堀田原の馬場の東に隣る。開山は增上寺觀智國師となん。當寺を世俗みな榧寺と呼べり。むかし境内に大木の榧ありしによつて、斯は呼初し也。今は榧の樹なけれども、門にも榧寺といふ額を揚て、世人寺號をいはずして榧寺と稱す。傳えいふ、中古いつの頃にかありけん、住持圍碁に强かりしが、或時山伏壹人忽然と入來り、庭前の榧を所望す。住僧嘲笑ひて中中堀取がたきを知て、その意を任せぬ。しかるに翌朝見れば、庭前に件の樹なし。奇怪といふべし。程過て

これを聞合ければ、遠州秋葉山の境内にありしよし也と。又一說に、藤堂家の藩中高木右馬之助、名古屋山三郎等聞ゆる强力なりしが、住持と掛碁の勝負によつて、人しれず深夜に根漕して持歸りしともいふ。それより以來榧の木なしといへども、今に榧寺と稱す。

——遊歷雜記

榧寺。黑舟町。正覺寺門前町屋大通りゝ。

池中山盈滿院正覺寺。淨土。增上寺末。世ゝ榧寺と云。

開山、普光觀智國師。

塔中、　誓相院、　寶壽院。

本尊阿彌陀。惠心作。

鎭守熊野權現。本地佛阿彌陀佛、惠心作。觀智國師懸尊なり。國師弟子玄榮和尙をして一寺を建しめ、正覺寺と號す。緣起ニ云、當寺天正ヨ始草庵なるよし、其頃ゟ二圍あまりの榧の大木有。其時庵主道人何地ともしらぬ山伏來て碁を打、彼かやの實をかけものゝなし、山伏勝れは悅ひ去るに、夫ゟ榧の實結はも。是を怪むゝ、客僧は遠州秋葉山ゟ來る由語り、又此地程なく繁花の街と成、當庵佛法弘通の一宇とならん、其時永く火災を除く符を送らん迚、是を謝も。其後榧實のりなしといへども、枝葉榮ふ。故ゟ榧寺と號。然るに享保の始大風の爲半ゟ吹折ぬ。九世念徹和尙其木を以秋葉權現の像を彫刻し、當寺ゟ安置も。

——淺草志

榧寺。黑船町にあり。淨土宗ゟして、增上寺ゟ屬す。池中山正覺寺と號す。本尊阿彌陀如來ハ惠心僧都の作ゟして、開山は觀智國師なり。往古當寺ゟ名ある大木の榧ありし故ゟ號とせりといへり。

——江戸名所圖會

正覺寺。池中山ト號ス。淨土宗。芝增上寺末。慶安四年起立。開山源譽。寺地千三百七十四坪。此寺里俗榧寺ト云。

——東京府志料

正覺寺。本町（黑船町。）ノ西南ニ在リ。寺地東西三十三間、南北十八間、面積五百三十三坪六合。淨土宗。芝增上寺末派。天正ノ初年僧玄策開基。開山詳ナラズ。子院二宇。法壽院、哲宗院。古ヘ境内ニ榧ノ巨木アリ。俗呼テ榧寺ト云フ。此樹享保中大風ニ吹折ラル。今猶數株ノ小榧アリ。

——東京府誌

正覺寺は黑船町六番地ゟ在り。池中山と號し、盈滿院と稱も。淨土宗ゟして、芝增上寺の末なり。開山は普光觀智國師とも。境内に榧の大木ありしより、里俗榧寺と呼ぶ。樹ハ享保年中の大風の爲に吹折れしといふ。今なほ榧寺の金字額を揭ぐ。

堂前に地藏堂あり。又露佛青銅觀音の像なり。

舊支院に哲相院寶壽院あり。今なほ存在せり。

寺傳に云、昔時隅田川の流ハ、淺草寺を繞り、駒形堂より西二町計は皆川にして、當寺はその西岸一堆の洲上に在りし草庵なりしを、慶長四年增上寺の觀智國師新ゟ堂宇を建て今の名を命せしと。堂南に緣起を刻したる碑あり。所々摩滅して讀むべからも。惜むべし。

——新撰東京名所圖會

原宿（原宿長安寺（淨土））

原宿（澁谷區原宿一丁目。）ノ淨土宗長安寺ノ創建年代ハ不詳ナルモ、開山僧長悅（品譽。）ハ慶長四年己亥（紀元二五九年。）三月ノ示寂ナレハ、暫ク此年ニ繫ク。但草創ノ地ハ明ナラス。後年

現地ヘ移轉セルカ如シ。○江戸志。江戸紀聞。新編武藏風土記稿。東京府志料。新撰東京名所圖會。

大寶山長安寺。　智恩院末。
開山、品譽上人。　浄土。　——江戸志
大寶山長安寺。　智恩院末。　三百坪。
開山、品譽上人。
九蓮社品譽上人長悅和尙。號一西。肥後熊本人。嗣法雪念和尙。寛文七年三月十日寂。
——江戸紀聞

長安寺。浄土宗。京都知恩院末。大寶山龍泉院ト號ス。或書ニ赤坂長安寺ト記セシモノアレハ、後年當所ニ移リシコト知ラル。開山品譽長悅慶長四年三月十日化ス。本尊彌陀ノ立像長三尺、脇士觀音勢至ヲ安ス。彌陀ハ惠心ノ作。

稻荷社。出世稻荷ト號ス。
地藏堂。大和國矢田寺滿米上人作ル故、滿米地藏ト號ス。立像長一尺。堂中ニ長一尺三寸五分ノ閻魔ヲ安ス。小野篁作ト云。臀ニ燒跡アルヲ以テ燒閻魔ト號ス。此唱ニツキテ寺傳アリト。證トナシ難シ。
井。代々木八幡出現ノ井ト云傳フ。來由詳ナラス。
鐘樓。享保十八年ノ鐘ヲカク。
——新編武藏風土記稿

長安寺。大寶山ト號ス。浄土宗。京都知恩院末。或書ニ赤坂長安寺ト記ス。コレニヨレハ後年今ノ地ニ移リシコト知ルヘシ。開山ヲ長悅ト云。境内四百八十五坪、租稅地。
——東京府志料

世田谷仙藏院（眞言）

長安寺は百六十一番地○千駄ヶ谷町。に在り。大寶山と號し、龍泉院と稱す。原宿の西横丁にて、赤色門の精舍なり。

浄土宗にして、京都知恩院の末。開山は品譽長悅。慶長四年三月十日寂せ。
當寺には大和國矢田寺滿米上人作の滿米地藏及小野篁作と稱する燒閻魔（燒け跡あり）を安置してあり。
——新撰東京名所圖會

慶長四年己亥○紀元二二五九年。三月世田ケ谷ノ大場信久○越後守。卒ス。ソノ地○世田谷區世田谷一丁目。ノ眞言宗仙藏院ハ信久夫人ノ開基ナリ。○新編武藏風土記稿。東京府志料。

仙藏院。境内除地三段五畝。字上町ニアリ。新義眞言宗。村内勝國寺ノ末。寶光山不動寺ト云。開基ハ大場越後守平信久カ室ナリ。越後守ハ織部正吉之カ一族ナルヘシ。本尊不動明王。長一尺五寸。ソノ餘弘法大師ノ像ヲ安ス。本堂五間ニ四間半ナリ。

コノ村ノ里正ニ覺之助トイフモノアリ。彼等カ祖先ハ吉良家ノ四天王ト稱シ、家人ノ一ニシテ、大場越後守平信久ト云傳フ。サレト家系等モ持傳ヘサレハ詳ナルコトヲシラス。弦卷村ノ淨光寺ニ大場越後守信久同外記房勝カ墓アリ。信久ハ慶長四年三月二十八日卒セリ。又此村ノ仙藏院ハ大場越後守カ室ノ開基ナリ。
——新編武藏風土記稿

仙藏院。寶光山ト號ス。勝國寺末。開基ハ大庭越後守平信久ナリ。信久ハ織部正吉之カ一族ナルベシ。
——東京府志料

天台龍寶寺（天台）草創

同年（○慶長四年己亥。紀元二二五九年。）天台僧豪海、龍寶寺ヲ神田駿河臺ニ草創ス。寛永十二年乙亥（○紀元二九五年。）ニ至リ淺草（○榮久町。）ニ移ルヤ、偶同地ニ淨土宗ノ同名ノ寺アルニ因リ、天台龍寶寺ト稱シテ識別ス。（○淺草寺社書上。續府內備考。再校江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。武江年表。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。）

天台龍寶寺事蹟

龍寶寺

天台宗。東叡山末。金剛山藥王院龍寶寺

一、本尊、赤梅檀壹本木如意輪觀音座像。
　毘首羯磨作。三國傳來。御丈壹尺程、臺坐共貳尺餘。古來る秘佛同樣ま致し來い。
一、本尊緣起壹卷。東叡山凌雲院實觀大僧正筆。
一、稻荷社。　壹宇。
　品照稻垣（右名付ル由來不知。）兩大明神。兩尊倶坐像、御丈四寸程、臺坐倶八寸。
　古來る在來い起立ミ年代相知レ不申い。門前ミ氏神ま、元む社土藏造拜殿等有之い得とも、寅年類燒、其後假殿。
一、開山比叡山正覺院豪海大僧正。
　右開山む東叡山開山慈眼大師ミ法兄まい。東照權現樣就御歸依於神田駿河臺慶長己亥年（○四年、紀元二二五九年。）四月開基被仰付い。唯今ま舊名を存、駿河臺觀音坂と呼いむ、當寺ミ故地まい由、申傳へい。寛永二年三月廿三日於比叡山正覺院示寂。其後寛永十二乙亥年第三世法印本海代於當處替地拜領仕い。

一、境內（南北十間、東西四十間。）　坪數三千六百坪。
　右坪數ミ內、六百三拾坪餘新堀出來ミ砌上り地ま相成、追而替地可被下筈ミ段申傳い。
一、門前町家ミ儀む古門前ニい。願濟年號等度々ミ類燒ニ古記錄等燒失仕、相知不申い。

——淺草寺社書上

本尊緣起

此緣起い東叡山凌雲院第七世住前大僧正實觀以自筆記之、從當寺六世舜慶傳附之。

釋迦牟尼佛出胎の第七日に、母摩耶夫人刀利天まむまれさせ給ひしゆへ、一夏九旬かの天まして劬勞の恩を報し給ふ。その時優愼王此國ま佛のいましたまはぬをうれへ、毗首　羯磨ま赤梅檀をもて尊像をつくらしむ。これ佛像のむし始まて、毗首　羯磨も亦佛工のむしめとかや。まろるにいまし慶長の四とせ比叡の山なる正覺院の權僧正豪海と申せしい、その比の名高きひしりなりしを、東照の大君旨を下し、武藏の國にまねきて、神田のほとりに一精舍をさて、住持せしめ給ふ。僧正のねて山城國宇治の鄕なる平等院ま毗首　羯磨の赤梅檀をもて造られし如意輪觀音いまし給ふをまりて、大君に申し此寺に安置も。今の本尊是なり。かくてその大君の御意のことく、始くり〳〵て國運とゝまほりなく、今いむや十まひとつの指をかゝめても、な茂かそへつくされぬ年月の內、四比海浪まつろに、七の道ゆきゝさわらぬ中い、ちむや神の代いとをけれはまらま、人の代まなりていためしあらぬ御代まなむ。つたへきく、ゐをうなはらは底まいまま神の額の上にひめおける寶を如意寶珠と申せは、この寺の名を龍寶といひ、又本尊の名まさへかよひて、大君の御願の本意僧正の誦念の力今ま絕せま。寛永十二年故ありて精舍を

この淺草にうつされぬ。そのゝち本尊の御名ならひに寺の名までそなはられぬ。此寺にまして、此本尊をおのみなは、佛の御世まあへるにおさ〳〵おとるまじく、かの大君の神孫代々をこのさねて、つくもねのかけしけく、むさしのゝ露なのくゐをひて、くさの末葉までかゝる神の國に生れて、千五百の秋をたのしみ、龍の花さく八万歳の春をまたんを、されのよろこもさらん。

——續府内備考

銅佛。大工棟梁依田祥甫、開眼供養後雲院實觀。

金剛山藥王院龍寶寺。　上野末。

寺傳云、開基比叡山正覺院探題大僧正豪海。

本尊、赤梅檀如意輪觀音。毗首羯磨作。

本尊もと宇治平等院にあり。慶長比ふ神田駿河臺ふおゐて當寺御建立なり。その比本尊を宇治より當寺へ御寄附こ。

——江戸砂子、江戸志、江戸紀聞

慶長四年乙亥四月、金剛山龍寶寺（天台）。神田臺ふ草創。（寛永十二亥年、淺草新堀へ移る。）

——武江年表

龍寶寺。金剛山ト號ス。同宗。（天台宗）。同山（東叡山）。末。慶長四年四月駿河臺ニテ起立。寛永十二年今ノ地ヘ轉ス。開山豪海。寺地二千九百七十坪。

——東京府志料

龍寶寺。本町（榮久町）ノ西方ニ在リ。寺地東西十一間、南北十二間、面積四百三十坪二合三勺。天台宗。延曆寺末派。年月不詳僧慈覺開基。寛永年間僧豪海中興。モト駿河臺ニアリ。寛永十二年乙亥此ニ移ル。

——東京府誌

里俗天台龍寶寺ト呼テ、淨土龍寶寺ニ分ツ。

常林、玉鳳、南臺、仙翁、四寺（禪）草創

四禪刹事蹟

龍寶寺は同町（榮久町）四十番地に在り。金剛山と號し、藥王院と稱す。天台宗にして、延曆寺の末なり。慈覺大師之を開創し、慶長四年に至り、比叡山正覺院探題大僧正豪海（慈眼大師天海の法兄）之を神田駿河臺に中興し、寛永十六年現地に移れり。

本尊如意輪觀音は、山城國宇治の平等院より移したるものにして、毗首羯磨作三國傳來の像なりといふ。

——新撰東京名所圖會

里俗當寺を天台龍寶寺といひ、以て淨土の龍寶寺に別つ。

同年（慶長四年己亥。紀元二二五九年。）八町堀ニ四禪刹ノ並起アリ。俊旅（梅巖）ヲ開山トセル常林寺、玉鳳寺、隆繁（興國）ヲ開山トセル南臺寺、元照（用山）ヲ開山トセル仙翁寺是ナリ。寛永十二年乙亥（紀元二二九五年。）トモニ三田寺町ニ移ル。（三田寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。）

常林、玉鳳、南臺、仙翁ノ四寺

下總國印幡郡山梨村大隆寺末、芝泉岳寺配下。三田寺町。禪曹洞宗。

虎嶽山常林寺。

境内拜領地千貳百貳拾五坪。

表間口三拾間四尺、奥行三十五間、横三十四間三尺。

開山梅巖俊旅和尚。

右ハ寛永三丙寅年三月廿三日遷化。當文政十一戊子年迄貳百三年相成申ハ。

中興檀室□梅和尚。

右ハ寛永十九午年七月遷化。

開基、獄應常林居士。慶長五子年七月朔日死去。俗名水野佐左衞門。　——三田寺社書上

虎獄山常林寺。境内拜領地千二百二十五坪。

起立ミ儀ハ慶長四己亥年八町堀ニゐ寺地拜領仕、其後寛永十二乙亥年當所ハ替地被仰付ハ。

本堂。梁間三間、桁行十間。

本尊釋迦牟尼佛。木坐像、丈八寸。

脇立、迦葉、阿難。各木立像、丈九寸。

永平開山道元禪師。腰掛木像、丈倚子共二尺五寸。

釋迦誕生像。唐金立像、丈六寸。

聖德太子。木像、二尺三寸。

大權修理菩薩。腰掛木像、丈一尺六寸。

達磨大師。木像、丈一尺八寸五分。

今上皇帝御尊牌。

御代々樣御尊牌。

位牌堂、本尊、阿彌陀如來。木像、丈一尺五寸。

虎獄山ミ額字。唐僧心越和尙筆。

右ハ古來ゐ有之ハ。明和八卯年類燒仕ハ得共、本書御座ハ。

鎭守社。二間ニ九尺。

稻荷大明神。

相殿、白山妙理大權現。龍天護法善神。

辨財天。厨子入、丈八寸二分。弘法大師護摩灰作、附十五童子。

常林寺。虎獄山ト號ス。曹洞宗。下總國印幡郡山梨村大隆寺末。慶長四年八町堀ニ草創シ、寛永十二年此地○三田南寺町。ニ移レリ。開山樸巖。寺地千二百二十五坪。本堂十一間ニ十間半。　——東京府志料

常林院。町○三田南寺町。西ニ在リ。寺地東西三十四間四尺、南尺南北三十間三尺、面積千六十七坪九合三勺。

禪宗、曹洞派。下總國印幡郡山梨村大隆寺末派。慶長四年己亥今ノ八町堀ニ創建。寛永十二年乙亥此地ニ移ル。僧梅巖開山。　——東京府誌

武洲荏原郡芝三田中寺町常林寺末。高輪泉岳寺配下。同所。禪曹洞宗。

梧棲山玉鳳寺。

一、境内御拜領地四百五拾坪。

一、開闢起立ミ譯。

常林寺開山梅巖俊鸞大和尙慶長四己亥年八町堀ニゐ御拜領仕ハ。御奉行者米津勘兵衞殿ニ御座ハ。從其三拾七年目、寛永十二乙亥、當所三田ヘ御替地被仰付、御奉行者朝比奈源六殿、駒井次郎左衞門殿御兩人ニゐ請渡申ハ。正德三巳年右ミ通御奉行所ハ書上申ハ。起立ゐ今文政十一子年迄貳百三拾年ニ罷成ハ。御替地被仰付ハゐ今年迄百九十四年ニ罷成ハ。右ミ趣記錄罷在ハ。類燒ミ儀者記錄等ゑ無御座ハ間得ミ相分不申ハ得共、近邊問合ハ處、享保元年、又延享二丑年二月十二日、其後ゑ寶曆十辰年類燒ミ由承及ハ得共、委敷儀ゑ相分不申ハ。　——三田寺社書上

芝三田中寺町常林寺末。高輪泉岳寺配下。三田寺町。
梧棲山玉鳳。寺境内拜領地。四百五十坪。

起立ミ儀ハ慶長四己亥年八町堀ニゐる寺地拜領仕、寛永十二乙亥年御用地ニ相成、當所ハ替地被ニ仰付ニハ。
開山、梅巖俊鸞大和尚。寛永三丙寅年三月廿三日卒。
開基、玉室宗珍和尚。慶長七寅年四月朔日卒。
中興、格翁宗逸和尚。明暦三酉年七月廿二日卒。
本堂。梁間三間、桁行六間半。
本尊、釋迦牟尼佛。木坐像、丈頭迄八寸五分。
大權菩薩、達磨大師。各木坐像、丈頭迄一尺五寸八分。
出山釋迦牟尼佛。厨子入、丈頭迄九寸。
釋迦誕生佛。金立像、丈頭迄四寸。
辨財天。厨子入、丈四寸一分。蛇形、
脇立、大黑天、毘沙門天。
十六童子。
今上皇帝御尊牌。
將軍御尊牌。
韋駄天。厨子入、木立像、丈一尺一寸八分。
寺寶。
釋迦涅槃畫像。竪一丈一尺三寸、横五尺八寸。
天竺佛正觀音。厨子入、金坐像。丈七寸、秘佛。

禁裏樣惣本家大佛師左京法眼康祐印

極寫、

定

天竺佛正觀音金佛

右ミ本尊千五百年ニ成申ハ以上。

延寶八年三月朔日　西方十六番札所

觀音堂。九尺二間。
正觀世音。厨子入、木立像、丈二尺三分、定朝作、秘佛。
前立正觀世音。木坐像、丈一尺七寸。
右觀音堂、古ハ二間ニ三間ミ所、大破ニ付疊置、當時假建ニゐる前立計安置仕ハ。

——續府内備考

地藏堂。一間ニ九尺。
地藏菩薩。石坐像、丈三尺二寸七分。中興格翁宗逸和尚作ト云。

——東京府志料

玉鳳寺。町〇三田南寺町。南ニ在リ。寺地東西三十間、南北十五間四尺、面積三百八十八坪三合二勺。禪宗、曹洞派。本町常林寺末派。慶長四年己亥今ノ八町堀ニ創建。寛永十二年乙亥此地ニ移ル。僧俊鸞開山。

本寺、上總國望陀郡眞里谷眞如寺末。曹洞宗。
高峰山南臺寺。

一、境内拜領地五百六拾坪。

右之慶長四亥年中、寺社御奉行米津勘兵衛樣御勤役中、於二八町堀一前書之坪數拜領被二仰付一、則同年中寺建立罷在ハ處、其後寛永十二亥年中、地方御奉行朝伊奈源六殿、駒井次郎右衛門殿御勤役中、當所ハ替地被二仰付一、當所ニ引寺再建仕ハ儀ニ御座ハ。且當所ハ替地被二仰付一引寺仕ハ之當子年（文政十一年）迄百九十年ニ相成申ハ。尤當寺地面往古之儀并寛永年中之諸記錄等者延享之度餘燒ニ之、記錄過半燒失仕ハニ付、亘細ニ相分り兼申ハ。

一、開山興國隆繁和尚。本寺眞如寺十九代。寛文三卯年十一月四日遷化。生國俗姓相分不レ申ハ。

一、中興物堂秀萬和尚。當寺二代。寛文午年（六年）七月七日遷化。生國俗姓相分不レ申ハ。

一、開基、松下加兵衛長光。寛文三卯年中伽藍建立有レ之、只今ニ之開基檀那ニ御座ハ。尤同人儀元祿十丑年五月十二日卒去。法名之儀祝融院殿萬溪凉松大居士。

——三田寺社書上

本堂。（梁間三間、桁間八間半。）

本尊、釋迦如來。（厨子入、丈六寸五分。）

脇立、迦葉尊者、阿難尊者。（共ニ木像、丈七寸五分。）

達磨大師。（木像、丈一尺四寸。）

大權菩薩。（木像、丈一尺五寸。）

——東京府誌

阿彌陀如來。（木坐像、丈九寸。）

韋駄天。（木像、丈五寸。）

鎭守、稲荷明神。（厨子入、木像、白狐乘、丈四寸。）

南臺寺。高峰山ト號ス。曹洞宗。上總國望陀郡眞如寺末。慶長四年八町堀ニ草創シ、後此地ニ移レリ。

開山隆繁。寺地六百十五坪。

——東京府志料

南臺寺。町（三田南寺町。）ノ西北ニ在リ。寺地東西五十二間、南北四十二間、面積六百八十五坪四合七勺。禪宗、曹洞派。下總國望陀郡眞里谷眞如寺末派。慶長四年己亥今ノ八町堀ニ創建。寛永十二年乙亥此地ニ移ル。

松下某（加兵衛。）開基。僧隆繁開山。

駒込吉祥寺末。（高輪泉岳寺配下三田寺町。）曹洞宗。

桃源山仙翁寺。

——續府内備考

一、境内拜領地八百七拾五坪。

右之慶長四己亥年於二八町堀一拜領仕ハ。御奉行所米津勘兵衛殿ゟ被二仰渡一ハ。則同年ニ寺建立仕ハ。其以後寛永十二乙亥年當處ハ御替地被二仰付一ハ。御奉行者朝伊奈源六殿駒井次郎右衛門殿被二仰渡一ハニ付、御兩人ゟ受取申候。正德三癸巳年右之通り御奉行所ハ書上申ハ。建立ゟ當暦文政十一戊子年迄貳百三十年ニ罷成申候。替地ゟ及今年百九十四年ニ相成申候。尤類燒之儀有レ之ハ等聞傳ヘ承知ハ得共、一向記錄等一切無二御座一ハ故、委敷事者相知不レ申候。

駒込吉祥寺末、高輪泉岳寺配下。三田寺町。

桃源山仙翁寺。（境内拜領地八百七十五坪。）

——三田寺社書上

起立之儀之慶長四己亥年於二八町堀一寺地拜領仕、寺建立仕ハ。其後御用地ニ相成、寛永十二乙亥年當所ニ

替地被仰付ハ。

開山、用山元照大和尚。吉祥寺五世勸請開山ニ御座ハ。慶長三戊戌年八月廿七日卒。

開基、融岩長祝和尚。元和九癸亥年十二月三日卒。

中興、法山堯說大和尚。明暦三丁酉年二月四日卒。

本堂。梁間三間、桁行六間。

本尊、釋迦如來。木坐像、丈一尺五寸。

脇立、文殊菩薩。普賢菩薩。共木座像、丈九寸。

達磨大師。木坐像、丈一尺六寸。

大權菩薩。同。

地藏菩薩。木立像、丈二尺。位牌堂安置。

韋駄天。厨子入、木立像、丈五分庫裏ニ安置。

鎭守社。一間四方。

白山妙理大權現。稲荷大明神。日本大小神祇。何レモ板札ニ書勸請。

觀音堂。二間四方。

觀世音。丈一尺三寸。

右は大破ニ付疊置、當時內佛ニ安置。

——續府內備考

仙翁寺。桃源山ト號ス。曹洞宗。駒込吉祥寺末。慶長四年八町堀ニ草創シ、後此地ニ移レリ。本寺五世元照ヲ勸請開山トス。寺地七百坪。

——東京府志料

仙翁寺。同上。○三田南寺町西。寺地東西四十五間、南北五十二間、面積五百五坪一合七勺。禪宗、曹洞派。駒込吉祥寺末派。慶安四年己亥常林院ト同ク創建シ、寛永十二年乙亥此地ニ移ル。僧元照ヲ勸請開山トス。

——東京府誌

常林寺	虎嶽山	禪宗虎嶽山額、心越筆	三田南寺町 二〇
仙翁寺	桃源山	同	同 二二
玉鳳寺	西方三十三番札所第十六番	同	同 三一
南臺寺	高峰山	同	同 三三

——新撰東京名所圖會

谷中○三崎町。ノ法華宗妙圓寺ハ、慶長四年己亥○紀元二二五九年。僧日如ノ草創トイフモ、ソノ舊地ハ詳ナラズ。元祿十七年甲申○寶永元年。紀元二三六四年。現地ニ移ル。○再校江戸砂子。江戸志。改撰江戸志。續府內備考。東京府志料。新撰東京名所圖會。

谷中妙圓寺（法華）草創

妙圓寺事蹟

法恩寺末。

——再校江戸砂子

妙圓寺

圓住山妙圓寺。

開山圓住院日如上人。

寺中、一乘院。龍成坊。

關東首都時代

圓住山妙圓寺。　法花。　法恩寺末。

開山圓住院日如上人。　同所。長久寺向側。

寺中、一乘院。龍成坊。　——江戸志

八幡神社。神田様御誕生守護神。

中興開山、三世仙翁院日宥上人なり。上田家譜云、當寺ハむしめ上野清水門の前とをりよありしか、元祿七年二月十五日此所ようつれりと。　——改撰江戸志

八幡社、境内よあり。甲府殿御誕生の守護神なりと云。　谷中三崎。

本所法恩寺末。

圓住山妙圓寺。境内古跡拜領地八百九拾八坪四合。

開闢慶長四己亥年寺地八百三拾貳坪四合拜領仕、其後元祿十六未十一月類燒ニ付、寺地御用地ニ被召上、元祿十七甲申年三月十五日前書坪數ニ通代地拜領仕ハ。

開山、圓住院日如。慶長七寅八月廿五日遷化。

本堂。六間半、五間。

本尊、妙法蓮華經。　釋迦如來。木佛坐像。　多寶如來。木佛坐像。

淨行菩薩。　安立行菩薩。　上行菩薩。　無邊行菩薩。

持國天。　毘沙門天。　廣目天。　增長天。　文殊菩薩。　普賢菩薩。　不動明王。　愛染明王。

日蓮大菩薩。木坐像。丈一尺。日蓮ニ弟子日法ト作。日蓮ト開眼ト申傳。厨子入。

八幡大菩薩。丈六寸餘。厨子ト扉ニ葵之御紋有レ之。傳敎大師作。日蓮ト開眼ト申傳。

小鐘。一口。

什物。一、大黑天畫像。一幅。右畫像ハ往古福相寺ニ什物ニ御座ハ處、元祿十六癸未十一月廿九日類燒仕、三寶尊體出置ハ所、此畫像飛來り、依て當山ニ致ニ什物ニハ。且大坊大黑とも稱すと。日義ニ賛有レ之ハ。

稲荷社。一間ニ九尺。

往古ハ寺中一乘院龍成院二軒有レ之ハ處、明暦年中類燒後中絶仕ハ。

御府内寺社帳よ、境内八百三拾貳坪四合、寶永元申年拜領ニ添地六拾六坪とあり。寺僧の話よ、寶永元申年添地三拾六坪拜領せしと云。

上田氏ハ今も檀家よて、小石川指谷町よ住し、上田犀之助と云。但開基旦那よはあらず。　——續府内備考

妙圓寺。圓住山ト號ス。法恩寺末。開山日如。寛永八年寂ス。當寺ハ元神田ニアリシカ、承應元年谷中茶屋町ニ移リ、元祿十六年再今ノ地ニ移レリト云。寺地八百九十八坪。　——東京府志料

妙圓寺は同町三崎町。六十番地に在り。圓住山と號し、觀智院と稱す。日蓮宗にして、本所法恩寺末。開山は圓住院日如上人にて、元神田に在りしが、元祿十七年現地に移る。　——新撰東京名所圖會

淺草南清島町。ノ一向宗等覺寺ハ、慶長四年己亥紀元二五九年。僧慶專ノ草創トイフモ、其地詳ナラズ。後現地ニ移レリ。江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。續府内備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

等覺寺（浄眞）草創

等覺寺事蹟

等覺寺

勝龍山等覺寺。　東末。

寺中、樂　邦　寺。　寺町。

——江戸砂子、江戸惣鹿子

證龍山等覺寺。　一向宗。　東末。　同所。○新寺町。○桑藏寺ノ隣七軒寺町。

開基、

東本願寺末。　淺草新寺町。

——江戸志

朝倉山一條院等覺寺。

境内古跡拜領地二百七十坪、添地百五十七坪半。

越前大守朝倉左衞門尉義景ミ嫡男左馬頭信景也。法諱慶專權大僧都也。初而神田ニ一宇造立、御入國後上野下ゟ何千坪拜領ミ由、今現居ミ地加藤織部ミ屋敷ゟ替地被仰付、三十三間堂前ゟ下屋舗被下置。其地所同所遍立寺ニ屬。往古ゟ地中三ケ寺有之。遍立寺眞龍寺樂邦寺。右ミ内樂邦寺儀ハ凡年代六七十年已前本坊ゟ攝。本尊木佛等今當寺ニ有之ゟ。眞遍貳ケ寺今現ニ他地ニ有之ゟ得共、如何ミ譯と申儀相分不申、只過去帳に地中遍立寺誰、地中眞龍寺誰、地中樂邦寺誰と名有之、以往古地中三ケ寺有之證といたし可申ゟ哉。類火ミ節古書等燒失仕、委細ミ儀ハ相分不申ゟ。右ミ通申傳ゟ。

開基、權大僧都慶專。承應元壬辰年霜月十九日、行年七十八歳ニ而卒。

本堂。七間、五間半。

本尊、阿彌陀如來、木立像。

開山親鸞聖人御影。一如上人御裏。

聖德太子眞影。從如上人御裏。

三朝高祖眞影。實如上人御裏。

右慶長十九寅年十二月七日染草ミ有之。

常如上人眞影。一如上人御裏。

眞如上人眞影。從如上人御裏。

阿彌陀如來御影。源信和尚筆。

等覺寺。勝龍山ト號ス。眞宗。京都東本願寺末。往古京橋ノ邊ニテ起立。其後東叡山ノ麓ニ移リ、又今ノ地ヘ轉ス。開山慶專。寺地四百二十七坪。

——東京府志料

等覺寺。本町○南清島町。ノ東北方ニ在リ。寺地東西三十一間四尺、南北九間一尺、面積二百三十四坪九合六勺。年曆不詳、東叡山下ヨリ此ニ移ル。眞宗。京都東本願寺末派。慶長四年己亥僧慶專開基。開山不詳。

——東京府誌

等覺寺は南清島町六番地に在り。朝倉山と號し、一條院と稱ス。眞宗にして、淺草東本願寺の末なり。慶長四年慶專上人此が開基なり。昔時門前町屋及寺中樂邦寺あり。

——新撰東京名所圖會

源光寺（淨眞）草創

慶長四年己亥○紀元二二五九年。淨土眞宗ノ僧源長、源光寺ヲ本所蛇山ニ草創ス。延享四年丁卯○紀元二四〇七年。現地○荒井町○厩橋二丁目。ニ移ル。○江戸砂子。江戸志。葛西志。本所寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

源光寺事蹟

源光寺

中郷山源光寺。　東。　中之郷。

源光寺。境内年貢地百十七坪。此町○荒井町。東の方北割下水の西にあり。一向宗東本願寺の末。中郷山と號す。當寺起立の年歴その詳なる事は傳へされども、下に載る開山源長の系譜よれば、慶長年中の事と見へたり。その比はこれより少しく北の方小名蛇山按に原庭町の東の方長建寺の後の方なり。と云處にありしを、延享四年今の地へ移されしといふ。

中之郷。北割下水。　——江戸砂子

浄土眞宗。　東本願寺末。　——江戸志

門。中郷山の三字を扁す。當山主權大僧都法印釋源長拜書と落款あり。

客殿。門を入て正面に有。大覺殿と扁す。能仁子藝成書と落款あり。本尊阿彌陀如來を安置せ。

寺寶目錄

人丸像、阿法師作、　一軀。

銀蘭七條輪袈裟、　一。

繭黃紋衣、　一。

唐本四書、　一。

右四品は、開山源長敎如上人へ附屬ミ時、先師天海よりゆずられたるものと云。四書は海師手つから校正ありし本のよしなれど、後年回祿にかゝりて失ひしと云。

左文字刀。　一振。

東照宮會津御凱旋の時賜ひし刀なるよし。是も同時に火失すと云。

葵御紋織入の五條袈裟。　一。

朝鮮板一切經。　一部。

右大阪御陣の後賜へり。一切經は火失してなし。

惠心僧都彫刻阿彌陀如來。　一軀。

紺紙金泥法華經。　一部。

三品八祖尊影。　一軸。

右三品は海師末期に讓られしものと云。

系圖。　一卷。○其大略ニ云トアルモ、下ニ引ク書上ノ方詳細ナレバ、省略ス。

鐘樓。門を入て右の方にあり。鍵推閣の三字を扁す。鐘は延享三年の鑄造にして、銘文あれども、考證に益なければ略せ。

經藏。客殿に向て右に有。龍宮藏と扁せ。和板の一切經を納む。　——葛西志

東本願寺末、本所表町

浄土眞宗　中郷山源光寺

一、古跡御年貢地境三百五十七坪。

關東首都時代

但し南と方百四坪、町並屋敷圍込住居罷在候。

一、起立と地ハ本所中之郷原庭町一名蛇山と申處ニ御座ハ處、延享四丁卯年唯今と地ゟ引地仕候。其節寺社御奉行大岡越前守殿ゟ奉願ハ處、願と通同年六月六日小出伊勢守殿於御内寄合席被仰渡、唯今と地ゟ引地ニ相成ハ。

一、源光寺開基源長儀、俗姓ハ頼光朝臣九代と後苗光俊淺野四郎天正三年四月八日ニ生ル。五六歳ニ及シ頃ハ聰明他ニ越さりと人々稱しあへり程ニ、出家ヲ遂度との願を發し、父ニ乞支ハ〳〵なり。曾ゑ不許。是ニよりて食を絶し言を不出支三四日なり。願と切成を知りて、親族相議シゑ漸願を許し、師を選フニ至ゑ、時に常陸國ニ江戸崎不動院と住持天海師ハ父と舊識なりとて、相具ゑ至り合出家支を乞。師と言、出家せん支ハ安く行を遂ん支ハ難し、況哉若年ニゑ心未定、發心さる事なゝら思止るへし、殊ニ如説修行せん支志氣弱くしてハ不可成とて、其强弱を試んが爲ニ、唯識三十頌を讀聞せ給へバ、悉く暗記して高聲ニ唱。於此其敏悟を嘆賞し給て、無止支鬢髮を剃除し、願を遂しめ、式部卿觀海と改ム。爾より後ハ常ニ隨テ山門ニ登ル支度々ニして、圓頓一乘と義を習學せり。或時不動院ニして、つら〳〵出離と道路を案ゑるニ、志處言語ニ述難し、專ら心をくゞくの折ゝら、夢うつゝよして一人と化僧忽爾と現れ、告テ云、汝ゞ菩提心と熾盛成るをゝゝみて、是を守護し彌曾進ならしめんゝ爲ニ是を授る處也、金剛童子と可稱、是ハ是レ降魔と靈器惡鬼諸障礙便りを失と至極也、出離と因緣必近ニ有りと、告給と覺て夢さめぬ。然る處我掌と内ニ梵字名有り。是そ告給し處と金剛童子と名付る者也とて、彌奇異と思をなし、常ニ身をたなさを所持と處ニ、夫より已來智行兼備と聞へ高ゝりしゝバ、慶長三年東照宮と召ニ應して、伏見と御城ニして初ゑ拜謁ス。于時本願寺教如上人ニ隨信をへしと尊命有りて、海師ニも其旨被仰下。海師否ム事不能、教如上人ニ授與ス。海師よりハ此時繭黄紋紗と衣頓阿法師の作人丸と像一軀を被送なり。また教如上人ゑ九字十字と名號を給フ。其後下總國葛飾郡中と郷蛇山ニ住シ、祖父光時と諱字氏を以て寺號として、源光寺源長と改ム。慶長五年師ニ陪從して、神君と會津と御陣ニ往て、夢中感得と金剛童子梵字石寫を獻ス。是ハ御開運を令守護ゑ爲なり。則御感不斜、御甲と内ニ納させ給ふ。御開運と後御返し被下、右と節段々御懇と奉蒙上意候。同十四年山門法華大會有之時、海師被招ニ依ゑ、被誘登山ス。此時權大僧都ニ被任。元和元年秀忠公大坂御陣と時、先例ニ任て梵字石を獻ス。御開運と後梵字石ニ御裏書ヲ被遊御返し被下。此時朝鮮板と一切經一部御紋織込と五條袈裟を給ふ。但し紋白と紫地ニ有之。御歸城と後ハ時々ニ御坐間ニ被召御伽ニ加ル。支立さる時ハ於御白書院ニ獨御禮申上候。寛永廿年海師違例、追日九月初旬ゑハ日夜枕上を不離藥餌を進め病床を守る。十月朔日令法久住と捉なと懇ニさとしき、故形見となすべき由ニゑ、惠心僧都と作彌陀と尊像一躰紺紙金泥と法華經一卷八祖と尊像一軸讓之給ル故ニ、生涯二宗兼學ス。明暦元年五月歳老たるニ依ゑ、寺務を辭し、隱居して十是庵と號。萬治二年十月廿八日八十五歳ニゑ寂ス。二代目了智父時と〻ことく於御白書院獨御禮申上ハ。尤乘輿ニゑ登城仕ハ。寛文五年迄相勤、三代目了跡六歳ニゑ住職いさし、後見ニゑ寺務仕ハニ付、獨御禮中絶仕、東叡山と御禮申上ハ儀も其節ゑ中絶ニ相成ハ支。

本堂。梁間三間、桁行七間。

——本所寺社書上

本尊、阿彌陀如來。二尺四寸。

宗祖上人一代行化ミ畫像。三幅。

右本願寺三代目覺如上人直筆ミ御銘ニゐ、畫工ム法眼淨賀ミ筆、當宗ニゐ繪傳ト稱い。尤當時御門主より免許ミ繪傳ム四幅ニ御座い。是も傳來仕い。

石燈籠。高サ一丈一尺餘。

右ム去ル文化八未年十一月願濟ニゐ造立仕い。

經藏。二間四方。

表門の額ム古來開基ミ筆ニゐ、額面ニム中郷山、慶安三年寅春三月當主權大僧都光圓法印源長書之と有之い、懸來い處、文政二卯年十二月十日燒失仕いニ付、只今ミ額ム松平越中守殿筆に御座い。

——續府內備考

鐘搗堂。

大鐘。

蓋夫華鐘者梵刹之法器而、其功用大者也。其形虛圓、而其聲韻々乎。能驚無明煩惱睡夢、破阿鼻泥犂之業輪。由之觀之、鐘者法器之最也。粤見外永智與監物氏欲鑄華鐘而告予。於此予亦同志命此於鳧氏。不日鐘成矣。其功烈豈易量哉。此鐘也、撞則鴻韻殷々而上穿碧落、鯨聲鏜々而下徹黃泉。何論聞百里之洪鐘豈說鳴三日之怪鐘哉。早晨薄暮動千佛殿前百八聲裏、敎巨海之蒲牢生怖畏、令金城之君子思武臣。嗚呼其功用可謂至矣。又經營此者確乎善根力也。縱然劫石有消日、功烈者無有盡矣。予依之而爲見外永智監物氏作銘彫華鐘。其銘曰、

華鐘已就　高掛珠林　鯨含霜動　龍向月吟　遠驚幻夢　普破煩襟
僧聽忘慮　賢欽惜陰　聲流海內　響渡烟岑　佳氣時至　瑞雲自深
神仙堪護　魔外無侵　依撞扣力　作大小音　功殘萬世　德越千金
落耳根者　覩壞滅心

維時延享三丙寅龍集初冬十賞

中郷山主源光精舍

釋了跡謹記焉

——本所寺社書上

源光寺。中郷山ト號ス。眞宗。京都東本願寺末。開基ヲ觀海トス。後源長ト改ム。中郷原庭町ニアリ。其後此地ニ移サル。境內四百六十一坪。租稅地。

——東京府志料

源光寺。町（○荒井町。）東ニ在リ。寺地東西十七間。南北七間。面積百六十一坪。眞宗、京都東本願寺末派。慶長四年己亥僧源長開基並開山。

——東京府誌

源光寺は同町（○荒井町。）五十七番地に在り。中郷山と號す。眞宗にして、東本願寺の末なり。

——新撰東京名所圖會

以天示寂

慶長五年庚子（○紀元二二六〇年。）七月朔日壬寅（○壬寅、三正綜覽。）禪僧以天（○頭室。）示寂ス。（○日本洞上聯燈錄。芝寺社書上。）

以天事蹟

以天傳

武州青松頭室伊天禪師、遠州木原人。姓穗積氏。鈴木之族也。自幼不茹葷。不嬉戲。坐必跏趺。父甚異。依堀越海藏寺出家。受具後杖策入關東、謁瑞翁於萬年。翁以南泉斬猫話問之。一旦所疑頓釋。衝口說偈曰、王老死猫兒、今朝活路通、遠江纔發足、七日到江東。翁嘉之。復召反覆勘辨。終無凝滯。俾掌記室。未幾首衆分座。文祿歲出世總持。歷遷諸刹領青松。毫侶鱗聚。闔府僚屬以至遐邇官民、問道者不絕。丕振玄綱。川口氏創玉窗禪刹。聘爲開山之祖。又有信官建大松寺請爲始祖。上堂擧、古德曰、供養三世諸佛不如供養一無心道人。拈曰、供養三世諸佛是供養無心道人、是擊拂子。曰、名利盡隨騎馬客、是非不到釣魚人。僧問、如何是和尚家風。師曰、鐵牛不喫欄邊草、直上須彌頂上眠。問、如何是家乘極則事。師曰、風射破窗鳴。東照源君嘗入寺聽師說法大悅。自時厥後每月値先考諱辰迎入城設齋。一日齋罷命師闡揚第一義。師擧趙州四門話示之。自閣老以下環而聽之。靡不悅服。奏闕特旨賜紫衣普光禪師之號。慶長庚子（五年。）增廣城堞。命遷寺基於城南。擅施塡門。指顧之間成績。偶示微恙。作書別諸外護。以法嗣麟曹補其處。恬然坐逝。慶長五年七月朔日也。春秋七十八。

——日本洞上聯燈錄

頭室伊天禪師。遠州木原人。姓穗積氏。鈴木之族也。文祿年中領青松。上堂擧、古德曰、供養三世諸佛不如供養一無心道人。拈曰、供養三世諸佛是供養無心道人、是擊拂曰、名利盡隨騎馬客、是非不到釣魚人。東照源君嘗入寺聽師說法大悅、自時厥後每月値先考諱辰迎入城設齋。一日齋罷、命師闡揚第一義。師擧趙州四門話示之。自閣老以下環而聽之。靡不悅服。奏闕賜紫衣普光禪師之號。慶長庚（五年。）子增廣城堞。命遷寺基於城南。川口氏創玉窓寺。聘爲開山之祖。又有信官建大松寺請爲肇祖。晚在萬年。示疾恬然委順。慶長五年七月朔日也。壽七十八。

——芝寺社書上

淺草寺戰勝祈禱

同年（慶長五年庚子、紀元二二六〇年。）九月朔辛丑（辛丑、三正綜覽。）此日ヨリ一七日、淺草寺ニ於テ戰勝ノ祈禱ヲ行フ。關ケ原役ノ爲ナリ。（東照宮實紀附錄。）

御出陣の前かた、增上寺存應和尙御前にいでゝ、この度御出馬により、御領內の寺社にて怨敵退散の御祈禱命せられんかと伺ひしに、いづれの寺社がよけむと仰らる。鎌倉の八幡宮こそ第一なれと申す。此神はわが若年の頃より朝夕祈念すれば今改めて祈禱に及ばじ、幸ひ靈武の神なれば常陸の鹿島大明神、佛にては兼ての祈願寺に申付たれば淺草の觀世音まかるべしとて、兩所へわきて祈誠懇丹を抽づべきよし、宮司別當等へ仰下されぬ。こは鎌倉右幕下平家近討の節の舊蹟を遂行せられしなりとぞ。さて九月朔日より祈禱興行し、一七日滿願により、兩所より使もて符錄を奉りけるが、十四日の夕方に岡山の御陣までもて參りしに、その日は中村右馬が手の迫合にて、御陣混擾しければ、明日奉らむとてひかへしが、十五日は早朝よりの大戰にてその暇なし。十六日の晚方藤川の臺の御陣へ參りて捧ければ、御けしき大方ならず、已に御勝利の上は兩人とも馳歸り、この後は怨敵退散の祈を止め、天下安全の精誠をぬきむづべしと、仰下されしとぞ。（天元實記、落穗集）

——東照宮實記附錄

威光院（眞言）移轉

同年（慶長五年庚子、紀元二二六〇年。）眞言宗威光院（般若寺。）櫻田ヨリ八丁堀ニ移ル。開山ハ僧辨淸ナルモ、創建ノ年時詳ナラス。（一說文祿三年トス。）後元和八年壬戌（紀元二二八二年。）現地（淺草榮久町。）ニ轉ス。（江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。淺草寺社書上。續府內備考。東京府志料。新撰東京名所圖會。）

威光院事蹟

威光院

雀亭（○亭カ。）山威光院。	同。（○圓福寺末。）	新堀。
鶴亭山般若寺威光院。	眞言。	——再校江戸砂子
開山辨清大僧都。	圓福寺末。	同所。（○新堀。）
鶴亭山威光院般若寺。	眞言、圓福寺末。七百四坪。	——江戸志
開山、辨清大僧都。	同所。（○新堀。）常福寺後。	——江戸紀聞

武州豐島郡淺草新堀端

芝愛宕前圓福寺末。

新義眞言宗　鶴亭山威光院

一、境内七百四坪。　古跡拜領地。　拜領年代不詳。

一、新堀端通ニ添境内ニ坪數往來川端迄上り地ニ相成追而替地可被下筈ニ段申傳ル事。

一、開山、法印辨清。元和五未年三月廿七日寂。

一、中興法印秀仙。安永七戌戌七月二日。

一、拜領地六百坪。

慶長十六辛亥八月廿四日於八丁堀拜領仕ル。

御奉行　米澤勘兵衛殿

嶋田治兵衛殿

地割役　木原勘右衛門殿

一、寛政十二乙亥年五月廿二日御用地ニ罷成、淺草ニ添境内南北二十間東西三十間御替地被下置ル。

御奉行　朝比奈源六殿

駒井治郎右衛門殿

正德三癸巳年六月廿四日右ニ通り總泉寺ヘ書上申ル。　——淺草寺社書上

寺社御奉行土井伊豫守樣ヘ納申ル。

開山、法印辨清。元和五未年三月廿七日示寂。

中興、法印秀仙。安永七戌年七月二日示寂。

本堂。（間口六間、奥行四間半。）

本尊、大日如來。（座像、臺座ハ惣丈四尺五寸。）

護摩堂。（間口二間、奥行二間半。）

不動明王。（長二尺五寸、惠心僧都作。）二童子アリ。　——續府内備考

威光院。鶴亭山ト號ス。眞言宗。芝愛宕町眞福寺末。開山辨清。寺地六百七坪。　——東京府志料

威光院。常福寺ノ北ニ在リ。寺地東西二十八間、南北二十一間、面積六百七坪。眞言宗新義派。京都智積院末派。文祿三年甲午僧辨清開基。元和八年壬戌八町堀ヨリ此（○榮久町。）ニ移ル。　——東京府誌

威光院は同町。○榮久町。百六番地に在り。龍亭山○龍亭山カ。と號し、般若寺と稱す。眞言宗にして、京都智積院の末なり。開山は辨淸大僧都。もと櫻田村まありしが、慶長五年八町堀に轉じ、元和八年此地に移る。寺寶まは嵯峨上皇宸筆弘法大師畫像、智證大師筆不動畫像、各一幅、興敎大師所持古銅獨鈷杵一個、弘法大師作といへる不動明王坐像あり。

——新撰東京名所圖會

青松寺（禪）移轉

同年○慶長五年庚子、紀元二二六〇年。貝塚ノ禪刹青松寺芝○愛宕下。ニ移ル。○再校江戸砂子。望海每談。江戸志。事蹟合考。改撰江戸志。鮫ヶ橋書上。江戸圖說。愛宕下寺社書上。江戸名所圖會。東京府志料。東京府誌。東京通志。新撰東京名所圖會。

青松寺事蹟

青松寺

萬年山青松寺。　曹洞宗、江戸三ヶ寺の中。

開山雲崗俊德大和尙。　あさこの南。

文明の頃青松何某雲崗和尙に歸依し建立せしゆへ、その名字を寺號とせ。舊地ハ貝塚なり。天正の頃此地まうつさる。

當寺は青松宮內といふ人建立こといふ。もと貝塚にありし故、今ま貝塚青松寺といふ。舊地ハ今の麴町貝坂の南の邊一圓ま當寺の境內なりしとそ。うつされしは慶長後なるへし。

——再校江戸砂子

青松寺は愛宕山の隣なり。萬年山と稱せ。古へは貝塚に有しが、當所に引たり。太田道灌の嫡男に青松殿と云少年有しに、早世成しを葬たりし故、此寺を建立し青松寺と名付らる。當所の儀ハ道灌江戸在城の時分飯倉砦とよびて軍兵を入置れし所なり。此砦に道灌の守り本尊たる觀音を安置し一堂を建置たり後來寺も添たり。御入國以來江戸段々廣がりしより、寺は他所へ引れ、觀音堂計り殘し置たる儘、今は牧野駿河守の屋敷庭の山に有り。此山初ハ正中に道有。道より西北の方牧野屋敷と成、道共に東の方青松寺境內なり。今以て寺の山へ登り見れば、林の間に其道有と云々。道灌の砦の時は長臣太田□□預り守りしと云。

——望海每談

南向茶話云。文明頃青松甲斐といふ人雲崗和尙を歸依し當寺を建立せ。故に青松寺といふとそ。舊地ハ貝塚なり。天正比此地まを移さるゝよし。江戸砂子の說も是におなし。

——江戸志

芝愛宕下青松寺門前。大猷公御代の末までは、正保慶安のころまでも、葦沼の汐入にて、六月の炎天にも奴僕に下駄を持せて行かざれば往來なりがたりしが、見るうちに石疊の地となりしと云々。

——事蹟合考

道灌日記といふ書まを云、愛宕の下青松寺ハもと貝塚まありし處、慶長十九年櫻田まひけ、其後又今の地へうつされし由。○中略。事蹟合考まを云、青松寺の門前は正保慶安の頃迄に葦沼汐入まして、六月の炎天のころまも木履なと用ひされは往來なりかたしと。是等まよれば、寛永の頃はや此所まうつされしと見ゆ。

——改撰江戸志

青松寺麴町貝塚まを在し頃、山號を一まを一木山とも唱へし由、且當寺境內其頃ハ波打際まてと記したる寺記ありし由、聞傳へたりと云。

——鮫ヶ橋書上

或書まを云、青松寺邊正保慶安の頃ハ汐入の葦沼の由いへり。左まあらず。其頃の圖まは、愛宕青松寺の

向ハ松平伊豆守殿屋敷まて、其隣ハ名を失す。いつれとも屋敷にて、今の馬場廣道にあらさ。增上寺ハ只往來の道を隔計ゆみゆ。又正保慶安以前寛永頃の圖よも、青松寺前ハ一柳家の屋敷、青木甲斐守殿川勝信濃守殿屋敷なり。是ハ圖を見あやまりたるなるへし。

——江戸圖說

一、境内拜領地坪數壹萬七千六百九十九坪餘。東西百四十間、南北百貳十六間。

寺宇

越生龍穩寺末。貝塚

曹洞宗　萬年山　青松寺

青松禪寺文明丙申（〇八年。）太田持資爲請雲岡和尚、就城西始建焉。大永四年城主上杉朝興爲北條氏綱被圍崇桑門。天正辛卯頒璽符賜映田二十二石。文祿壬辰（〇元年。）賜下馬二大字。（〇寛文八年燬燼而亡。）亦降賜禁約三條、謂禁山中殺生、禁草木剪伐、禁喧嘩諍論。當俊鶯時、慶長庚子（〇五年。）增廣城堞。仍使多良左近太夫告往持伊天遷寺於城南、賜米五百斛賜役若干人。木原氏司命、伊天移之。寛永六年災、春道建。寛文八年戊申二月災。官令曰。青松寺隣接上祖廟院、他時有災亦不可量、自今之後宜易地移寺。秀的上書曰、謹奉官命、然吾山上祖神君自命所賜之地也、乞許於今山中而易寺基、然則官無祖廟之患、吾山亦將俾與國家相爲悠久永々無已。制曰可。

御朱印寫。

權現樣

寄進青松寺

武藏國豐島郡貝塚ミ内貳拾石之事

右令寄附畢、殊寺中可爲不入者也、仍如件

天正十九辛卯十一月日　（御朱印）

大高折紙

七世　瑞應代

台德院　樣

寺領武藏國豐島郡貝塚ミ内貳拾貳石之事

任去天正拾九年十一月先判之旨永不可有相違ミ狀如件

元和三年十一月三日　（御朱印）

九世　一峰代

大獻院　樣

當寺領武藏國澁谷村ミ内貳拾貳石事

如先規令寄附畢、永不可有相違者也、仍如件

寛永十三年十一月九日　（御朱印）

十世　牛道代

嚴有院　樣

武藏國豐島郡澁谷村之內貳拾貳石事

任天正十九年十一月日元和三年十一月三日寛永十三年十一月九日先判旨青松寺全收納永不可有相違者也

寛文五年七月十一日　御朱印　　十三世　大了代

常憲院　樣

御文言同斷

貞享二年六月十一日　御朱印　　十六世　如實代

有德院　樣

武藏國豐島郡澁谷村之內貳拾貳石事

依當家先判之例青松寺收納永不可有相違者也

享保三年七月十一日　御朱印

惇信院　樣

御文言同斷

延享四年八月十一日　御朱印　　廿世　秀國代

淺明院　樣

御文言同斷

寶曆十二年八月十一日　御朱印　　廿二世　秀國代

御當代　樣

御文言同斷

天明八年九月十一日　御朱印　　廿六世　眞常代

右御朱印地所只今之上澁谷村之御座ハ事。

關東首都時代　　三拾世　澤山代

一、御府內曹洞宗觸頭ゝ儀者、神君樣御入國後慶長年中蒙ニ上意一ル事。

大雄殿。本堂也。桁行十三間、奥行七間。

大雄殿東向。舊趾在ニ今之東一。寛文戊申災。十三世秀的移基建。享保壬子災。至ニ元文己未一主僧二十二世秀國募建。中爲ニ殿、後爲ニ佛龕一。々之左右爲ニ祖師伽藍二祠一。眉間則額青松禪寺四大字。唐漢辛酉孟冬。明國鼓山爲霖道霈禪師筆也。文政戊寅羅災而亡。

本尊、華嚴會拈華釋迦尊。座像。丈一尺七寸五分。

脇立、迦葉尊者、阿難尊者。各丈一尺。

達磨大師、大權菩薩。各丈二尺一寸。

萬年山大殿上棟銘。

皇矣像教。自ニ西徂一東。丕建招提。牖ニ于民衷一。青天震雷。以聳ニ群聾一。蹶然以興。豁然而聰。城南之墟、海北之濱、川媚山輝、靈和此融。彼何練若、雄焉寵從、熾極而衰、衰而復隆。白毫一分。在ニ指顧中一。靡仆不起。何闕弗充。敢告來者以纘以述。功烈巍々、與ニ山無窮一。

元文四年三月穀旦　青松第二十代住持秀恕謹書。

鐘鼓樓。

鐘。銘左之通。

武州豐島郡江戸莊貝塚鄕萬年山青松禪寺者、文明八年丙申當府之城主左衞門大夫太田道灌布金而請ニ德侍者一之地也。灌者文武之良將、而兼有ニ得ニ于禪一者也。德公者洞門郡匠世所ニ共知一也。自後雖ニ世異人不ニ同、衆常不ニ下ニ千指一。四傳而至ニ泰翁一。陽主ニ此山一。源朝臣越州大守太田眞淸及大石道俊造ニ寶鐘一口助ニ禪誦一。寛永己巳歲罹ニ祝融氏之厄一、寶鐘亦成ニ烏有一。及ニ十世牛道之時一、磯崎等再造、而尋歿也。至ニ寛永癸未一、木原氏義久爲ニ亡祖母妙薫大姉一捨ニ財而重造一。逢ニ丁酉舞馬變一自高樓一拋ニ地而宮音少沙也。寛永癸卯四月添ニ銅若干斤一而改鑄。木原氏內匠亦助ニ銀若干兩一。似ニ先考義久之志一也。脫模之日無震於石柞之病發郊雉雊之洪音。因記ニ此鐘成毀數一而銘ニ之一。銘曰、

銅頭鐵額　胸襟豁然　洪纖隨和　響應無邊　拔幽發冥　破長夜眠　惟此佛事　德徹天淵　是五音主　韶武起焉　世出世間　一音並宣　儼壽金石　恨我齡遄　懿哉法器、永鎭萬年

寛文五年乙巳四月沙門玄光銘焉。

秀恕按、此銘載護法集、而序文不ニ同者詳略異也。然至ニ今文及集中曰一逢ニ丁酉舞馬變一者不ニ能一無ニ疑。丁酉者明曆三年也。此災實無ニ罹吾山一、而云ニ爾者何也一。蓋此時災將ニ延及一山。故山民相聚預計ニ拋地一者也、不ニ言ニ山罹一災也。

鎭山祠在ニ北山一。在昔文明中開山祖雲岡兆ニ貝塚一爲ニ稻荷神座一、並兆ニ於天照皇宮熊野權現山王權現一。慶長庚子伊天因ニ故兆遷一此、東照神君尊崇同社、卽萬年最高之處也。俗曰ニ白狐巖一。稻荷之神使卽白狐也。

列祖堂在ニ殿之後一東向。享保壬子災。至ニ元文庚申廿二世秀國建。文政戊寅災。資福堂龕。卽位牌。三十四世大峰建。中安ニ安養三尊一。長各二尺立像。左右置諸檀那牌。

永平祖師像。長二尺二寸。

開山像。長二尺一寸。

道灌居士像。長一尺三寸。

衆寮。

本尊、阿彌陀如來。座像。長一尺一寸。

山門在殿前。自衆寮及齊堂架雨廡。

大門對山門東向。寛文戊申秀的建。題額萬年山。闍鼓山爲霖禪師筆也。

江湖寮。學寮十一軒也。十有一在山門前而並列。壬子災。衆僧立。

藏經堂在南嶺。寛文元年主僧愚門建。勸學軒法名了翁置經。榜曰法寶藏愚門書。

——愛宕下寺社書上

萬年山青松寺。曹洞派の禪刹にして、江戸三箇寺の一員たり。○中略。初は貝塚の地なりしを、後或云天正、又慶長共。此地に遷さる。故に今も俗に貝塚青松寺と稱せり。○下略。

當寺の後の山を含海山と號く。眺望愛宕山と等しく、美景の地なり。惣門の額萬年山の三大字は闍沙門道霈の筆なり。

——江戸名所圖會

青松寺。萬年山ト號ス。曹洞宗。入間郡越生龍穩寺末。文明八年麹町貝塚ニ草創シ、慶長五年此地○愛宕町一丁目ニ移レリ。開基太田道灌。開山舜德。寺地一萬七千六百八十九坪。本堂十一間ニ七間半。支院四宇、考壽院、傳叟院、吟窓院、清岸院ト云。

——東京府志料

萬年山青松寺。

芝區愛宕町壹丁目ニアリ。域内千四百貳拾四坪。曹洞宗。文明八年丙申太田資長之ヲ麹町貝塚今平河町ノ邊。ニ創建シ、○中略。大永四年甲申兵燹ニ罹リ、天文中僧德陽之ヲ重建シ、天正十九年辛卯十一月德川氏寺領廿貳石ヲ付ス。慶長五年庚子僧伊天今ノ地ニ移ス。伊天號頑空、遠江江木原人、鈴木氏。文祿中ヨリ本寺ニ住ス。伊天普光禪師ノ號ヲ賜ヒ、同年七月朔日寂ス。年七十八。本寺後背ノ山ヲ含海山ト稱ス。總門萬年山ノ額ハ闍僧道霈書スル所ナリ。

——東京通志

青松寺。町○愛宕町一丁目。ノ東南ニ在リ。寺地東西二町。南北二町六間、面積一萬五百四十坪。禪宗、曹洞派。入間郡越生龍穩寺末派。文明八年丙申麹町貝塚ニ創建。慶長五年庚子此地○愛宕町一丁目。ニ移ル。太田持資開基。僧舜德開山。後背ノ丘ヲ含海山ト稱ス。子院四宇、考壽院、傳叟院、吟窓院、清岸院。

——東京府誌

青松寺は愛宕町一町目二十七番地に在り。曹洞宗の巨利にして、龍穩寺末。萬年山と號せり。愛宕山の續き、切通坂を以て三緣山增上寺と境界を分ち、麓を流るゝ櫻川は門前の溝となる。此に石矼を架す。山門は瓦葺素木造、萬年山と扁す。闍沙門道霈の筆なり。墻塀を繞らし、瓦紋皆山號を現ず。門外右に馬厩あり、左に山門禁葷酒の石標儼然、落々たる長松、滴翠人衣を染む。襟を正し、山門内に歩を移さむか、清陰甃石の上に散落し、淨うして寸塵なし。左墓門に通し、正面中門を仰ぐ。又瓦葺素木造、格天井を組み、飛龍唐獅子を彫鏤す。青松禪寺の額同是道霈の書、康熙辛酉孟冬上浣とあり。古香人を吹き自から靈地たることを感得せしめぬ。中門内老松に交ゆるに垂櫻兩三點、以て本堂に達す。堂は南に面し、瓦葺の大伽藍、懸魚に鳳凰、欄間に牡丹唐獅子、紅梁の木鼻に象頭雲龍又は唐獅子の彫あり。堂内格天井、高麗緣の疊、左側に鐘鼓を懸け、中央内陣に面して銅鉢と木魚を置き、天蓋を釣り、羅漢畫

像十六幅を披展し、黑地に金龍の刺繍ある法幔、赤地に龍膽六曜星桐の紋章を白くぬきたる佛座の前巾、銀瓶金蓮、寶燭靈光を放ち、香爐の煙散じて四山の雲を包むか、讀經法話、幽遠松籟に和して、禪刹の莊嚴なるを冥契せしむ。

當山の由緒や區々にて、文明年間の草創たると、其以前貝塚にありたりとの外は、解決せられざるべし。されば當寺の舊書類古文に據りて、事由と沿革を略敍するより、他に其途なからむとす。

寺傳に云、青松寺は文明八丙申年太田道灌開山雲崗和尚を請せむか爲に創立せし者なり。其地を貝塚と云。現今麹町區平河天神の南に坂あり。貝塚と名く。乃其所也。○中略。七代の住持俊騫は學德兼備の故を以て、德川家康公特に崇信優待せられ、天正辛卯年朱印地二十二石を寄附、慶長五庚子年城堞を擴張せらるゝに當り、多良左近大夫をして、八代の住持伊天に告げ、寺を城南に移轉せしむ。米五百斛役夫若干を寄附、木原氏奉行たり。嘗て家康當寺に臨み、伊天の說法を聽て大に悅服せられ、是より後は每月先考の忌日に伊天を迎へて、城中に於て法を聽き、供養せらる。終に闕に奏して紫衣及普光禪師の徽號を賜ふ。寬永六年火災に罹る。前住持春道再建す。十代の住持牛道は、後光明帝の歸崇あり。慶安四年牛道に詔して、禁廷に於て說法せしめ、錦綺の袈裟及び暉山吐光禪師の徽號を賜ふ。又寬文八年癸申二月火災に遇ふ。十三代の住持秀的の時、地を改築して更に建立せり。其後數回の罹災ありしと雖も、其年代未詳。現今存在の伽藍は文久二年六月上梁せし者なり。

本尊、釋迦如來。

脇立、文殊、普賢、阿難、迦葉。

本堂、間口十一間、奥行八間。　文久二年六月造立。

庫裡、間口十二間、奥行八間半。　造立年月未詳。

書院、間口九間半、奥行八間半。　同。

奥座敷、間口八間半、奥行六間半。　同。

土藏。間口二間半、奥行三間半。　明治二十四年五月造立。

境内地。千四百二十四坪餘。

寶物。

涅槃像。極彩色紙地裱裝掛物權盛貞筆。　一幅。

十六羅漢像。彩畫絹地絹裱裝掛物文平筆。　十六幅。

屏風。金地紙六枚折龍虎墨畫鳳居筆。　一双。

半屏風。表裏金地紙八枚折花鳥彩畫狩野柳雪筆

人物花鳥彩色畫。絹地裱裝牧溪の筆。　三幅對。

青松寺三十七代の住持禪翁嘉永年間の寄附なり。

人物松竹梅彩色畫。絹地裱裝狩野探信の筆。　三幅對。

青松寺三十五代の時檀家林櫟叟の寄附なり。

墓所は、中門外、其左に在り。墓參の外無用の者入るべからずの制札を墓門に樹てたり。構内長州侯藝州侯をはじめ衆華族の墓地多く、檜木造の門石の玉垣を繞らしたるがあり。石磴を疊み、墓道後丘に通

す。馬蠶の封累々たり。此丘を含海山と呼ぶとぞ。○中略。望海毎談に云、當所の儀は道灌江戸在城の時分、飯倉砦とよびて、軍兵を入れ置し所なり。○此文既出、中略。此山初は正中に道有、道より西北の方牧野屋敷と成し道共に東の方青松寺の境内なり、今以て寺の山へ登りみれば、林の間に其道有と云々、道灌の砦の時は長臣太田□□預り守りしと云。」道灌か城砦を築きたるは番神山、即今の城山寺葺手町の邊なるべし。されど此地も其區劃内にてありしや、そは知るべからず。牧野家の屋敷は當時給水工場の敷地となりぬ。

——新撰東京名所圖會

塔頭、清岸院。考○江戸志孝トス。壽院。傳叟院。吟窓院。忠岸院。

——再校江戸砂子、江戸志

支院。地中五ヶ院也。

一、吟窓院。慶長五庚子年當寺八世伊天建。

示寂者慶長五庚子年七月朔日。

本堂、奥行四間三尺、桁行六間三尺。

本尊、釋迦如來。坐像。丈壹尺貳寸、臺座壹尺八寸。

一、清岸院。慶長六辛丑年、當寺九世麟曹建。

示寂者元和九癸亥年十一月八日。

本堂、奥行五間、桁行六間。

本尊、釋迦如來。坐像、丈壹尺壹寸、臺座壹尺八寸。

脇立、文殊菩薩、普賢菩薩。坐像、丈各六寸、臺座壹尺。

一、忠岸院。寛永十九壬午年、當寺十世牛道建。

示寂者明暦元乙未年十一月十三日。

本堂、奥行五間、桁行六間。

本尊、藥師如來。座像、丈七寸五分、臺座壹尺壹寸。

一、傳叟院。正保貳乙酉年、當寺十一世補道建。

示寂者正保三丙戌年三月十一日。

本堂、奥行五間半、桁行六間半。

本尊、釋迦如來、座像、丈壹尺、臺座貳尺。

一、考壽院。慶安貳乙丑年、當寺十二世薫道建。

示寂者明暦二丙申年九月五日。

本堂、奥行五間、桁行六間。

本尊、釋迦如來、座像壹尺壹寸。臺座壹尺七寸五分。

觀音堂。奥行貳間貳尺五寸、桁行貳間。

本尊千手觀世音菩薩。閻浮檀金立像。丈壹寸八分。蓮花座臺座共五寸。尤宮殿〻中に安置。作不知。

右大將頼朝公御守本尊と申傳。略縁起有。西方札所第貳番也。

前立正觀世音菩薩。立像。丈壹尺。臺座三寸。厨子入。作不知。

辨財天ミ像一面。眷屬共竪七寸五分、横八寸、臺座三寸。厨子入。弘法大師於ニ江島護摩壹萬座ニ灰を以作リ之と申傳。尤裏に大師左手ニ形銘有。文字不ニ分明一。

前立ニ辨財天。木坐像。丈壹尺貳寸、臺座七寸。厨子入。作不ニ知。　——愛宕下寺社書上

塔頭の中吟窓院は荒廢に歸し、左の三院を存す。○忠岸院ノコト見エズ。

考壽院。愛宕町一丁目十八番地。

傳叟院。同　二十番地。

清岸院。同　二十二番地。

門前家持拾人者開山ニ家來に而、文明年中ゟ境内ニ差置ハ處、其後天正十九年御朱印拜領仕ハ砌ゟ、右寺領百姓に致置ハ。慶長年中當所ハ引移ハ節と、櫻川通りニ住居爲ニ致ハ處、寛文年中炎燒後只今ニ地所ハ住居爲ニ致、則御朱印百姓居屋舗ニ御座ハ。　——愛宕下寺社書上

茅野天神勸請

茅野天神松林院事蹟

芝公園　○舊增上寺内。ノ茅野天滿宮ハ慶長五年庚子○紀元二六〇年。舊松林院ノ僧守公○嚴譽。ノ勸請トイフ。○再校江戸砂子。江戸志。三緣山志。遊歷雜記。江戸名所圖會。新撰東京名所圖會。

茅野天神、松林院

茅野天神。

茅野天神。

松林院。

——再校江戸砂子

芝增上寺境内。

此所を天神谷と云。

茅野天滿天神社。

慶長五年六月廿四日住持嚴譽守公夢に童子來て告曰、是より南の松樹の下に天滿宮鎭座し給ふ、拜請して恭敬をへしと。則守公夢さめて松の本に光明を尋求めて、御長三寸三分の木像を得て、傍に安置し、則六月廿五日當社の御祭となし奉りぬ。　——江戸志

茅野天滿宮。　林松院地中。

略　緣　起

——江戸惣鹿子

增上寺中松林院○林松院。

抑當社天滿宮の來由を尋奉るに、忝くも聖廟御子右大辨高視卿の御眞作なり。往時聖廟左大臣時平公の爲ゟ無實の罪ゟふし、右大臣を貶せられ、大宰帥に遷され、心つくしに趣給ひし時、御子息何れも諸國に分離或ハ遠國に吟迷、或ハ鄙境に隱棲し給ひし時、高視卿は父公御戀情の餘り○中略。自造像なし、水火にこゝろみ給ふにかつてつゝがなくおはせしかば、是末代の靈躰なりとて、子息數多の中山城守雅規卿ゟ授け給へり。其後雅規御孫孝標朝臣常陸介ゟ任し下向の時、武藏國追捕使秩父權守重綱ゟ女ゟ嫁し一子を生。其子を津戸爲廣と云。外祖父重綱か撫育を蒙りて譜代の讓りをつき武勇の道を傳ふ。其三男津戸三郎爲守は右大將家○頼朝卿。ゟ屬從し、御覺も他ゟ異ゟて榮耀時をえたりしかと、宿善や內ゟ催しけん、元祖吉水大師ゟ歸敬し西天の素願をとげしより、家運大ゟ振ひ永正十年ゟ至れり。其中間十代餘、皆いつれも此像を崇敬他ゟ異ゟして、居城の鎭守と仰きしとなむ。然るに年行星移り、天文天正の頃に至りては、名家多く亡ひて物新ゟ改りける。そのとろ關東は北條六ケ國。里見二ケ國。の麾下なら

さるはなかりけり。津戸氏の子孫も數家に分れける中、嫡家中地周防守は武藏國世田ケ谷領主吉良左兵衛督に屬しけるに、吉良氏は北條家の聟なりしかは、北條氏亡ひて後は、吉良氏は上總國寺崎に蟄居し、從類みな村家に隱れしにそ、此像を所持するにちからなしとて、慶長二酉年四月の末江戸に至らんと此地ゑ至りける時、俄ゑ磐石のことく覺、再ひ持行へき力なかりしかは、野ゑ茅原しげみたる中ようつみ隱し置、あすなん持行んと町家に（此時いまだ當山は貝塚にあり。今の地は飯倉村下高輪村目比谷村のなかにて、武藏野のはてなれは茅原すゝきしけりけり。茅野の號是よりはしまる。出神祖）（天正十八年御入國まし〳〵けれと此頃はいまだ繁華ならす。）宿をとひける。茲ゑ其比守公法師といへるは、德をつゝみ行をはけみ、一宇の草堂を結ひ、林松庵と名つけ、思ひを安養の寶刹にはこび、念を彌陀の三尊にかけられしに、不思議や此夜夢中にひんとらゆふたる青衣の童子忽然と顯れ、我ハ是聖廟ミ御使なり。汝か結ふ蓮社の内ゑ我を崇め祠をたて祭らは、結緣のものゝ所願を圓滿せしめんとの神勅なりととてうせけるとそ。やかて翌朝戸外を見渡しけるに、老松の枝のかけゑ聖像嚴然と影向まし〳〵けれは、渴仰肝に銘し、やかて衣の袖ようつし奉り、庵のうちゑ安置し奉りける。（後當山貝塚より御引移の時地中と成。まかりしより以來參詣拜禮のもの利益を蒙らをといふ事なし。己下略之。）

林松院。　山下谷。

開祖守公の由緒は、天滿宮緣由の所ゑ出。或云、見悅は大坂の產、速水甲斐守か臣渡邊次太夫か子なり。二歳の時浪速落城ゑ及ひしかは、母ひそかゑ遁れ、薄田隼人正か家士箸尾十兵衛か妻とともに、洛北に て尼となりて佛門に入り、一子七歳の時大原の道場に入れ出家を求め、永く名利をすてゝ西方の淨土をこひ、主家一類の追福を修せしむ。見悅後に江戸ゑ下向し、當院ゑ住するのゝち、千躰の佛像をつくりてそれが菩提をいのられしとなむ。

宿　坊

酒井若狹守　阿部播摩守　松平壹岐守
永井伊賀守　小笠原信濃守　渡邊大學頭

世　系

守公（莊蓮社嚴譽。萬治四ノ四月十九日。）
- 見隨（正端、。享保十五ノ十一月十六日。）
- 覺心（弘宣、。文化十ノ三月廿五日。）
- 圓中（誓、、弘、。）
- 見悅（三、、寶、。延寶九ノ七月三日。）
- 見茂（白、、溝、。享保十五ノ十月十六日。）
- 泰吟（還、、迎、。威德院六世。）
- 要山（演、、暢、。寬政元ノ九月廿五日。）
- 隆長（延、、齡、。）
- 念敬（性、、卽、。文化十三ノ八月九日。）

——三緣山志

茅野天滿宮。同所（天神谷。）南の方松林院ゑあり。神像は菅神の眞作とそ。

——江戸名所圖會

增上寺赤羽根口の裏門を入、右へそひて行事凡四五町ゑして、中路の門に萱野天滿宮といふあり。社大さ僅々三間半。萱野の社といへる三字の横額を掛たり。是むかし當寺いまだ公の香火地にならざる以前より、此神爰に鎭座せしを、境内の中へ圍ひ込しものとそ、蓋京都に北野の社平野の社などあるがゆへに、それらへ對して爰に萱野の社と稱したるにや。

——遊歷雜記

林松院。もと山下谷に在り。今はなし。

茅野天滿宮。同上。○猪護稻荷と合祀す。

——新撰東京名所圖會

重願寺（淨土）草創

慶長五年庚子○紀元二二六〇年。不虛尼○千葉氏。僧是哲ヲ開山トシテ、重願寺ヲ傳馬町或ハ馬喰町。ニ草創ス。一說ニハ天正十八年庚寅○紀元二二五〇年。ノ起立トシ、或ハ寛永十六年己卯ノ創建トス。後世猿江ニ移ル。○江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。葛西志。猿江寺社書上。續府內備考。東京府志料。東京府村誌。新撰東京名所圖會。

重願寺事蹟

重願寺

不虛山當智院重願寺。

開山願譽上人是哲和尙。

不虛山當智院重願寺。

開山願譽上人是哲和尙。

寛永十六年己卯起立。

重願寺。境內除地千四百十一坪。妙壽寺の西に隣れり。淨土宗。京都智恩院末。不空山當智院と號す。千葉家の庶流河野某の開基にして、開山本蓮社願譽上人是哲和尙草創の地なり。始は傳馬町にあり。後深川六間堀へ轉じ、再當所へ移されしと云。願譽は寛文元年十二月七日示寂せり。本尊寶冠彌陀如來、長三尺餘。安阿彌作と云傳ふ。客殿に安置せ。

鐘樓。客殿の東にあり。寶永二年鑄造の鐘にて、銘文考證の由なければ略せ。

さる江。

——江戸惣鹿子、江戸砂子

猿江。

——江戸志

地藏堂。鐘樓の北にあり。江戸東方札所四十五番、願所地藏尊と稱せり。

門。北向。

山域國京都惣本山知恩院末。武州葛飾郡南本所

——葛西志

淨土宗　不虛山當知院重願寺

一、境內拜領地千四百餘坪。

開闢起立不分明。享保年中。其後寛政二戊年正月廿二日、右兩度類燒ニ節古記燒失ニ付、申傳ヘ、元馬喰町ニ草創有之、其後新大橋より一ツ目ニ間に替地ニ相成、其後御船藏御用ニ付當地ヘ替地被仰付ハ由。再度共替地ニ義中興近譽上人代ト申傳ハ得共、年月相知不申ハ。

一、開山本蓮社願譽上人是哲和尙。

下總國人、椎名氏剃髮、同國光泉寺嗣法、增上寺中興普光國師、椎名ニ姓ハ千葉家ニ末葉ニ由申傳ヘ。

寛文元丑年十二月七日示寂。

一、中興緣蓮社近譽上人玄珂和尙。

開山同國同姓ト申傳ヘ。貞享元子年十月朔日示寂。

——猿江寺社書上

本堂。間口七間、奥行九間半。　向拜。三間。

寛政七年ニ棟札有之。

本尊寶冠阿彌陀如來、木座像。長三尺三寸。安阿彌正作。

兩脇、御尊牌安置。

右本尊ハ小松川仲臺院ニ有之ハ處、由緒有之當寺五代目眞譽上人代讓受申ハ由、申傳ハ。
善導大師。圓光大師。
內佛本尊齒吹阿彌陀如來、木立像。長二尺餘。惠心僧都作。
重願寺ヘ額字。增上寺五十六世重譽在禪大僧正筆。
佛衆法界三寶藏ヘ額字。增上寺四十五世妙譽定月大僧正筆。
寺寶。
一、圓光大師足曳ヘ御影寫。　一幅。
あし曳の御影と申奉るは、九條殿下兼實公御歸依のあまりに眞影を寫さんと仰有しに、固辭し給へハ、ある時御殿より上人沐浴し給ひて、兩足を伸て息ひ給へり。卽宅間法眼を召て翠簾を隔てひそかに寫さしむ。上人是を見給ひて大ゐ驚き、像に對して祈求し給へハ、兩脚たちまちに屈し給ふとなむ。今嵯峨二尊院ゟ納る。右眞影の寫筆ハしらず。增上寺熏譽大僧正所持ヘ處。隱居後當寺へ寄附有之ハ。
一、圓光大師眞筆名號。　一幅。
右ハ熊谷直實敦盛を打捕り給ひし時の母衣を源空上人かたへ持行、菩提のため名號をねゐひけれは、右の母衣を十に裂き、名號十幅書給ふ、其一幅なり。由緒有之當寺に傳來ヘ。
鐘樓堂。二間四方。
大鐘。差渡二尺八寸。

願譽上人
名號　近譽上人　爲奉加信心檀越二世安樂
本譽上人
寶永二酉年十月十日
當寺四世　辨　譽　上　人代
鎭守神明社。
神體木像。長五寸餘。
稻荷社。
神體木像。長五寸餘。
地藏堂。土藏造、二間四方。
見歸地藏尊、木立像。長三尺餘。
右ハ六代目綱譽傳達代大和國郡山より傳來ヘ由、申傳ハ。
銅地藏尊。長三尺餘。
右ハ當寺六代目綱譽傳達說法一萬座供養ニ造立。　——續府內備考
寶篋印塔。高一丈四尺餘。
重願寺。不虛山ト號ス。淨土宗。京都知恩院末。開山ヲ是哲ト云。初馬喰町ニ起立セリ。後此地ヘ移サル。寺地千三百五十坪。　——東京府志料
重願寺。町○猿江町。ノ中央ニ在リ。寺地東西一町三間、南北三十二間三尺、面積一千四百六十四坪。淨土宗。

鎭西派。京都知恩院ノ末派ナリ。天正十八年庚寅僧是哲開山、千葉重胤女不虛禪尼開基ス。此寺初ハ傳馬町ニ在リシカ、後深川町ニ移リ、元祿年間又今ノ地ニ轉ス。

葛西志ニ、此寺初ハ傳馬町ニ草創シ、後深川六間堀ニ移リ、其ヨリ又今ノ地ニ轉ス、開基ハ千葉家ノ庶流河野某ト載タリ。江戸圖說ニ、當寺起立ノ年代ハ寛永十六年己卯トス。又東京府志料ニ、初ハ馬喰町ニ起立シ、後此地ニ移ルト。以上三說異同アリ。一定セズ。今姑ク本町書上ニ據ル。

——東京府村誌

重願寺は猿江町四十五番地に在り。不虛山と號し、當知院と稱す。淨土宗にして、京都知恩院の末なり。慶長五年庚子十二月千葉邦胤（一に重胤に作る）の女當知院殿誓譽不虛大禪尼の開基にして、本蓮社願譽上人是哲大和尙之が開山たり。

德川家康公の江戸府に入るや、千葉家の子孫を索む。一女を得たり。因て其請に應して當寺を開かしめ、同宗の末葉なる椎名三郎重願の弟たる願譽上人をして住持たらしめたりといふ。葛西志には千葉家の庶流河野某の開基とあり。又新編江戸志には其創立を寛永十六年己卯とし、東京案內には天正十八年とす。今寺記に從ふ。文政戊子の錄上書には、享保年中及び寛政二戊年正月二十二日兩度類燒ミ節舊記燒失仕、起立ミ年代等相知不申ゐとあり。故に其說區々に涉り居るものと見ゆ。

初馬喰町舊郡代屋敷の邊に在りしが、後に新大橋と一ツ目の間に移り、その處復幕府船藏の公用地となりしを以て、此ゐ代地を給與せられたり。

境內坪數八百餘坪、附屬墓地六百餘坪あり。本堂は間口八間三尺奥行九間にて、庫裏書院土藏等完備し

麻布湖雲寺（禪）草創

湖雲寺事蹟

一時優に千人の參詣者を容るゝに足る。

本尊は寶冠阿彌陀如來木座像、長三尺三寸。安阿彌の作。內佛本尊齒吹阿彌陀如來木立像。長二尺餘。惠心僧都の作。並に宗祖圓光大師の靈像を安置す。

毎月二十四日ゐは別時念佛を施行し說教を爲すを例とす。

境內地藏堂あり。回願地藏尊を鎭置す。當寺第六世綱譽傳達和尙の時大和國郡山より傳來せしものなりといふ。

表門不虛山の類には定月書とあり。增上寺第四十五世妙譽上人の揮毫に係る。本堂重願寺の額は芝山大僧正在禪と署す。卽增上寺第五十六世重譽上人の筆なり。

——新撰東京名所圖會

同年（○慶長五年庚子、紀元二二六〇年。）服部保政（○中平。）先考保次ノ爲ニ、禪僧麟曹（○一峯。）ヲ開山トシテ、湖雲寺ヲ四ツ谷仲殿町ニ創建ス。元祿八年乙亥（○紀元二三五五年。）燒亡シテ、麻布谷町（○現今今井町。）ニ移ル。（○再校江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。麻布寺社書上。續府內備考。東京府志料。東京府誌。）

湖雲寺

昌永山湖雲寺。　同。（○禪宗。）　青松末。

開山。　（○江戸紀聞、三千三百十八坪トアル外ハ、同文。）　青松寺末。　同。（○あさふ本村。）

關東首都時代　市兵衞町。　——再校江戸砂子

昌永山光雲寺。　——江戸志、江戸紀聞

貝塚青松寺末。麻布谷町。禪。曹洞宗。
祥永山　湖雲寺。

一、境内拜領地、坪數三千二百拾八坪者舊地四ツ谷仲殿町ニ御座ハ處、元祿八乙亥年二月八日境内不殘類燒仕ハ節、御用地ニ被召上、爲代地麻布谷町内藤勝之助殿上り屋敷之内、元坪數之通三千三百拾八坪拜領被仰付、其節之寺社御奉行所永井伊賀守樣御勤役之節、御掛りニる、坪數如元、門前町家等ニ至迄、以前之通被仰付、同年四月當所ハ引移申ハ。尤舊地拜領之年月相知不申ハ。

一、御預地。

右坪數七十六坪。但寺境南ノ方畠山中務太輔殿屋敷地後ニる、片下りヶ處ニ御座ハ。右境内拜領被仰付ハ節、割餘ニる御預ニ相成申ハ。

一、開闢起立。

右之慶長五庚子年於四ツ谷中殿町服部中平殿拜領屋敷之内ニる御座ハヲ寺地ニ被致度段、御公儀ハ御願被成ハ處、願之通被仰付ハニ付、則一宇建立被致、延ニ本寺貝塚青松寺九世和尚爲開山。尤開闢以來九十六ケ年間四ツ谷中殿町ニ罷在、夫る當處ハ引移、百二十餘年、前後合る當年迄貳百二十八年ニ相成申ハ。

一、開山。

右開山木像長ケ壹尺七寸、本寺貝塚青松寺九世一峯麟曹和尚ニ御座ハ。武州江戸之産。藤原姓也。元和八癸亥年十一月八日示寂。遺偈云、漚生漚滅、五十七年、打飜藏海、雪月一天。擲筆而逝。世壽五十七。

一、開基。

右之服部中平保政爲先考祥永院殿湖雲淨鑑大居士建立。右淨鑑居士、俗名服部中平保次、伊賀之産。天

正十五丁亥年六月十八日於遠江卒。

一、門前町屋。

右當寺門前之義之慶長五庚子年舊地四ツ谷中殿町ニ罷在ハ節る有來之由。其後御用地ニ被召上、元祿八乙亥年四月當所へ替地被仰付、其節寺社御奉行永井伊賀守樣御勤役中、御掛ニる被仰付ハ由申傳ハ。其後延享二乙丑年る町方御支配ニ相成申ハ。則境内門前町貸地共惣坪數三千三百十八坪、右之内貸地之分坪數八百六坪ニ御座ハ。

本堂。間口七間、奥行三間。

本尊、釋迦如來。

脇立、迦葉尊者、阿難尊者、各木立像、

大現修理菩薩、　達磨大師、　道元禪師、　地藏菩薩　木立像、長六寸五分、弘法大師作。

寛政二庚戌年大岡出雲守室寄附。

十一面觀世音。木立像、長六寸五分。行基菩薩作。

不動明王。木立像、長壹寸七分。朗辨僧都作。

薬師堂。

薬師如來。木坐像、長六寸壹分程。春日作。

脇立、日光佛、月光佛。各木立像、五寸、春日作ト申傳候。

右秘佛ニ御座ハ。尤當寺地拜領之以前より有之ハ故、建立之年月相知不申ハ。今境内鎮守といたし

——麻布寺社書上

申い。但舊地ニ鎭守稻荷社御座ハ處、引移ハ節、其儘舊地ニ差置申ハ。

——續府內備考

湖雲寺。祥永山ト號ス。曹洞宗。芝愛宕町青松寺末。慶長五年四谷仲町ニ草創シ、元祿八年此地ニ移レリ。開山本寺第九世麟曹。寺地三千三百十八坪。

——東京府志料

湖雲寺。町（○今井町。）ノ中央ニ在リ。寺地東西三十二間、南北一町八間、面積千五百十五坪。禪宗、曹洞派。芝青松寺末派。慶長五年庚子四谷ニ創建。元祿八年乙亥麻布谷町ニ移リ、何クモナク此地（○今井町。）ニ移ル。服部保政開基。僧一峯開山。

——東京府誌

永昌寺（禪）草創

同年（○慶長五年庚子、紀元二二六〇年。）禪僧舜洞（○明岩。）永昌寺ヲ四谷（○鹽町二丁目。今愛宕町。）ニ草創ス。（○江戸志。江戸紀聞。四谷寺社書上。續府內備考。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。）

永昌寺事蹟

永昌寺

天長山永昌寺。　禪。　龍昌寺末。　同所。（○北寺町。○眞福寺トナリ。）

開山舜洞大和尙。

四谷鹽町三丁目、湖雲山龍昌寺末。同處同町二丁目。禪。曹洞宗。

——江戸志、江戸紀聞

天長山永昌寺

一、境內拜領地。（間口二十三間、奥行二十間。）

此坪數七百六十二坪餘。

一、開闢起立之義ハ慶長五子年中御座ハ由、申傳ハ。

一、開山、明岩舜洞大和尙。（寛永十二乙亥年王七月十九日。）

右生國俗姓相知不申ハ、本寺五世之僧御座ハ

——四谷寺社書上

本堂。（間口六間半、奥行六間。）

本尊、釋迦牟尼如來。（丈一尺五寸。木坐像。）

大現尊者。（木坐像、丈九寸。）　達磨大師。（木坐像、丈九寸。）

地藏菩薩。（木坐像、丈一尺七寸。）　阿彌陀如來。（木立像、丈六寸。）

釋迦如來。（木立像、丈六尺。）　如意輪觀世音。（木坐像、丈四寸。）

正觀世音。（木立像、丈一尺二寸。）

殿鐘。（丈一尺八寸、口一尺三寸。）

右元文元丙辰年七月吉日西村泉作、現住六世梅榮斧山代。

清高禪林額字。（竪二尺、横一尺。向拜ニ掛有ル之。）　前象德覺城筆。

三長山額字。（竪一尺八寸、横一尺。表門ニ掛有ル之。）　前大乘愚禪書。

鎭守稻荷社。（間口三尺、奥行四尺。）

神體幣束。

石寶篋印塔。（高サ九尺。）

右之寶曆十二年年仲夏造立仕ハ。

永昌寺。天長山ト號ス。曹洞宗。龍昌寺末。慶長五年起立。開山舜洞。寺地四百六十二坪。

——續府內備考

永昌寺。寺地東西二十三間、南北二十二間三尺、面積五百十七坪五合。禪宗、曹洞派。鹽町三丁目龍昌寺末派。慶長五年ノ創建ト云フ。僧舜洞開山。

——東京府志料

永昌寺は同町（愛住町。）八十三番地に在り。天長山と號す。その扁額も前大乘八十八翁愚禪と題せり。曹洞宗にて、開山も舜洞大和尚なり。

——東京府誌

同年（○慶長五年庚子、紀元二二六〇年。）淨土僧能脫（○念譽。）大泉寺ヲ小石川ニ創建セシニ、慶安五年壬辰（○承應元年、紀元二三一二年。）其地水戸邸地トナリシタメ、傳通院前ニ移リ、萬治元年戊戌再ビ關口（○小石川區關口駒井町。）ニ移ル。（○再校江戸砂子。江戸紀聞。關口寺社書上。續府内備考。東京府志料。東京府村誌。新撰東京名所圖會。）

——新撰東京名所圖會

大泉寺（淨土）草創

大泉寺事蹟

大泉寺

寶國山大泉寺。

同。（○增上寺末。）

關口。

寶國山大泉寺。

淨土。增上寺末。

千七百六十四坪。關口。

——再校江戸砂子

開山、

慶長五年庚子起立。

——江戸紀聞

古跡拜領地四拾貳間四方、千七百六拾四坪。表間口貳拾貳間、裏行七間、古門前町並家作所持仕ゐ。

淨土宗。芝增上寺末。關口寶國山寶林院大泉寺

起立、慶長五庚子年より享保十乙巳年迄百貳十六年。以前ゟ相知不申ゐ。

開山、一蓮社念譽上人專稱能脫和尚。姓氏ゟ相知不申。生國武州小石川。剃髮ゟ師同所光圓寺四世重譽上人。修學小石川傳通院。遷化ゟ地小石川傳通院前ニ有、寛永二十癸未十月十二日示寂。

慶長五年拜領地、境内表四十貳間、裏行四十貳間、坪數千七百六十四坪。

右元小石川水戸樣御屋敷ゟ場處ニ有之ゐ。慶安五壬辰年右ゟ地所水戸樣御拜領被成ゐニ付、同所小石川傳通院前ニ有、右ゟ地坪四拾貳間四方御替地拜領、則水戸樣ゟ客殿御建立有之、萬治元戊年右ゟ場所火消屋敷御造作被成ゐニ付、御用地差上、目白關口村ニ有御替地拜領仕、其節從御公儀爲御引料銀拾貫目拜領、其上自ニ水戸樣も十貫目拜領仕ゐ。其節御役人中、

御老中、　酒井雅樂頭殿

寺社御奉行、　松平伊豆守殿　井上河内守殿　阿部豐後守殿　稲葉美濃守殿　松平出雲守殿

加賀爪甲斐守殿　北見五郎左衞門殿　永井彌右衞門殿

地割奉行、　常盤半左衞門殿　桑山伊兵衞殿

本門庄三郎殿

喚鐘。

享保四乙亥年十月吉　寶國山大泉寺五世　通譽卽道代

武州江戸神田御鑄物師　小沼播摩守作

寄進施主　河合氏　新見氏

増上寺末。關口。
寶國山寶林院大泉寺。境内古跡拜領地。千七百六十四坪。内門前町家有之。○中略。　長田氏
客殿。
本尊、阿彌陀如來。慈覺大師作。丈三尺。木佛立像。　片岡氏
鎮守社。神體、熊野三社權現木立像。惠心僧都作。長ケ六寸ツヽ。　—關口寺社書上
大泉寺。寶國山ト號ス。淨土宗。芝增上寺末。開山能悅。寺地千七百六十坪。　—續府内備考
大泉寺。町○關口駒井町。東ニ在リ。寺地東西三十八間、南北四十五間、面積五百三十坪。淨土宗。芝增上寺末派。慶長五年庚子創建。僧能悅開基。　—東京府志料
大泉寺は關口駒井町十一番地にあり。寶國山と號す。淨土宗。增上寺末なり。墓地は十番地にあり。　—東京府村誌

正運寺（法花）創建

同年○慶長五年庚子、紀元二二六〇年。法華僧日運、正運寺ヲ谷中三崎ニ創建ス。○再校江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。江戸紀聞。谷中寺社書上。　—新撰東京名所圖會

續府内備考。東京府志料。新撰東京名所圖會。

正運寺事蹟

正運寺

立光山正運寺。　本國寺末。　永上跡。

開山日運上人。
三崎稻荷、當所の鎮守なり。
立光山正運寺。　同。○法花。　京本國寺末。　同所。○三崎。○妙法寺並ビ。　—江戸砂子、江戸惣鹿子
開山日運上人。　—江戸志
三崎稻荷社。當所鎮守。七面社安置。
今按に、日暮里の修往院の開山も日運上人なり。慶長六年遷化ととなれば、推して知るべし。　—江戸紀聞

一、境内拜領地五百坪。表間口拾八間貳尺。奥行廿八間。外割餘御預り地四拾八坪。
一、日蓮宗。本寺、京都大光山本國寺。
一、立光山正運寺。開闢慶長五年庚子
一、開山、壽量院日運。寛永二乙丑年六月十六日遷化。
拙寺儀往古ハ谷中東寺町ニ御座ゐ處、元祿年中當所ゐ引寺ニ相成趣申傳ゐ得共、慥なる記錄無御座ゐ。　—谷中寺社書上
以上。
京都大光山本國寺末。
立光山正運寺。境内拜領地五百坪。割餘御添地四十八坪。○中略。
開山壽量院日運。寛永二乙丑年六月十六日遷化。
客殿。五間。四間半。

谷中三崎町。

本尊、三寶祖師。

祖師日蓮像。丈七尺。日向作。

稲荷社。九尺四方。　神躰。木像五寸五分。

正運寺。立光山ト號ス。日蓮宗。京都本國寺末。慶長五年ノ創建ニテ、開山ヲ日運ト云。當寺ハ元谷中東寺町ニアリシカ、元祿年中今ノ地ニ移レリト云。寺地五百坪。

——東京府志料

正運寺は同町○三崎町。六十四番地に在り。立光山と號す。日蓮宗にして、京都本國寺末なり。開山は日運上人とす。

——新撰東京名所圖會

正洞院（禪）草創

同年○慶長五年庚子紀元二二六〇年。佐竹義宣ノ室、禪僧呑虎ヲ開山トシテ、正洞院ヲ坂本○下谷入谷町。ニ草創ス。或ハイフ、寺ハモト秋田ニ在リシヲ此地ニ移スト。○江戸砂子。江戸惣鹿子。江戸志。新編武藏風土記稿。江戸紀聞。東京府志料。新撰東京名所圖會。

正洞寺跡

正洞寺

廣澤山正洞寺。　水戸耕山寺末。

廣澤山正洞院。　禪宗。　坂本。

開山、天州呑虎大和尚。元和元年十一月廿七日寂。　——江戸砂子、江戸惣鹿子

本尊、釋迦。文珠、運慶作。普賢、行基作。　同。○坂本入谷。

——江戸志

正洞院。同宗。○禪宗、曹洞派。常陸國久慈郡澤山耕山寺末。廣澤山ト號ス。廣澤ハ此邊ノ古名ナレハ山號トセシコト知ラル。本尊釋迦ノ三尊ヲ安ス。共ニ運慶ノ作ト云。開山天州呑虎。元和元年五月廿七日寂ス。開基ハ佐竹右京太夫義宣室那須壹岐守政資ノ女ナリ。法名正洞院明室珠光尼、天正十九年四月卒スト。サレト佐竹家譜右京太夫義宣室常州館林城主多賀谷修理亮女ト見エ、那須家譜ニハ那須壹岐守政資子那須次郎資胤女佐竹義宣室ト見ユ。又家譜義宣ハ寛永十年正月廿五日卒スト記ス。寺傳義宣ノ室天正ニ卒ストヽ云ヒ、加之法諡尼ノ字ヲ加フルコト、皆年代齟齬スルニ似タリ。又當寺寛文八年ノ由緒書ヲ里正傳次郎ガ家ニ傳ヘリ。當寺ハ元出羽國秋田ニ於テ佐竹修理太夫建立、寺領百五十石ヲ寄附アリシニ、後故アリテ彼地ニ居コト能ハス、當村ニ來リ小庵ヲ結ヒ、同宗ノ林泉寺ノ地ヲ買得シテ別ニ正洞院トス。林泉寺モ元ハ同宗正覺寺トイヘル寺地ナリシト傳ヘリト記ス。コレニ據ハ當寺元ハ秋田ニ草創シ、後當所ニ來レルニテ、廣澤山ト稱スルハ、直ニ林泉寺ノ山號ヲ用ヒシナルヘシ。堂内ニ正觀音ヲ安ス。坂東二十八番ノ寫ニテ、元ハ境内ニ別堂アリシカ、安永年中燒失シテ、未再建ニ及ハス。

——新編武藏風土記稿

鐘樓。貞享二年八月鑄造ノ鐘ヲカク。

廣澤山正洞院。　八百二十七坪餘。　禪宗。水戸耕山寺末。　同處。○坂本。

開山天列呑虎大和尚。元和元年乙卯五月廿七日寂。本尊釋迦如來。文殊菩薩、運慶作。普賢菩薩、行基作。

今按ふ、當寺の山號を廣澤山といへるは、いまし〳〵此邊を廣澤といへるよし、北條分限帳に見ゆれば、かく山號とせしなるべし。

——江戸紀聞

正洞院。廣澤山ト號ス。曹洞宗。常陸國久慈郡澤山耕山寺末。開山呑虎。元和元年寂ス。開基ハ寺傳ニ佐竹右京太夫義宣室法名正洞院明室珠光尼トアレト、村農二葉家ニ傳ヘタル當寺寛文八年ノ由緒書ニハ、當寺ハ元出羽國秋田ニ於テ佐竹修理太夫建立後、故アリテ此村（坂本村。）ニ來リ、小庵ヲ結ヒ、同宗ナル林泉寺ノ地ヲ買得シテ正洞庵トストアリ。

——東京府志料

正洞院。字小野ニアリ。寺地東西三十六間、南北四十四間、面積九百六十坪。禪宗、曹洞派。常陸國久慈郡澤山村耕山寺末派。慶長六年辛丑佐竹義宣（右京太夫。）開基。僧呑龍（虎カ。）開山。元祿七年甲戌僧岸祝中興。

——東京府村誌

正洞院。百六番地（入谷町。）にあり。廣澤山と號す。曹洞宗。常陸國久慈郡澤山村耕山寺の末寺にして、慶長五年右京太夫佐竹義宣室法名正洞院の開基、僧呑虎の開山なり。元祿七年僧嶺祝中興す。本尊釋迦の三尊を安す。共に運慶の作なりと云。山號の廣澤は此邊の古名なり。

——新撰東京名所圖會

小向妙光寺（法華）

小向（川崎市小向。）ノ法華宗妙光寺ハ、田中某（和泉。）ノ開基ニテ、某ノ子日是開山タリ。某ハ慶長五年庚子（紀元二六〇年。）十一月ニ卒ストイヘバ、以テ略ソノ建立時代ヲ知ル可シ。（新編武藏風土記稿。）

妙光寺。村（小向村。）ノ南ニアリ。田中山ト號ス。日蓮宗。池上本門寺ノ末。開基ハ當村ノ里正源左衞門カ家祖田中和泉トイヘリ。慶長五年十一月三日卒ス。開山ハ妙光院日是ト云。俗姓ハ田中氏ニテ、則開基和泉カ第二子ナリ。寛永七年十一月十五日示寂。其後享保年中田中休愚右衞門喜古中興シテ、堂宇以下營造セリト。其人ノ事ハ下ニ出ス碑銘ニ見エタリ。

客殿六間ニ七間。本尊三寶祖師ヲ安ス。

三十番神堂。門ヲ入テ左ニアリ。二間ニ一間半。

田中喜古墓。客殿ノ右ニアリ。法名源心院速成日解。碑陰ノ銘ニ云、

享保己酉冬十二月壬午、故玉川埼玉等知縣田中氏卒。葬于川崎驛小向邑。田中氏諱丘隅、字喜古。以寛文壬寅三月十五日生武之八王子。蓋此先相人。世仕甲之信玄氏。信玄氏之亡也、遷于武。考窪島氏妣委它氏。生二子、昆曰祖道。季卽丘隅。小向田中無男。以女妻之。遂爲嗣。因冒田中氏。（下略。）

八幡宮。村ノ西北ニアリ。社ノ上ニ覆屋アリ。二間ニ三間半。勸請ノ年歷ハ傳ヘス。寛文七年ノ棟札モアレト、此時新ニ建立アリシトモ云傳ヘス。例祭ハ毎年九月十九日。千卷陀羅尼ヲ讀經ス。村内妙光寺持。

——新編武藏風土記稿

谷中善光寺（淨土）開創

モト谷中（善光寺坂附近。）ニ信濃ノ善光寺ノ宿寺アリ。創建ノ年代ハ、或ハ永祿元年戊午（紀元二一八年。）トシ、或ハ慶長六年辛巳（紀元二六一年。）トナシ、詳ナラズ。寶永二年乙酉（紀元二三六五年。）青山ニ移ル。（江戸名所記。慶長寛文問記。江戸咄。再校江戸砂子。江戸志。新編武藏風土記稿。山寺社書上。府内備考。江戸名所圖會。東京府志料。東京府村誌。新撰東京名所圖會。）

谷中善光寺事蹟

善光寺

谷中　善光寺。

當寺の本尊は秘佛ゑて開帳なし。兩わきには善導法然の繪像かゝり給ふ。比丘尼寺なり。しなのゝ國の關東首都時代

善光寺の如來は、佛在世の時ゟ月蓋長者がつくりし所、閻浮檀金の三尊、とをく日本にわたり給ひしを、欽明天皇の御宇に、尾輿連弓削守屋がわざとして難波堀江ゟしづめたてまつる。信州水内郡に本田の善光と云もの、官に駈れて都ゟのぼり、國にかへらんとする折から、堀江の岸をとをりて此本尊をひろひたてまつり、國にかへり家をうつして寺となし、わが名をもつて直に善光寺と名つけしとかや。今の谷中の善光寺は、いつれの時いかなるところに立られしとも、さたかに聞えかたし。門の内には西方に並木の櫻あり。善光寺は尼寺なりければ、

善光寺てらもちかひのしるきかな
なむあみた佛の聲をたつねて

——江戸名所記

寛永十七年谷中のわき善光寺ゟて三十三年ゟて御たうひらき、諸人参ゐ。御すかたと申三そんのみたのゑむんきにしてうり申ゐ。殊外うれ申ゐ。

——慶長寛文聞記

門の仁王ハ、いくとせふりけるゟや。手足もなくて、只朽木のことし。實とはきさみたるおもりけむかりすこし殘りたり。いつの頃ゟ、去大名の庭の景ゟせんとて、築山にもへおかれけれは、毎夜やなりし、震動おひたゝしかりければ、もとの如く寺へ返し置れけるとゝ。門の内並木の櫻有て、花の比まふてくる人ハ繪筵もうせんをしき敷島の道ゟ心をよせ、手まつさへきる盃の、めくる日影も西へかゝふくをおしめり。

——江戸砌

南命山善光寺。　　信州善光寺の宿寺。　　尼寺。　　同所。○青山。　　青山

本尊、中將姫秘佛ゝ、中將姫の簾名號。寺領五石。

當寺は谷中にあり。舊地を今ゟ善光寺前といふ。寶永のころ當所ゟうつる。

——再校江戸砂子

南命山善光寺。

當寺は元祿の比迄谷中ゟあり。寶永の比爰ゟ移る。舊地を今も谷中善光寺前とて、谷中より根津へ下る坂の上ゟて、松平伊豆守殿下屋敷裏門前、今の玉林寺の地面の内ゝ。

——江戸志

谷中村ノ内善光寺上地ト唱ヘテ、高二石九斗餘ノ地アリ。昔善光寺領五石ノ地ナリシカ、元祿年間回祿ニ罹リシ後、青山ノ内ニテ替地ヲ賜ハリ、（善光寺ノ傳ニハ寶永二年ト云。）其地ニ引シカハ、當所ハ御料所トナリ、寛永三年二石餘ヲ裂テ感應寺ニ賜ハリ、餘ハ御料所ナリ。其地二區ニ分レ、一ハ二段三畝二十五歩、谷中善光寺前町ノ向ニアリ。名主仁右衞門カ持地ニシテ、家數七軒及金輪寺ノ境内トナレリ。一ハ松平伊豆守下屋敷ノ南ニテ、東叡山ノ下ニアリ。段別一町二十七歩。

——新編武藏風土記稿

（東叡山支配信州善光寺兼帶所）　青山百人町

南命山善光寺、○中略。　御朱印寺領五石。

開闢起立ゝ譯不詳。往古谷中ゟ有之ゐ所、寶永二年當所ゟ替地被下置ゐ。當時谷中善光寺坂ゝ申ゐ所舊地ニ御座ゐ。

當寺は信州善光寺大本願上人公儀御禮年出府仕罷在ゐ宿寺たるゟよりて無住寺ゟ御座ゐ。

中興開基む、信州善光寺大本願上人百十三世賜紫尼光蓮社心譽上人明觀智善大和尚。享保十二丁未七月廿一日寂。

——青山寺社書上

善光寺前町。

右町名ミ起、草分人ミ名相分不申。尤往古谷中村ミ内ニゐ年代不相知町場ニ相成、青山善光寺引地ニ相成不申以前、同寺前通町屋ニ付、町名善光寺前町ゝ唱い旨、申傳ハ。　——府内備考

南命山善光寺。同所○青山百人町右側ゟあり。信州善光寺本願上人の宿院ゟして、淨土宗尼寺なり。本尊阿彌陀如來ハ、御長一尺五寸。脇士觀音勢至の二菩薩ハ共に一尺つゝあり。稱德天皇の景雲元年八月十五夜法如尼和州當麻の紫雲庵ゟて念佛誦持の頃、信州善光寺の如來來現ありしを拜し奉り、直ゟ一刀三禮にして、其御形を模さる。是則當寺の本尊なり。

當寺ハ永祿元年戊午の創建ゟして、始ハ谷中ゟありしを、中興光蓮社心譽上人明觀大和尚の時、寶永二年台命ゟ依て此地へ遷されけるとなり。○下略。　——江戸名所圖會

善光寺。南命山ト號ス。淨土宗。信州善光寺末。往古谷中ニ在リ。今谷中ニ善光寺坂殘レリ。　——東京府志料

善光寺。本町○青山北町六丁目。ノ北方ニ在リ。○中略。初谷中村ニアリ。寶永二年乙酉此ニ移ル。　——東京府村誌

善光寺坂は、谷中坂町の西畔二十八番地と二十九番地の間より、玉林寺の前を經て北に上る坂路をいふ。方今青山に在る善光寺昔時は此邊に在りしを以て、其名を存せるなり。一名信濃坂といふ。

南命山善光寺は、青山六丁目三十一番地に在り。信濃國善光寺本願上人の宿院ゟして、淨土宗の尼寺なり。○中略。當寺は慶長六年辛巳の創立にして、善光寺第百九世大蓮社光忍圓譽智慶上人、谷中に於て七千五百坪の地を賜り、始て之を建設せり。○下略。　——新撰東京名所圖會

大正院（修驗）

代々木ニ大正院アリ。創建不明ナルモ、慶長六年辛丑○紀元二六一年。稻荷社觀音堂ノ別當トナレリトイヘバ、ソノ以前ノ古寺カ。○新編武藏風土記稿。

大正院。當山修驗。青山鳳閣寺配下。觀林山ト號ス。本尊不動。

稻荷社。

觀音堂。慶長六年大正院此別當トナレリ。

御茶屋。境内西ノ方ニアリ。大獻院殿御遊獵ノ時、御鷹匠頭小野久内奉リテ御造作アリシ御茶屋ナリ。

御成ノ後吳服一重白銀十枚ヲ大正院ニ給ヘリ。御取拂トナリシ後、二間半四方ノ間竹ノ埒ヲ設ケ、其中ニ躑躅三株ヲ植テシルシトス。

天神社。元和三年ノ勸請ナリ。大正院持。　——新編武藏風土記稿

日暮里宗福寺（淨土）

日暮里○荒川區。ノ淨土宗宗福寺ハ僧淨譽ヲ開山トス。淨譽ハ慶長六年辛丑○紀元二六一年。十月ニ示寂セリ。○江戸志。江戸紀聞。新編武藏風土記稿。東京府村誌。東京府志料。

大光山宗福寺光明院。　淨土。　增上寺末。　道クハン山下。

開山清蓮社淨譽上人。　——江戸志、江戸紀聞

本尊、楠阿彌陀。行基作。

宗福寺。淨土宗。芝增上寺末。來迎山光明院ト號ス。本尊彌陀。開山淨譽。慶長六年十月七日寂ス。

天神社。

宗福寺。來迎山ト號ス。淨土宗。芝增上寺末。開山淨譽。慶長六年寂ス。寺地千六百三十四坪。

—新編武藏風土記稿

宗福寺。村○新堀村。ノ中央ニ在リ。寺地東西三十間、南北二十八間、面積八百三十坪。淨土宗。芝增上寺末派。慶長年間僧淨譽開基。

—東京府志料

牟禮眞福寺（法華）

無禮○北多摩郡三鷹村牟禮。ノ法華宗眞福寺ハ僧日榮ヲ開山トス。日榮ハ慶長六年辛丑○紀元二二六一年。十一月ニ示寂セリ。○新編武藏風土記稿。

—東京府村誌

眞福寺。境內除地二段。小名宿ニアリ。日蓮宗。荏原郡池上本門寺ノ末。高梁山ト稱ス。客殿八間ニ五間。南向。本尊ハ三寶ヲ安置ス。開山日榮ハ慶長六年十一月六日寂セリ。

七面堂。客殿ニ向テ右ノ方ニアリ。二間ニ三間半。西ニ向フ。岩上ニ立シ木像ニテ、長一尺三寸許リ。

三十番神社。除地七畝。小名宿ニアリ。社二間ニ三間。東向。番神ハイツレモ小像ナリ。石ノ鳥居ヲ立ツ。當村ノ鎭守ニシテ、眞福寺ノ持ナリ。

—新撰武藏風土記稿

小岩田正眞寺（眞言）

小岩田○江戸川區小岩町四丁目。ノ眞言宗正眞寺ハ僧曉覺ヲ以テ開山トナセリ。寺ハモト八幡社ノ別當タリ。曉覺ハ慶長六年辛丑○紀元二二六一年。ニ寂ス。○新編武藏風土記稿。東京府志村。東京府村誌。

正眞寺。新義眞言宗。下總國國分村金光明寺末。神明山ト號ス。本尊阿彌陀ヲ安ス。開山曉覺。慶長六年寂セリ。

神明社。稻荷香取ヲ相殿トス。

地藏堂。正眞寺持。

八幡社。村○小岩田。ノ鎭守ニテ、正眞寺持。

小岩田村。○中略。正眞寺。眞言宗新義。金光明寺末。

—新編武藏風土記稿

正眞寺。神明山ト號ス。新義眞言宗。下總國國分寺村金光明寺末。開山曉覺。慶長六年寂ス。寺地三百九十坪。

—葛西志

正眞寺。村○小岩田村。ノ中央字土淨野ノ內ニ在リ。寺地東西二十九間、南北十八間六寸、面積五百二十四坪九合。新義眞言宗。下總國國分寺村金光明寺ノ末派ナリ。僧曉覺開山。創建年歷未詳。

—東京府志料

—東京府村誌

貞源寺（淨土）移轉草創

慶長六年辛丑○紀元二二六一年。淨土宗僧春公○慶譽。三河ノ東正寺ヲ江戶ニ移ス。寺地初廓內ニ在リシガ、お茶ノ水ニ移ルトイフ。而モ春公同八年癸卯○紀元二二六三年。其地ニ示寂ストアレバ、此移轉ハ江戶建立直後ナルガ如シ。明暦ノ災後淺草○松葉町。ニ移ル。東照宮○德川家康。ノ名ヲ避ケテ貞源寺ト改稱セシハ、延寶九年辛酉○天和元年、紀元二三四一年。ナリ。○再校江戶砂子。江戶志。江戶惣鹿子。江戶紀聞。淺草寺社書上。東京府志料。東京府誌。新撰東京名所圖會。

貞源寺事蹟

貞源寺

榮廣山貞源寺。　同。○增上寺末。

榮廣山貞源寺。　同。○新寺丁。

開山。正蓮社慶譽上人求然大和尚。　增上寺末。

熊野三社。　——再校江戸砂子、江戸惣鹿子

榮廣山貞源寺東照院。　浄土。表二十四間、裏四十間。　同所。○新寺町。妙昔寺ノナラヒ。

開山、正蓮社慶譽上人求然大和尚。　——江戸志

三州生熊村人。嗣法觀智國師。

熊野三社。

榮廣山東照院貞源寺記錄　——江戸紀聞

一、開山者三州東照寺ニ住寺、權現樣因ニ御歸依一於當國一寺地拜領。本尊幷開山行狀由緒緣起別ヨ卷軸ニ書ニ誌之。卷軸ノ書今ハナシ。

一、當山開基正蓮社慶譽上人慶長六年辛丑權現樣御鷹狩ニ節御直ニ御曲輪ニ內ニゐ五拾間四方拜領仕、起立ニ所、類火ヨ付、台德院樣御代御曲輪外ニ御茶水ニゐ替地拜領、第二世緣譽代建立開發。

一、明曆三丁酉年類火。急火ニ付本堂並書院庫裡權現樣被ニ下置一候大切成東照院ニ額、其外大切ニ書物什物等燒失。

一、明曆三丁酉年六月嚴有院樣御代當淺草ゐ拜領。時ニ住持第五世本譽代當地を起立開發。本堂建立。○中略。

一、當寺起立由緒從ニ公儀一御尋ニ付、由緒書差上候控。

由緒書　榮廣山貞源寺

從ニ權現樣一慶長六辛丑年當寺者寺地拜領仕候。其節ニ住寺者春公と申ゐ。此春公者元三州生熊村ニ罷在ゐ僧ヨて御座ゐ。權現樣三州被ニ爲一成ニ御座一ゐ節ニ住寺春公入ニ御意一度々御前ニ被ニ召出一ゐ。御當地御入國ニ節ゐ可ニ罷出一ゐ、必寺地可ニ被一爲ニ下由、御懇ニ上意有之、其後御當地ゐ罷出ゐ。夫ゑ言上可ニ申傳手も無一之ヨ付、御城曲御鷹狩ニ節於ニ當正寺一權現樣御存知被ニ遊一ゐ彌陀佛持參仕、御目通ゐ罷出ゐ得共、委細御尋被ニ爲一遊、任ニ御約束一御直ニ寺地御曲輪ニ內ニゐ可ニ被一爲ニ下由ヨて、御杖ニゐ分量五拾間四方程拜領仕ゐ。然所ヨ其後御廓ニ外御茶水にて替地被ニ下一ゐ。三拾八年以前酉年正月十八日ニ類火燒失以後、唯今ニ地被ニ下置一ゐ。右ニ地御曲輪ニ內ヨて被ニ下置一ゐ時分者、權現樣御他界拾六年以前ニ儀ニ御座ゐ。夫ゑ今年戌年迄七拾八年ニて御座ゐ。且又權現樣御他界以後增上寺中興貞蓮社源譽觀智國師寺號榮廣山東照院改所以者、當正寺事者權現樣御跡慕御當地ゐ罷出、御直寺地拜領仕ゐ程ニ儀ヨて、東照ニ額被ニ爲一附之ゐ。其後貞源寺と改ゐ所以者、延寶九年辛酉年三月十七日時ニ寺社御奉行松平山城守殿被ニ仰一ゐ間、東叡山御宮近所ニもゐ間、寺號改可ニ然一ニ由被ニ仰一、增上寺二拾九代巖宿上人國師ニ法號形取て貞源寺と改ゐ。此節愚寺由緒ニ儀右山城守殿ゐ申上ゐ處、御聞屆有之、院號ニ東照院と可ニ申由一被ニ仰一ゐ。只今貞源寺境

内者古跡拜領地表間口貳拾四間三尺、裏行四拾間、惣坪數九百八拾六坪半餘と申事ニ御座ハ。以上。右由緒書ニ儀三拾八年以前酉年ニ急火よて書物燒失ハよ付、慥成儀無御座ハ。代々住持申傳へ承ハ分如此ニ御座ハ。

元　祿　七　戊　年　九　月　　榮廣山貞源寺

記錄。開山慶譽上人觀智國師御附法ニ弟子故、當寺ヲ觀智國師開基よ依、崇敬有之、神君上意を以緣□寺ニ被仰付ハ。

增上寺末、武州榮廣山東照院貞源寺。

開山、正蓮社慶譽求然春公和尚と申ハ。

開山春公和尚。生國三州。在所知不申ハ。成就者生熊村當正寺ニ住持ニ申傳ハ。姓父母氏知レ不申ハ。剃髮師範知レ不申ハ。學問檀林附法師知レ不申ハ。御當地ハ罷出、國師ゟ布薩傳受仕、春公國師開山と奉崇敬ハ。

一、行狀ニ儀者自壹人ニメ六時禮讃行道每日八萬返、臨終二三日前迄一日も懈怠無之、晝夜睡眠一日も不仕、午刻壹度食事被致ハ時、男女殊勝存歸依申ハ由、古人共申傳ハ。此義者某度々承傳ハ。還化者神田湯島御茶水、生年號知レ不申ハ。○慶長八癸卯ト過去帳ニハアリ。向月者三月十六日ニハ。寺起立、慶長六辛丑年ゟ元祿九年丙子年迄九拾六年ニハ。移住ニ儀者權現樣ゟ拜領寺地ハ御城曲輪ニ內類火屋敷立。台德院樣御代神田替地拜領申ハ。只今寺地者四拾年以前酉年正月十八日類火、同六月嚴有院樣御代淺草替地拜領屋敷立及兩度申ハ。元祿九年丙子九月十二日拜聞罷出ハ節、柳澤出羽守殿迄由緒書指出し申ハ。元祿九年丙子三月廿七日增上寺時ニ住持了也僧正御代ニ由緒書差出可申ニ由ニて、如此差出、時ニ役者秋圓和尚天陽院吟達和尚月向院右貳通ニ書付常憲院樣御代御尋ニ節公儀ゟ差出之、第六世高譽代增上寺末淺草貞松寺起立、慶長六辛丑年拜領、地元寺地者御直於御廓ニ內拜領仕ハ。其後御用地ニ付被召上、御茶ニ水ニゟ代地被下置ハ由申傳ハ。年數者相知レ不申ハ。五十七年以前酉年正月十八日類燒以後唯今地被下置ハ。寺號古來者東照院と申ハ。譯御座ハゟ延寶九辛酉年三月ゟ改寺號申ハ。正德三癸巳年十二月貞源寺印。

右ニ書付有章院樣御代巳ノ十二月十二日、松平對馬守殿ゟ差出ハ。第七世往譽代開山慶譽上人三州住職、東正寺者當時竹田源次郎殿知行所ニ內ニ寺有之。

表間口貳拾四間三尺、裏行四拾間。

浄土宗　芝增上寺末　貞源寺

一、當寺拜領ニ慶長六年辛丑、月日不知、御鷹狩ニ節御曲輪內ニゟ凡五拾間四方程ニ處拜領、其後年月不知類火セリ。台德院殿御代御茶ノ水ニゟ替地拜領。此年代モ年月不知。第二世緣譽代堂再建。

一、本寺。芝增上寺末となるハ、起立ニ頃神君上意ヲ以緣山末ニ被仰付ハ事。

一、山號。榮廣山。此山號ハ三州ニ東正寺ニ山號ヲ用ヒシニヤ。其由來不詳。

一、院號。東照院。寀初地所拜領ニ節三州東正寺ニ號ヲ以テ東照院ト神君ヨリ名付ル處ナリ。

一、寺號。貞源寺。貞蓮社源譽ト云。此貞源ノ字ヲ撮ミテ貞源寺ト號ス。是ハ延寶九年辛酉嚴宿ヨリ授與セラル。此已前迄ハ寺號ナク院號ノミヲモテ稱ス。前ノ記錄ヲ熟視シテ知ルヘシ。

一、本尊。三尊阿彌陀。作不詳。立像三尺五寸程。開山慶譽三州ヨリ護持セシモノナリ。

一、開山。正蓮社慶譽春公上人求然和尚。慶長八癸卯年三月十六日御茶ノ水ニテ遷化。

右慶譽ハ三州東正寺ノ住職ニテ、神君ノ御歸依ノ僧ナリ。依る江戸ニ於テ一寺起立トハナル。剃髪師範不知。御當地ニる觀智國師ゟ布薩傳受仕ル。

觀智國師ヲ請シテ開山トス。是ハ附法弟子慶譽ノ崇敬ナリ。

今以三州ニ京正寺ト云寺アリト云傳フルヨシ。是モ詳ナラス。三州ノモノヲ見合スヘシ。

一、中興開山。第六世高譽。是ハ緣山廿九世巖宿添翰ヲ以寺號ヲ授與セラルヽ僧故ナリ。

——淺草寺社書上

貞源寺。榮廣山ト號ス。淨土宗。芝增上寺末。慶長六年參河ヨリ移リ、廓内ニテ起立。後御茶ノ水ヘ轉シ、明暦三年此地ヘ再轉ス。開山慶譽。寺地千二百七十四坪。

——東京府志料

貞源寺。町（松葉町）。西ニ在リ。寺地東西四十七間、南北二十七間二尺、面積千四百三十二坪六合五勺。增上寺末派。慶長六年辛丑三河ヨリ廓内ニ移リ、後御茶水ニ轉シ、明暦三年丁酉今ノ地ニ移ル。僧春公開基。僧求山開山。

——東京府誌

貞源寺ハ同町（松葉町）。九十四番地に在り。榮廣山と號す。淨土宗にして、芝增上寺の末なり。開山は求然大和尚とす。慶長六年三河國より江戸廓内に移り、後御茶の水に轉し、明暦三年現地に移れり。

——新撰東京名所圖會

玉窓寺（禪）草創

同年（慶長六年辛丑、紀元二二六一年。）六月、川口近次（長三郎。）室青山氏卒ス。青山忠俊（伯耆守。）乃爲ニ其邸俊

（赤坂表町三丁目。）ヲ捐テ禪刹ヲ創建シ、僧麟曹ヲ招キ、法諡ヲ採リテ玉窓寺ト稱ス。麟曹師伊天（頭室。）ヲ開山ニ推ス。明治十二年己卯四月現地（南町二丁目。）ニ移ル。（江戸砂子。江戸志。江戸紀聞。青山寺社書上。續府内備考。御府内寺社帳。江戸名所圖會。東京府志料。東京府誌。東京通志。新撰東京名所圖會。）

玉窓寺

玉窓寺。　　青松末。　　青山。

——江戸砂子

崑崙山玉窓寺。　　同。（禪。）　　青松寺末。　　同所。（青山。）

寺傳ニ云、開山普光禪師。開基ハ青山家ニ。川口長三郎近次室ハ青山伯耆守忠俊の女ニ。則當寺開基ヨして、慶長六年六月廿日歿ス。法號玉窓秀珍大姉と云。

——江戸志

崑崙山玉窓寺。　禪。　青松寺末。　表六十間、　裏三十間。　青山。

開山、普光禪師。慶長年中起立。

開基、川口長三郎近次妻。（青山伯耆守忠俊女。）慶長六年辛丑六月廿日歿。法名玉窓秀珍大姉。

寺中、喜福院。

——江戸紀聞

貝塚青松寺末、青山禪、曹洞宗　崑崙山玉窓寺

一、境内寄附地。表口三十間、長サ六十間。此坪數千八百坪餘。

起立ミ儀者、慶長六辛丑年青山下野守先祖青山播摩守忠成息女玉窓秀珍大禪定尼卒去ニ付、下屋敷ミ内寺地被除置御送葬有之、始號玉窓寺。尤慶長九甲辰年播磨守忠成室崇梁院殿御志願ニ付、位牌所ニ下屋敷内被除置、此時御公儀ゟ者御屆有之ハ趣御座ハ。其後寛永十五年寅二月廿一日大猷院様御鷹野還御ミ砌、於玉窓寺被爲遊御辨當、還御以後土井大炊頭殿松平伊豆守殿被成御出、御取次ミ蒙御上意、此寺ゟ被爲掛御腰ハニ付、向後拜領地同意ニ被仰付、難有奉存ハ様被仰渡ハ。

但し右境内坪數ミ内、天和二戌年十一月紀伊様御屋敷堺ミ場所ニ有御同家御屋敷ニ入、右續地所ニ有替地被下ミ儀有之ハ。尤其節奉願ハ趣ニ御座ハ。

一、開山座像、長貳尺九寸。

勅特賜普光禪師頭室伊天大和尚。遠州木原ミ人。姓穂積氏。鈴木ミ族。幼歳依同州海藏寺剃髮。後青山氏創玉窓寺聘爲開山之祖。晩住江戸貝塚萬年山青松寺示寂。壽七十八歳。則青松寺八世ニ有御座ハ。慶長五庚子年七月朔日。

一、二世一峯麟曹和尚。

右青山播磨守忠成子息伯耆守忠俊、青松寺九世一峯ニ曹和尚御歸依僧ニ付、當寺ゟ招待有之、青松寺八世普光禪師本師事故勸請爲開山第一世、麟曹和尚を爲第二世。此時法地相成ハ。右俗姓生國相知不申ハ。元和九癸亥十一月八日示寂。

一、開基。玉窓秀珍大禪定尼。

右青山播磨守忠成息女、川口家初代川口長三郎近次室、川口左門後長三郎正武母。慶長六辛丑年六月廿六日。

本堂。間口七間半、奥行六間半。

本尊、釋迦如來。木座像。

脇立、文殊、普賢。各木座像。

達磨大師。木座像、長三尺一寸。

大權菩薩。右同斷。

達磨大師。木立像、長一尺八寸。

右ハ天笠ゟ相渡ハ由ニ有、紀州家より御納ミ趣申傳ハヘ共、延享二丑年類燒ミ砌、記錄燒失、年月相知不申ハ。尤平日は秘藏仕、毎年十月五日客殿ゟ迎請供養仕ハ。

一、大鐘。鐘樓堂、九尺四方。

鐘銘並序

鐘之爲法器其來也尚矣。佛府舊物法輪所由轉、而祀庭樂器規則所以節。蓋萬象之有體用相依而互顯。物有體無用者天下末之末也。休顯用則一器一具不無功用於鐘之皷也、爾以時觸著則發天機以警寤寐齊靜躁。其用於戲偉哉。已既非閑家具、何爲駢駘長物。聞聲之悟道皆於是五々圓通歸一撥、故鑄焉、永備玉窓法寶、以傳不朽而已。

銘曰

宇宙之東　有一梵宮　巨鐘新鑄　功窮衆工　外闢匹偶　中虛有神

關東首都時代

響應百谷　聲蕩諸塵　耳來絶路　杵發告時　鏗々無頗　一一一六

十方破夢　一槌打心　玉窓月轉　雲間龍吟　坦々如砥

大惠院殿前二品亞相普觀徹性大居士

觀樹院殿了月日照大姉

眞性院殿妙惠日善大姉

芳林院殿妙設日英大姉

妙相院殿深達日底大姉

眞如院殿

施主　松平庄九郎忠鄕母眞壽院

江左之蘭若崑崗之山主

第十辛翁　峯州叟　謹記

——青山寺社書上

嵗寶曆八戊寅年二月吉日

鎭守稻荷社。（間口六間、奥行九尺。）　神體幣束。

觀音堂。（間口六間、奥行四間。）　但衆寮ニ相用申候。

正觀世音菩薩。（長二寸八分。中將姫作、香作。）

緣起

古ニ曰、法ひとりおこらす、人によりておこるとかん。誠ヨ印ある事也。人王四十五代聖武天皇御宇、

横荻の右大臣豐成卿三十茂過て一子なき茂うれへて、神社に祈をともをるしなく、或時和州長谷寺に一七日籠ヲ、夢ヒ告ありて女子を設ヲて、中將姫と名つく。歳月を重て、容顏后姫といへとも及へからに。父母の寵愛淺らに。其後后妃に立たもふ為きよし内勅のおしゐ有けれハ、雲の上ヨも三界火宅の苦しみをまぬかるよふかしと、ひそかに館をヰのひ出て、當麻寺におゐて、十六歳の夏剃髪受戒して善心尼と號し、後ヨ改めて法如尼といふ。一千卷の稱讃淨土經を壹年ヨ書寫し畢ぬ。凡一日三卷のつもをに當るヽ。此功德をもつて、生身ヒ彌陀觀世音を拜せんとて、一七日水食を斷て堂中ニ籠居す。若我此願成就せすんハ堂中に死せんとて、一心に祈念す。六月十一日よヲ十五日に至りて、日中過て西方よヲ壹人の老尼來りて曰、我極樂の壯嚴を君に拜さしめん、百駄の蓮莖を調為來給へといふ。依て此よし父豐成ヒ方へ申ヲ。則二三日ヒ間ヨ百駄の蓮莖を當麻に送る。兩尼其糸茂取て、新ヨ井を穿て五色の色を出ヲ。同廿六日ヒ日中過の頃端嚴微妙の少女來て曰、糸かるやいなや、尤よしと云ふ。今夕織為しとて機具茂來ヲ。臺の乾の隅ヨ於て織る。又法如尼三把の藁を貳升の油ヨひさして、亥子丑ミ刻ヒ間に、壹丈五尺ヒ曼陀羅を調へ、織女は菩薩の形ちと化して、光明音樂紫雲ニ乘して空に歸り消給ふ。老尼此曼陀羅を織て法如尼の袖茂ひかへ念頃に教て曰、我は極樂ヒあるし彌陀如來ヽ、前にか為り玉ふは觀音菩薩なヲ、謹でおゐたる事なられとて、天華異香金色の如來と現して、二上ヶ嶽ヨ消え玉ふ。されハ父豐成其むかし長谷寺ヒ觀世音ヨ祈り我を設ヨりと聞ハ、深く感して、未世濁惡の衆生わけて女人ヨ五障三從の諸さむり多きものなきは、末代結緣ヒ爲とて、檜ヒ葉に大悲菩薩の寶號を寫して灰となし、前ヨ拜せし生身の觀音の御形をうつし作らせたもう。世ヨ稀なる寶像なり。此尊像大士は其後代々禁裡に秘藏し給ふ。